

34-2664



1200501249657

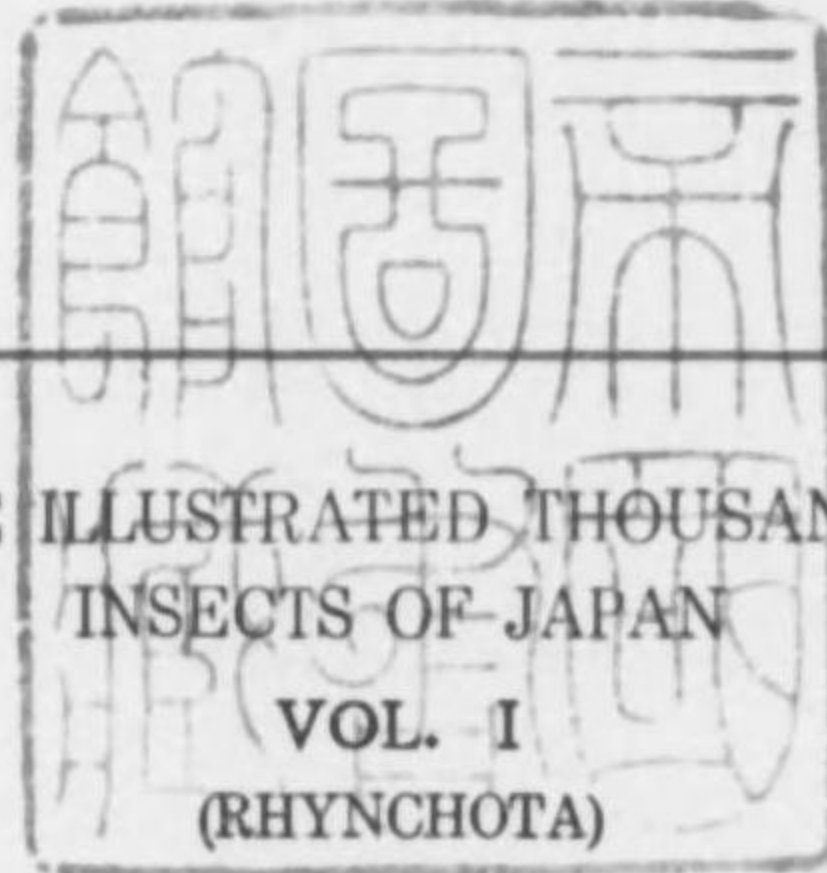
4

66x



始





THE ILLUSTRATED THOUSAND  
INSECTS OF JAPAN  
VOL. I  
(RHYNCHOTA)

1930

訂增

日本千蟲圖解

第壹卷  
有吻目の部

農理學博士  
松村松年著

東京刀江書院



34-266x  
5  
606-57

## 自序

- 一、正續新の日本千蟲圖解は長時絶版となり居り、これが爲め、不便を被りたること少なくなかつた。幸、今日これを訂正増補して、廣く社會に發表するの機會を得たるは、著者の深く欣幸とする所である。
- 二、元、日本千蟲圖解は四冊にて完了するの見込みなりしも、昆蟲數の多きが爲め、遂に今日迄に十二冊を刊行し、その内に三千種以上の昆蟲を圖解したのである。然るに、その内に色々の昆蟲の錯雜し居るが爲め、容易にその欲する昆蟲の在所を發見することが出來ないのである。故に本書は、その不便を除かんが爲め、正日本昆蟲圖解第一、第二及び新千蟲圖解第一に説明せる有物目の全部を摘出して一卷となし、十六枚の圖版によりて合計三百十九種の有物昆蟲のみを説明したものである。
- 三、正日本千蟲圖解第一卷は明治三十七年、同第二卷は同三十八年、新日本千蟲圖解は大正二年に發表せるものなるが故に、その學名にも大に訂正を要すべきものがある。殊にその屬名の如きは、その研究の進むに隨ひ、その訂正は免かれないのである。而して著者は今回、本書の學名に訂正を要するものは全部訂正して置いた積りである。
- 四、著者の正、新日本千蟲圖解に發表せる有物目の昆蟲の新種及び新屬の説明は全部、英文にて卷尾に掲げて置いた。

五、本書の説明は必ずしも、正、新日本千蟲圖解に説明せる原文と同一なるものでない。而して今回その誤れる所を訂正し、その説明の重複せるものを除き、その説明の足らざる所を増補して置いた。

六、他の十二巻の日本千蟲圖解に説明せる昆蟲は全部、序を追ふて發表し、七巻を以て完成することにした。即ち第二巻は蜂の部、第三巻は蝶の部、第四巻は蛾の部、第五巻は甲蟲の部、第六巻は蠅の部、第七巻は残れる全部の昆蟲を記載する積りである。

七、本書は今回、一千部を限りて刊行することにした。蓋し十年を一期として、その學名及び説明を訂正するの必要あるを認め、たからである。

昭和五年三月

於 札幌  
松 村 松 年 識

訂 增 日 本 千 蟲 圖 解

第 一 卷 有 吻 目 之 部

理 學 博 士 農 學 博 士

松 村 松 年

(1) ミンミンゼミ (妬螻) 正千蟲一、二〇六頁 (N. 188) (第一圖) (↑)

學名 *Osmodyrpinana maculaticollis* Matsch.

昆蟲學上の地位、蟬科 (Cicadidae) Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVII, f. 1, ♂, p. 206, N. 188 (1904)

體は黒色、緑紋を裝ふ。頭は小、頭には四緑紋を有す。觸角は黒色。口吻は長くして、後肢の基部を越え、末端黒色。前胸背の斑紋は種類により異れども、先づ中央に緑白の縦線を具へ、其の兩側に各二緑紋あり。複眼の後方にも各一個若くは二個の緑紋あり。後縁の中央及び兩側にある一紋も亦綠色。中胸背大にして、中央の四乃至六個の小紋及び兩側の大紋は綠色。後縁は白粉に被はれ、X字隆起は緑白、其中央及び兩側の二點は黒色。翅は透明。前翅基部の翅脈は黄褐、末端にあるものは黒色、前縁の基部は綠色、横脈には各楕圓形の一黒紋を裝ひ、外縁脈の末端にも小形の一黒紋あり。後翅は小、胸下及び脚は綠色。腿節に黒紋及び黒條を具へ、脛節及び跗節の大部は黒色。但し後跗節の中央は黄色、中後脛節の基部は綠色。雄の腹瓣(發音器を蓋へるもの)黒色、基部に緑白の二大紋あり。腹部は黒色、各節末端の黄色を呈せるものあり。雌腹部は短かし。此は本邦、普通なる種類にして、特に深山に多し。東京地方にありては、平原にも多し。ミン／＼と鳴啣するを以て此名あり。體長(♂)一寸二分、(♀)一寸内外。翅の開張(♂)二寸八分内外、(♀)三寸九分内外。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(2) クマゼシ(蚱蟬) 正千蟲一。二〇七頁 (N. 159) (第一圖(2)♀)

學名 *Cryptotympana facialis* Wk. (*pustulata* Mats. n. sp. Fabr.)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap., I, pl. XVII, f. 2, ♀, p. 207, N. 189 (1904)

體は光澤ある黒色。頭の前縁に三黄紋ありて、中央にあるものは細線となり顔の中央に達す。口吻は黒色にして短かし。前胸背は頭部と其の幅を等しくし、兩側に一黄紋あれども、其の紋の判然せざるものあり。灰黄の短毛を密生す。中胸背の基部にある縦溝は赤褐。翅は透明、翅脈は黄色若くは綠色、外縁にあるものは濃色、前縁の外半にあるものは黒色。脚は黄色、前肢の大部は黒色、中後の兩肢には黒條あり。中後兩胸片の兩側に白粉を散在す。雄の腹瓣は橙黄色にして、外側は略ぼ端直なれども、内方は斜に截断せられたるの觀をなす。第二腹節の兩側に白帯を具へ、腹下の中央に黄色の部分装ふ。尾節の兩側に橙黄紋あり。但し雌にありては此等の紋は暗黄。此は九州、四國及び中國に普通なる種類なれども、東京以北に産するものあるを見ず。其の鳴聲はシャ〜〜に近し。體長(♂)一吋四分五厘乃至一吋五分五厘。翅の開張三吋八分乃至四吋二分。

分布——本州、四國、九州、沖繩、臺灣。

(3) アブラゼシ(鳴蜩) 正千蟲一。二〇七頁 (N. 190) (第一圖(3)♂)

學名 *Graptopsaltria colorata* Stål

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap., I, pl. XVII, f. 3, ♂, p. 207, N. 190 (1904)

體は黒色。頭頂の中央に二黄紋を具へ、兩側には小形の各一長紋あり。觸角は暗黄、基部及び末端は黒褐。口吻は淡黄、末端は黒色、後肢の基節外に達す。前胸背に大形の二黄褐紋を装ひ、兩縁も亦同色なり。X字隆起は黄褐、其の中央及び前縁は黒色、其の周圍に白粉を散布す。翅は黄褐、不透明、凹凸を具へ、外縁の大部は黒褐、外縁室の外方に各一黄白紋を装ひ、脈黄色。後翅は前翅より少しく濃色。脚は黄色、黄條を装ふ。腹瓣は短、卵形を呈し、腹下は暗黄、白粉を散布す。雄の尾節は上方に曲り、兩側に棘狀の二突起を有す。此は本邦何れの地方にも普通なる種類にして、主に日暮に鳴聲す。稍々ギ〜ギ〜の音を發す。體長(♂)一吋二分乃至一吋二分五厘。翅の開張三吋四分乃至三吋六分。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(4) ツクツクボウシ(寒蟬) 正千蟲一。二〇九頁 (N. 191) (第一圖(4)♂)

學名 *Meinuna* (*Cosmopsaltria*) *opulifera* Wk.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap., I, pl. XVII, f. 4, ♂, p. 208, N. 191 (1904)

雄の體は黒色、黄綠紋を装ふ。後頭に四紋ありて、一列に横列す。前頭に一横紋を装ひ、額にも一紋あり。口吻黄色にして、末端は黒色。前胸背には不定紋多し。中胸背に四縦條ありて、兩側にあるものは短かく、中央にあるものは長く、其の兩端は細く、尙、其の中央に更に二小縦紋あり。X字隆起は黄綠、中央黒色。翅は透明、翅脈は赤褐、外縁にあるものは暗褐。脚は黄綠、黒色の紋條あり。腹瓣は黒色、稍や三角形にして少しく膨起す。腹背は黄白の光澤ある短毛を装ひ、第一及び第二腹節の後縁は黄綠。雌にては、黄綠の斑紋大形となりて、寧ろ其地色をなせり。産卵管は甚だ長く、遙尾端より突出す。退化せる腹瓣は黄綠、其の外縁は黒色。腹下部は黄綠、各

節の後縁は黒色。此は本邦固有の種類にして、何れの地に到るもツク／＼ゴウシの鳴聲を聞き得べし。晩夏出づるもの最も多し。體長(♂)九分五厘内外、(♀)八分五厘(産卵管を除き)。翅の開張(♂)二寸六分乃至二寸七分。分布——北海道、本州、四國、九州、臺灣。

(5) ハルゼシ 正千蟲一。二〇九頁(N. 133) (第一圖(5)↑)

學名 *Terpnosia vacua* Oliv. var. *nigra* Kato (pyerri Dist.)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVII, f. 5, ♂, p. 209, N. 192 (1904)

體黒色、殆んど斑紋を缺き、金色の短毛を装ふ。額は甚しく膨起し、其の兩側及び口吻は黄色、末端は黒色。中胸背にある隆起の兩側は黄褐。翅は透明、脈は黒褐、外縁室に於ける横脈上に卵形の暗色紋あり。脚は暗黄と黒褐と相半ばし、腿節の末端は黄色。腹瓣は小にして短かく、灰色、基部は暗褐。腹背は黒色なれども、兩側に淡き黄褐紋を装ふ。腹下部は暗黄、尾節は甚だ小。此は東北地方に餘り普通ならざる種類なれども、中國には稀ならず。多く松林にありて鳴聲す、故に「まつせみ」の名あり。體長(♂)一寸内外。翅の開張二寸二分内外。

分布——本州、四國、九州。

(6) エゾハルゼシ 正千蟲一。二〇九頁(N. 193) (第一圖(6)↑)

學名 *Yezoterpnosia nigricosta* Motsch.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVII, f. 6, ♂, p. 209, N. 193 (1904)

體は黒色、縁紋を装ふ。頭は小にして、前頭に一小紋あり。觸角の上部にある突起は末端にて黄色を呈す。口

吻は黄色、末端は黒色。前胸背の後縁は黄緑、其の兩側に各、二黒紋を具へ、中央には紡錘状の一縦紋を装ひ、兩側に各三紋ありて、内側にあるもの最も小、但し此等の紋は變化す。中胸背の兩側に各、一個の大紋を具へ、中央に黄紋あれども判然せず。X字隆起は綠色、其前方黄色にして、黒紋あり。翅は透明、翅脈は翅底の小半に於て綠色を呈し、外縁の大部は黒色、外縁室の横脈に楕圓形の黒紋を具へ、又、外縁脈の末端に同色なる卵形の小紋あり。前縁は綠色なれども、其の下方及び前側は黒色、又、前縁の中央に接する翅脈は其の部分に於て黄白を呈す。腹瓣は黒褐、周縁は暗黄、銀色の短毛を密生す。腹部は黄色兩側に黒紋を装ひ、最後の二節は黒色。脚は前種と略ぼ同様、黄色と黒褐と相半ばす。中後の兩脛節黄色にして、外側の一條及び基部は黒色。雌にありては遙に小さく、前胸背の縁紋は大にして、殆んど、地色をなし、腹背には銀色の短毛を密生す。此は北海道及び青森地方に普通なる種類にして、早春ギユウギギヤーの鳴聲を聞かしむ。體長(♂)一寸八分内外、(♀)八分内外。分布——北海道、本州。

(7) コエゾゼシ 正千蟲一。二二二頁(N. 196) (第一圖(7)↑)

學名 *Cicada bihamata* Motsch.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVII, f. 7, ♂, p. 212, N. 196 (1904)

體は黒色。後頭の兩側に黄紋を具へ、單眼の兩側に各一個の黄點あり。尙、前頭には四黄紋ありて、中央にあるものは縦列す。口吻は黄色、短かくして、漸く中肢の基節に達し、其の末端は黒色。前胸背の周縁は黄色、後縁の兩側に、更に黒條及び黒紋を具へ、中央に黄色の縦條を走らし、其の兩側は黒色、其外側に大なる卵形の一赤褐紋を装ふ。中胸背の兩側の縦條及び中央にあるW字形の一紋は黄色。X字隆起は黄色、中央は黒色。翅

透明、翅底脈の三分の一は黄色若くは少しく緑色を帯び、翅端の三分の二は黒色、第一及び第二外縁脈の横脈は其兩側に於て少しく黒色を帯ぶ。脚は赤褐、黒紋を具へ、腿節及び脛節の末端並に後脛節は黄色。腹瓣は黄白にして、長く、中央にて縊れ、末端は圓し。腹背には金色の短毛を裝ひ、兩側には白粉を散布し、尾端の兩側に黄紋あり。此は札幌地方に普通なる種類なれども、本州には少なし。體長(♂)一寸一分内外。翅の開張三寸一分内外。これはギギギと續けて鳴啣す。

分布——北海道、本州。

(8) エゾゼミ 正千蟲一。二一三頁 (N. 197) (第一圖(8))

學名 *Cyuda japonica* Kato (flammata Mats. nec Dist.)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVII, f. 8, ♂, p. 213, N. 197 (1904)

前種に酷似せる種類にして、其異なる所は左の如し。

體は遙に大きく、腹背基部の兩側にある大紋、第七節に於ける兩側の後縁及び腹瓣は橙黄色。後者は中央にて少しく縊れ、末端は圓しと雖も、其の内方にて少しく斜傾す。腹下部に於ける尾端の二節は同じく橙黄色。此は札幌地方に普通なる種類にして、八九月頃出づるもの多し。東北地方にも産すれども稀なり。體長(♂)一寸三分五厘。翅の開張三寸八分内外。聲は前種に似れども大なり。

分布——北海道、本州、四國。

(9) ヒグラシ 正千蟲一。二一三頁 (N. 197) (第一圖(9))

學名 *Tanna nipponensis* Dist.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVII, f. 9, ♂, p. 213, N. 197 (1904)

體は黄褐、頭及び顔は綠色、單眼の周圍、其兩側の斜條及び觸角下の一條は黒色。口吻は淡黄、末端は黒色。前胸背の後縁は淡緑、兩側に黒紋ありて、中央には棍棒狀の緑縦線を裝ふ。中胸背は黒色、兩側に綠色の大紋ありて、其の内方は黄褐、中央には黄緑なるU字形の二紋を並列し、其の外側の末端は二分し、内側の末端は半圓形に膨大す。X字隆起は黄色、前縁に黒紋を具へ、兩側綠色。翅は透明、翅脈は黄色、中央にて黒色、尙、前縁に接する脈は白色、外縁室の横脈には楕圓形の黒紋を具へ、外縁脈の末端に圓形の黒紋あり。脚は淡黄、少しく綠色を帯び、前脛節は黄褐、中後脛節の基部は黒褐。腹瓣は黄白、少しく綠色を帯び、形小なり。腹下部は灰色、白粉を裝ひ、第一及び第二節の兩側に疣狀の一突起を具へ、第二節のものは、雌にては遙に小にして、腹下部に疣狀の突起を缺き、腹背には銀色の短毛を密生す。此は北海道を除くの外、何れの地方にも普通なる種類にして、殊に山間に多し。其の鳴聲は「カナ〜」に聞ゆ。體長(♂)一寸二分内外、(♀)九分内外。翅の開張(♂)三寸二分内外(♀)三寸内外。

分布——本州、四國、九州。

(10) ニイニイゼミ (蟪蛄) 正千蟲一。二一〇頁 (N. 195) (第一圖(10))

學名 *Platypleura kaempferi* F.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVII, f. 10, ♂, p. 210, N. 195 (1904)

體は黄緑、黒條を裝ふ。後頭には二黒紋を具へ、單眼の前方に太き横條あり。前頭の觸角着部に各、一小紋

あり。口吻は甚だ長く、雌にありては腹瓣を越ゆ。前胸背の兩側は三角形をなして突出し、中央には縦條ありて、之れは後縁にて膨大す。兩側にも數個の綠紋を具へ、中胸背の前縁より太き四大紋を出し、中央の二紋は小にして、圓錐形を呈し、中央には菱狀紋あり。翅脈は黃綠。後翅は黒色、後縁及び外縁は白色。脚の大部黃褐にして、黃線及び黒褐紋あり。腹瓣廣くして短かく、灰黃。各腹節の後縁は黃綠を帶ぶ。短形の種類なり。夏日、何れの地に至るも普通なり。稍やニーの音を發す。體長♂(♀)七分五厘内外。翅の間張二寸三分内外。  
分布——北海道、本州、四國、九州、沖繩、臺灣、支那。

(11) タイワンクマゼミ 新千蟲一。八一頁 (N. 126) (第二圖 (1) (♂))

學名 *Cryptotympana holsti* Dist.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. X, f. 1, ♂, p. 81, N. 126 (1913)

體は黒色。單眼前方の一紋、額の兩側、口吻の基部、前胸背の兩側紋、中胸背兩側の二紋及び X 字隆起の中央は黃褐。前翅は黒色、末端の半ば以上は透明、各室に判然せざる暗褐の縦條を裝ひ、脈は黃褐。後翅は暗褐、末端の半分は透明。體下、脚及び腹瓣は黒色。腿節の中央、腹瓣の外側、腹面の兩側及び中央の二縱紋は黃褐。腹瓣の後縁は三角形をなす。體長一寸七分。間張四寸二分。此は臺灣恒春地方に産すれども稀なり。  
分布——臺灣(恒春、埔里社)。

(12) リウキウクマゼミ 新千蟲一。八五頁 (N. 127) (第二圖 (2) (♂))

學名 *Cryptotympana okinawana* Mats. (*facialis* Mats. nec Wlk.)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. X, f. 2, ♂, p. 85, N. 127 (1913)

體は黒色、黄色の短毛多し。前頭の中央紋及び複眼内側の一紋、額の兩側、額片の中央及び口吻の基部は黃褐。前翅は透明、脈は綠色、翅端の三分の一は暗色、後縁及び翅底脈は黄色。第二及び第三腹節に白紋ありて、第三節にあるものは長し。胸下及び腹瓣の外側に白粉多し。後者は橙黄色、後縁は細まり、圓し。前中の兩肢は暗褐、黃褐條を具へ、後肢は黃褐、褐色條を裝ふ。腹面に白粉多く、中央は黃褐、生殖瓣の兩側に黃褐の一紋あり。體長一寸六分。間張四寸一分。此は沖繩、八重山に稀ならず。タマゼミに酷似すれども、腹部の白帶廣きを以て容易に區別し得べし。

分布——沖繩(八重山、那覇)。

(13) クロイハゼミ 新千蟲一。八五頁 (N. 128) (第二圖 (3) (♀))

學名 *Nahasemia* (*Prasin*) *kuriovae* Mats. (英文一頁參照)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. X, f. 3, ♀, p. 85, N. 128 (1913)

體は綠黃(生時は定めて、綠色なるべし)、斑紋を缺く。單眼は赤色。觸角は基部を除き黃褐。額の中央に一縦溝を裝ふ。翅は透明、少しく黄色を帶び、脈は黄色、前縁及び翅底脈は綠色。體下及び脚は黄色、斑紋を缺く。最後の腹面節は後縁にて、三角形に列らる。産卵管長く、尾端より遙に突出す。體長六分五厘。間張一寸七分。此は沖繩にて黒岩恒氏の採集せるものなるが、稀なるが如し。

分布——沖繩(那覇)。



(14) ネグロクサゼミ 新千蟲二。八六頁 (N. 129) (第二圖 (4) (♂))

學名 *Mogannia formosana* Mats.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. X, l. 4, ♀, p. 86, N. 129 (1913)

體は黒色、金色の鱗毛を密生す。前頭は三角形をなして突出す。觸角は黄色、基部は黒色。額の下方は黄白。前翅底の半部は黒色、但し亞前縁室は透明にして、少しく黄色を帯び、外半は透明、脈は綠色、外半の脈は暗色。後翅は透明、脈は暗褐。體下、脚及び腹瓣は黒褐、黄褐の短毛及び白色の鱗毛多し。中後兩肢の脛節(中脛節の末端を除き)及び跗節(末端を除き)は黄白。腹瓣は楕圓形、其の外側は弓狀に彎曲す。腹部は短大、中央にて幅廣し。體長五分五厘。開張一寸四分。此は臺灣恒春地方に稀ならず。

分布——臺灣(恒春)。

(15) ルリクサゼミ 新千蟲一。八七頁 (N. 130) (第二圖 (5) (♂))

學名 *Mogannia cyanea* Wk.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. X, l. 5, ♀, p. 87, N. 130 (1913)

體は黒藍色、黒毛多し。前頭は長く、三角形をなして突出す。觸角は黄色、但し第一節は黒色、前胸背の兩側には大形の點刻を粗布す。中胸背及び腹部には稍や點刻を缺く。前翅底の半部は脈共に橙黄色、外半は透明、脈は暗黄、中央に近く暗褐の一帶を裝ふ。後翅は透明、前縁及び翅底は橙黄色、脈は翅底の半部にて橙黄色、外半にて暗褐。體下、脚及び腹瓣は黒藍色。後者は長楕圓形にして、光澤を缺き、褐色の短毛多く、外側は弓狀を

なして彎曲す。體長五分五厘。開張一寸四分。此は臺灣、埔里社地方に産すれども稀なり。

分布——臺灣、支那、印度。

(16) キイロクサゼミ 新千蟲一。八七頁 (N. 131) (第二圖 (6) (♂))

學名 *Mogannia basalis* Mats. (英文一頁参照)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. X, l. 6, ♀, p. 88, N. 131 (1913)

體は黄褐。後頭、單眼の部分及び前胸背は暗褐。前胸中央の一縦條、凹陥部並に周縁は黄色。中胸背に四縦紋ありて、兩側にあるものは長し。第二及び第三腹背節の兩側に黒紋を裝ふ。前翅は透明、翅底の半部は脈と共に黄色、外半は稍や無色、脈は暗褐。後翅の内縁に暗色の二縦條あり。體下、脚及び腹瓣は黄褐、頰片の内側紋、脚基節の一縦紋及び氣門は暗色。跗節端及び爪の末端は暗褐。腹瓣は稍や半圓形を呈し、外側は弓狀をなして彎曲す。體長六分。開張一寸三分。此は臺灣大目降にて石田昌人氏の採集せるものなり。

分布——臺灣(臺南)。

(17) ハグロルリクサゼミ 新千蟲一。八八頁 (N. 132) (第二圖 (7) (♂))

學名 *Mogannia nigrocyanea* Mats. (英文二頁参照)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. X, l. 7, ♀, p. 89, N. 132 (1913)

十五號ルリクサゼミ (*M. cyanea* Wk.) に酷似すれども、其の異なる所は左の如し。

- 一、前翅底の半部は黒色、脈は基部にて黄褐。翅端の半部は不透明、光線の工合により紫藍色を現はす。脈は暗色。
  - 二、後翅底に黄色部あれども、其の面積遙かに少なく、脈は暗色、翅底にて少しく黄色を呈す。
  - 三、腹部は明に廣く、生殖瓣は終腹面節より少しく短かく、後縁は圓形をなす。之れに反して、**ルリクサゼ**にありては、生殖瓣は終節よりも長く、後縁に小凹陥あり。體長五分。開張一寸三分。此は臺灣、埔里社に捕獲せられたる珍種なり。
- 分布——臺灣(埔里社)。

(18) **クサゼ** **ミ** 新千蟲一。九〇頁 (N. 133) (第二圖(8)♂)

學名 *Moguntia helios* WK.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Addl. I, pl. X, f. 8, ♀, p. 90, N. 133 (1913)

體は黄緑。各單眼の後方に黒紋ありて、前方にある紋は小なり。前胸背の兩側に大なる圓形の黄褐紋ありて、其の内側は黒色。中胸背に黒色の四縦條ありて、中央の二條は短かし。X字隆起の前方に暗色の二點あれども、餘り判然せず。翅透明、脈は緑色、但し翅端脈は黒褐。體下、脚並に腹瓣は黄色にして、少しく綠色を帯ぶ。前腿節の一縦條及び跗節の末端は暗褐。腹背の兩側に暗色紋を列ぬ。體長(♂)五分——五分五厘。此は臺灣に普通なる種類にして、其の鳴聲は蠡斯科の或ものに酷似し、稍やチツチツに似たり。

分布——臺灣、南方支那、印度。

(19) **イハサキクサゼ** **ミ** 新千蟲九〇頁 (N. 134) (第二圖(9)♂)

學名 *Moguntia iwasaki* Mats. (英文二頁參照)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Addl. I, pl. X, f. 9, ♂, p. 91, N. 134 (1913)

體は黒色、天鵞絨様の黄短毛多し。觸角上の一紋、觸角の基部、前胸背の兩側及び後縁の外側(稀に前縁に近く一紋を有するものあり)、腹部の兩側(基部に近き暗色紋を除き)、體下、脚及び腹瓣は淡黄褐。翅は透明、脈は緑色、但し翅端脈は暗褐。鼓膜の周縁は暗色。脛節の末端紋は暗色、但し前脛節にあるものは大なり。跗節の末端は少しく暗色を帯ぶ。體長(♂)五分。此は岩崎卓彌氏の採集に係るものにして、沖繩八重山地方に普通なるが如し。

分布——沖繩(八重山)。

(20) **ハグロゼ** **ミ** 新千蟲一。九一頁 (N. 135) (第二圖(10)♀)

學名 *Huechys sanguinea* Deg.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Addl. I, pl. X, f. 10, ♀, p. 91, N. 135 (1913)

體は黒色、黒毛多し。前頭、額、中胸背の二大紋及び腹部(基部を除き)は赤血色。觸角は黄色、基節は黒色。翅及び脈は黒色、横皺多し。體下、脚及び腹瓣は黒色。腹瓣は短小にして、稍や圓形を呈し、中央にて廣く相分離す。腹面は基部を除き赤血色。雌の終節の後縁は鋭角をなして、深く列らる。體長(♀)六分五厘——八分。開張一寸七分——二寸。此は臺灣至る處に普通なり。その鳴聲、恰も蠡斯科の昆蟲のそれに似たり。

分布——臺灣、支那、比律賓、馬來、瓜哇、印度。

(21) アシアカハグロゼミ 新千蟲一。九二頁 (N. 136) (第二圖 (11) (♀))

學名 *Euleropteryx formosanus* Schmidt (*splendidula* Mats. nec F.)  
昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. X f. 11, ♀, p. 92, N. 136 (1913)

體は黒色。胸背の前後縁及び中央の縦條、中胸背の縦條並に前翅の中央は黄白。觸角は淡黄褐。顔、前胸背の兩側、X字隆起(但し中央に一黒紋あり)、體下、脚、腹瓣及び腹部は黄赤。前翅は黒色、光線の工合により紫紺色を現はす。後翅は無色透明、前縁は少しく暗褐色を帯ぶ。脚基節の大部分は暗褐色。腹瓣は短小にして、稍や卵形をなす。前腿部の棘状突起は少しく暗褐色を帯ぶ。體長(♂)六分——七分。開張一寸五分——一寸九分。此は臺灣に普通なれども、前種に比すれば遙かに少數なり。

分布——臺灣。

(22) タイワンアブラゼミ 新千蟲一。七一頁 (N. 113) (第三圖 (1) (♂))

學名 *Formokoseun* (Tosenu) siebolmi Dist.  
昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. IX, f. 1, ♂, p. 71, N. 113 (1913)

體は黒色。前頭の兩側にある二紋、額の兩側にある二紋、前胸背の前縁にある二紋、兩側及び後縁、中胸背の中央(其中央に更に三黒紋あり)、及び前翅の前縁(縁紋に至る迄)は綠色。X字隆起は黄色。前翅は黒褐、脈は黄褐、中央に近く灰白の一横帯ありて、之れは前縁にて廣く、全面に横縮多し。後翅は天鵞絨様の黒色。前肢の基

節及び轉節に黄褐紋あり。腹面は黒褐。雄の腹瓣は黒色、半圓形。體長(♂)二寸八分(翅端迄)。此は臺灣深坑及び臺中地方に普通にして、臺灣産最大の蟬なり。

分布——臺灣(深坑、臺中)。

(23) タカサゴゼミ 新千蟲一。七二頁 (N. 114) (第三圖 (2) (♂))

學名 *Platylomia bivocalis* Mats.  
昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. IX, f. 2, ♂, p. 72, N. 114 (1913)

體は黄褐、白粉多し。單眼の部分は暗褐。前胸背の中央に二條の暗褐線ありて、之れは後縁にて相合す。中胸背の中央に黒色の三縦紋ありて、中央にあるものは長く、X隆起の前方に四個の黒紋を横列す。前翅は透明、少しく黄色を帯び、脈は黄褐、但し翅端にあるものは暗褐、横脈の周圍も亦、少しく暗褐色を帯ぶ。後翅は透明、前縁の中央に黄白の一紋あり。脈は暗褐。腹背には暗褐紋を散在し、白粉の横帯を裝ふ。體下及び脚は淡黄褐。前腿節の下面は黒色。雄の腹瓣は長く、稍や瓢箪形を呈す。體長(♂)二寸一分。此は恒春地方に普通なる蟬にして、シャホーの二聲を發するを以て此學名あり。タコノ木の雜林に捕獲し得べし。

分布——臺灣(恒春)。

(24) イハサキゼミ 新千蟲一。七二頁 (N. 115) (第三圖 (3) (♂))

學名 *Meimuna iwagakii* Mats. (英文三頁參照)  
昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. IX, f. 3, ♂, p. 73, N. 115 (1913)

體は黄緑。頭頂に三黒紋ありて、其の中央の紋上に單眼を裝ふ。額の中央は黒色、額頂に黄色の縦紋ありて、其の兩側に黒横線を列ぬ。前胸背の中央に黒色の二縦條ありて、之れは後縁にて相合す、尙ほ凹陥部は總て黒色。中胸背に黒色の四縦條ありて、外側にあるものは長くして、太し。尙ほ内側の前縁に當り三角形の黒紋あり。X字隆起の前方に二黒紋を裝ふ。前翅は透明、脈は黄褐、縁紋は黄色、翅端にある脈は暗褐、翅端にある二横脈に暗色紋あり。尙、翅端脈の末端に各一個の暗色紋を有す。後翅の翅底にある脈は綠色、末端にあるものは暗褐、前縁の中央は黄色。腹背に白鱗多く、第一節の中央は黄色、之れに三黒紋を裝ひ、第二、第三、及び第四節の中央は黒色、其の後縁及び兩側は黄色、尾端の三節は黒色。體下及び脚は綠黄にして、白粉多し。前腿節の末端、同脛節(上面を除く)、跗節並に中後兩脛節の末端は黒色。腹鱗は長く、腹部の半を越え、外側の中央は少しく列られ、末端に至りて細まり、其の周囲は暗色。體長♂一寸七分。此は岩崎卓彌氏の採集に係るものにして、八重山に稀ならざる種類なり。

分布——沖繩(八重山)。

(25) カレイゼミ 新千蟲一。七四頁(N. 116) (第三圖(4))

學名 *Macrosenia* (*Platytonia*) *kaeisana* Mats.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. IX, f. 4, ♂, p. 74, N. 116 (1913)

體は綠色。頭頂に三黒紋ありて、中央紋上に赤色の單眼を裝ひ、尙、複眼の内側に黒紋あり。額には、Y字形の黒紋ありて、其の兩側に約、七個の黒横線を列ぬ。前胸背の中央に黒色の二縦條ありて、此は後縁の一横線と相合し、其の兩側に弦月形の黒紋を具へ、凹陥部は黒色。中胸背の中央に三角形の黒紋を具へ、其中央に更に黄

色の二縦條ありて、此は上方にて相合し、兩側には太き黒縦條を裝ふ。尙、X字隆起の前方にも二黒紋あり。前翅は透明、脈黄褐、横脈上及び各翅端脈上に暗色紋を裝ふ。腹部は黒色、第一、第二及び第三節の後縁に黄色帯ありて、其の内、第二及び第三節にあるものは中央にて連続せず。尙、此等の斑紋を缺くものもあり。體下、脚及び腹鱗は黄緑、後者は長くして、殆んど尾端に達す。尾端は黒褐。腿節の縦條、脛節の兩端(前脛節は黒色にして上部黄色)及び跗節は黒色。體長一寸五分。開張四寸。此は臺灣北埔加禮山にて故、渡邊龜作氏の採集せるものなり。

分布——臺灣(北埔)。

(26) サカキヒメハルゼミ 新千蟲一。七五頁(N. 117) (第三圖(5))

學名 *Leptosemia* (*Leptopsaltria*) *sakaii* Mats. (英文三頁參照)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. IX, f. 5, ♂, p. 76, N. 17 (1913)

體は黄緑。頭頂に三黒紋ありて、兩側にあるものはく字形を呈し、中央にあるものは後縁にて分叉す。前頭に二黒紋ありて、各觸角の上部に位す。額の中央に黒色の一縦條を具へ、其の上方の兩側に各五、六個の黒横線を列ね、尙、複眼の内側に黒色の一横線あり。前胸背の中央に黒色の二縦條ありて、之れは後縁にて相接し、其の兩側に弦月形の一黒紋を具へ、凹陥部は總て黒色。中胸背に黒色の五縦條ありて、中央の二條は短かく、外側にあるものはレ字形をなして屈折し、X字隆起の前方に二黒紋を裝ふ。前翅透明、末端は少しく暗褐を帯び、脈は黄緑、末端の半部は暗色、縁紋は黄色、横脈上及び翅端脈上に各一個の暗色紋を裝ふ。腹部は黄色、少しく綠色を帯び、體の兩側に黒紋を連ね、第二及び第三腹節の中央に暗色の一縦條を具へ、尾端は黒色なり。腹面及

生殖器は黄色。胸下及び脚は黄緑。腹瓣は稍や圓形に近し。脛節の末端及び跗節は黄色。體長七分。開張一寸九分。此は臺灣、埔里社にて故、酒井芳太郎氏の採集せるものなり。

分布——臺灣(埔里社)。

(27) **イハサキヒメハルゼミ** 新千蟲一。七六頁 (N. 118) (第三圖 (6) ↑)

學名 *Enterpusia (Purana) iwasaki Mats.* (英文四頁参照)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. IX, f. 6, ♂, p. 77, N. 118 (1913)

前種に酷似すれども、腹部長く、頭は前胸の基部と同幅なるを以て容易に區別する事を得べし。體黄緑、斑紋は黒色。單眼の部分、其の兩側にある一紋、觸角の上方にある各二紋、前頭の兩側にある各一紋、額の中央にある二縦條並びに額の末端は黒色。前胸背の中央にある二縦條は後縁にて細まり、前縁にて相合し、其の兩側に弦月紋を具へ、凹陥部は黒色。中胸背の斑紋は前種と同様なれども、兩側にあるものは弓狀をなし、中央にて遮断せられ、レ字形に屈折せず。前翅は透明、脈は黄緑、縁紋は黄白、其の前後の脈は黒色、前三横脈には黒紋を具へ、其の内第三脈上にあるものは小なり。腹部は長く、第三及び第四腹節の兩側は瘤狀に突出し、其の上方に暗褐の各一紋を具へ、尙、第二腹背節の中央には暗色の一縦條あり。尾端は暗褐。體下、脚及び腹瓣は黄緑、後者は稍や楕圓形をなし、其の外側にて斜に切斷せられたるの觀を呈し、第二腹部の基部及び尾端は暗褐。腿節の一縦條及び其の兩端紋は暗褐。體長八分五厘。開張二寸。此は沖繩石垣島に産する珍種にして、岩崎卓彌氏の採集に係るものなり。

分布——沖繩(八重山)。

(28) **タイワンヒメヒグラシ** 新千蟲一。七八頁 (N. 119) (第三圖 (7) ↑)

(タイワンヒメヒグラシ)

學名 *Formosemia (Leptopsaltria) apicalis Mats.*

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. IX, f. 7, ♂, p. 78, N. 119 (1913)

體は黄緑。單眼の部分、其の兩側にある人字形紋、後縁に近く散在せる六小紋、額の兩側にある横溝(約十條)、複眼内側の一横線、頬片の末端紋、額片の中央紋、前胸背の前後兩縁、中央の二縦條、其の兩側の弦月形紋及び凹陥部、中胸背の三縦條(兩側のもの短かし)、其の兩側の一紋、X字隆起の前方にある四點紋は黒色。前翅は透明、前縁及び翅底脈は黄緑、縁紋は黄白、翅端脈は黒色、三個の前横脈の一紋は暗褐。腹背は黄色、第二及び第三節の中央竝に尾端の二節は暗褐。體下、脚及び腹瓣は黄緑。跗節の末端は暗褐。第二及び第三腹節の疣狀突起は長し。腹瓣は稍や三角形を呈し、其の外側は少しく暗色を帯ぶ。體長(♂)八分開張二寸三分。此は臺灣北埔地方に稀ならず。

分布——臺灣(北埔、恒春)。

(29) **ワタナベヒグラシ** 新千蟲一。七九頁 (N. 120) (第三圖 (8) ↑)

(ワタナベヒグラシ)

學名 *Semia (Pomponia) watanabei Mats.* (英文五頁参照)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. IX, f. 8, ♂, p. 78, N. 120 (1913)

體は綠色、斑紋は黒色。頭頂は暗褐、後縁の二紋及び複眼前方の一紋は綠色。額には約七個の横線を列ね、末端は光澤ある黒色。頬片及び額片の中央は暗褐。前胸背の中央に二縦條ありて、此は前後兩縁に近く肥大せるを

以て稍や瓢箪形をなし、其の兩側に稜狀紋あり。中胸背の基部に半圓形の黒紋を具へ、更に其の中央に八字形の黄紋を裝ひ、尙ほ兩側に黒紋を散在す。前翅は透明、前縁は綠色、脈は綠白と黒色の斑をなし、横脈及び翅端脈上に各一個の暗色紋ありて、横脈上の周圍も亦、暗色、縁紋は綠白。後翅脈は綠白、中央に暗色の一横紋あり。腹背の基部及び中央は褐色、兩側に褐紋を列ね、尾端は白粉を以て蔽はる。體下、脚及び腹瓣は黄綠。後者は幅より遙に短かく、外側の基部は黒色。腿節及び脛節の兩端に黒紋を具へ、前中兩跗節の末端は黒色、前中兩脛節及び全跗節は黄色。體長一寸二分。開張三寸二分。此は臺灣北埔地方に産する珍種なり。

分布——臺灣（北埔）。

(30) ハ ル ゼ ミ 新千蟲一。八〇頁 (N. 121) (第三圖 (9) (↑))

(カハムラハルゼミ)

學名 *Terpsiphia vucuna* Oliv. (Kawaninno Mats.) (英文六頁參照)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. IX, f. 9, ♀, p. 80, N. 121 (1913)

第一圖、五號に説明せるものは該種の變種にして、爰に説明せるものはその原種と稱すべきものなり。その異なる所は左の如し。

全體金色の短毛を密生す。頭頂の後縁にある二紋、額の中央にある一縦紋(中央にて切斷せらる)及び前胸背は黄褐。額の兩側に約、九個の横線を横列す。前胸背前後の兩縁、中央の二縦條、其の兩側の弦月紋及び凹陷部は黒色、中胸背は黒色、V字形(但し之れは外側にて遮斷せらる)の二紋、外側並にX字隆起は黄褐。第三乃至第八腹背節の中央には各一個の黄褐帶あり。尾端にある短毛は黄色。體下、脚及び腹瓣は灰黄。腿節の末端及び脛節の基部は暗褐。腹瓣は後縁にて弓狀をなして圓し。腹部は遙に短かし。體長九分。開張二寸。此は本州、四國、

九州地方に稀ならざる種類にして、松樹に多し。これを俗にマツムシと云ふ。

分布——本州、四國、九州。

(31) チ ッ チ ゼ ミ (小蟬) 新千蟲一。八一頁 (N. 122) (第三圖 (10) (↑))

學名 *Kosemia (Cicadetta) radiator* Uhl.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. IX, f. 10, ♀, p. 81, N. 122 (1913)

體は黒色。前頭の一縦條、觸角上の一紋、後縁の一紋、前胸背の前後兩縁、前縁に近き一縦條、後縁の三紋、中胸背の二紋、X字隆起及び後胸背は黄褐。翅は透明、脈は黄褐、翅端脈は暗褐。後翅の内縁に暗色部あり。各腹背節の後縁は黄褐。尾節の背上に三角形の突起あり。體下、脚及び腹瓣は黄褐。脚には黒紋及び黒條を裝ふ。腹瓣は幅廣く、基部は暗褐。腹面節の中央には各一暗色紋あり。チャチャ〜と鳴啣す。體長七分。開張一寸九分。此は本州に稀ならずと雖も、小なるを以て捕獲なし難し。

分布——本州（青森、米澤、岐阜）。

(32) ハ ゴ ロ モ ゼ ミ 新千蟲一。八一頁 (N. 123) (第三圖 (11) (↑))

學名 *Rihana (Cicada) ochracea* Wk.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. IX, f. 11, ♀, p. 81, N. 123 (1913)

體は綠色(生時)、乾燥標本にありては普通、黄色を呈し、黒色の短毛を裝ふ。前頭の一横帶及び複眼の内側は黒色。尙、中央にある單眼の後方及び兩側にある單眼の内側は黒色。口吻の末端は暗褐。此の他、體には斑紋を

缺く。翅は透明、脈は黄色、斑紋なし。體長九分——一寸。開張二寸六分。此は臺灣地方に普通なり。  
分布——臺灣、支那、馬來、印度。

(33) ツマゲロゼミ 新千蟲一。八二頁 (N. 124) (第三圖) (♂)

學名 *Zippocosemia (Achroma) terminalis* Mats. (英文六頁參照)

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add., I, pl. IX, f. 12, ♂, p. 83, N. 124 (1913)

體は綠色、斑紋に變化多し。頭頂は黑色、顔及び體下には斑紋を缺く。前胸背は黄褐、中央にある縦條(前縁にて三角形に擴がり、後縁には二褐色點を裝ふ)、後縁及び兩側は綠色、黄褐なる部分に黒紋を有するものあり。中胸背の綠色なるものと、褐色なるものとありて、之れに黑色の四縦條を具へ、中央の二個は短かく、圓錐形をなし、兩側にあるものは太く且つ長し。其の褐色なるものにはありては、中央の縦條及びX字隆起は黄白、翅透明、前縁は綠色、脈は黄褐、翅端に暗色の一紋を具へ、各翅端室には判然せざる暗色の一縦條を裝ふ。腹背は黑色、兩側に黄紋を裝ひ、基部は黄白、第二乃至第六節の各背上に黄白の一紋を具へ、第七及び第八節の後縁並に尾節は黄褐。體下、脚及腹瓣は綠色、個種により脚及び腹面の黄色なるものあり。體長(♂)七分——八分。開張一寸八分——二寸一分。此は沖繩八重山地方に産すれども、稀なるが如し。  
分布——沖繩(八重山、宮古島)、支那(四川州)。

(34) タイワンヒグラシ 新千蟲一。八三頁 (N. 125) (第三圖) (♂)

學名 *Pomponia fusca* Oliv.

昆蟲學上の地位、蟬科。Thous. Ins. Jap. Add., I, pl. IX, f. 13, ♂, p. 83, N. 125 (1913)

體は褐色、少しく綠色を帯び、顔の中央に太き黄色の一横帯を裝ふ。單眼の部分は暗褐。前胸背の後縁は綠色にして、三個の褐色紋を裝ふ。中胸背には不定の黄紋及び黄條を具へ、兩側は綠色、X字隆起は黄褐。翅は透明、脈は黄緑と黑色の斑をなし、翅端脈は黄色にして、各末端に判然せざる暗色の一紋を裝ひ、横脈は黑色にして、其の周圍は暗色なり。體下、脚及び腹瓣は黄褐。胸側及び腹瓣の内側は綠色を帯ぶ。脚には暗褐紋あり。腹瓣は短かく、稍や圓形に近し。體長(♂)二寸六分。開張五寸七分。此は臺灣地方に普通なり。沖繩八重山にも産すれども、稀なるが如し。

分布——沖繩(八重山)、臺灣、支那、印度。

(35) クロスチアワフキ 正千蟲二。四二頁 (N. 255) (第四圖) (♀)

學名 *Aphrophom vittata* Mats.

昆蟲學上の地位、沫吹蟲科 (Cercopidae)。Thous. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 1, ♀, p. 42, N. 255 (1908)

體は灰黄。頭は鈍角をなし、長さ後縁の半に達せず。顔の上方は少しく暗色を帯び、頬片(Larva)及び複眼の内側には、暗色紋あり。口吻は後肢の基節に達し、暗黄にして、末端は黒褐。前胸背は頭頂より粗なる點刻を具へ、中央に暗色の三縦紋を有するものあり。前翅は中央に太き黒褐條を縦走し、此は中央に於て最も太く、時に其の中央にて切斷せるものあり。前縁は灰白、半透明、末端の翅脈は黒褐。脚は體と同色、腿節に一個、脛節に二個、黒褐の輪環あり。腹面は褐色、接合膜及び尾節は黄褐。これには var. *nijima* Mats. と稱する變種あり。此は前翅の中央に黒褐の縦條を缺き、中央に近き各翅脈上に黒褐の一紋を裝ひ、翅底に近く同様の一二紋あり。體長

(♂♀) 四分内外(翅端迄)。此は柳、白楊に普通なる種類なり。

分布——北海道、本州。

(36) マルアワフキ 正千蟲二。四三頁 (N. 256) (第四圖) (♀)

學名 *Leptyrnia coleophtrata* L. var. *grossa* Uhl.

昆蟲學上の地位、沫吹蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 2, ♀, p. 43, N. 256 (1905)

雌雄稍や形状及び色澤を異にす。雄は卵形。體上は黄褐乃至黒褐にして、灰白の短毛を密生す。體下は黒色。頭の前縁及び中央の縦條は黄色。觸角は黄色、中肢の基節に達し、末端は黒褐。前胸背は頭と稍や同幅。前翅は灰白、翅を疊む時は稍や半卵形を呈し、翅底の大紋及び中央にあるく字形の大紋は黒褐。尚ほ翅端に黒褐の黄紋を有するものあり。脚は黒褐、腿節の基部、跗節並に後肢の基節は黄褐。尾節は圓錐形をなして上向す。雌は長卵形、灰黄色、銀色の短毛を密生し、前翅の中央にあるく字形の黒褐紋は細く、尾節は黄褐なり。體長(♂)二分五厘、(♀)二分八厘(翅端迄)。此は禾本科植物の雜草間に普通なり。

分布——北海道、本州。

(37) ホシアワフキ 正千蟲二。四三頁 (N. 257) (第四圖) (♀)

學名 *Aphrophora stictica* Mats.

昆蟲學上の地位、沫吹蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 3, ♀, p. 43, N. 257 (1905)

體は淡黄若くは灰黄。頭は短かく鈍角にして、稍や半圓形に近く、頭頂板の前縁は少しく暗色を帯び、後縁の

長さは中央の長さより約三倍あり。口吻は暗黄にして、末端は黒褐。前胸背の點刻は小にして、地色と同色。稜状部の中央は凹陥し、横皺あり。前翅は廣く、各翅脈の中央に近く一横列をなして黒褐紋あり。尚、翅底にも同様の二紋あり。脚は體と同色、腿節の上部に褐色の二條を縦走し、下方には同色の二紋を具へ、脛節の上方には、褐色の二紋を有し、跗節端及び爪は褐色。これに var. *Zonata* Mats. と種する變種あり。其の異なる所は前翅の中央に暗褐の太き一斜條を有すると、翅端の暗色なるとにあり。體長(♂)四分五厘内外(翅端迄)。此は本邦何れの地方にも普通にして、禾本科植物の雜草間に多し。

分布——北海道、本州、九州。

(38) チャイロアシメヨコバへ 正千蟲二。四四頁 (N. 258) (第四圖) (♀)

(チャイロオホヨコバへ)

學名 *Jassus puresul* How.

昆蟲學上の地位、浮塵子科 (Jassidae)。Thoms. Ins. Jap., II, pl. 44, f. 4, ♀, p. 44, N. 258 (1905)

體は黄褐。頭は黄色、中央にある短縦線及び横紋は褐色。額は黄褐、六七條の黄色斜横條あり。頬及び頬片は黄色。口吻は短かし。前胸背は頭頂より長く、前縁は黄色、暗黄紋を散在す。稜状部の中央には一横皺を具へ、灰色紋を有す。前翅は黄褐、翅脈は白色、外片の中央にある一縦紋及び内片の末端は褐色。體下及び脚は黄色。脛節には黒點を列ぬ。腹面の基部に褐色紋あり。體長(♂)翅端迄三分二厘乃至三分五厘。此は禾本科植物の雜草間に普通なり。

分布——北海道、本州、九州。



(39) シロヲビアワフキ 正千蟲二。四五頁 (N. 259) (第四圖) (5) (♀)

學名 *Aphrophora intermedia* Uhl.

昆蟲學上の地位、沫吹蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 5, ♀, p. 45, N. 259 (1905)

體は灰黃。頭は鈍角、兩側に縦皺を裝ひ、中央の暗色なるもの多し。額は暗黃にして、中央の縦條は黃色。前胸背は其の中央に判然せざる暗色の三條を縦走し、其の前端は少しく外方に曲り、點刻は頭頂の點刻より粗にして、前翅の點刻と略ぼ同大。稜狀部は長楕圓形に凹陥し、點刻及び横皺あり。前翅は黒褐にして、中央より少しく翅底に接したる處に太き黃白の一斜條を具へ、尙、翅端に近く前縁及び内片の末端を横ざる一條は黃白。胸下は黃白。脚は灰黃、腿節の上方にある二縦條及び其の下方にある二紋並に脛節の兩側にある一紋は黒褐、前中兩跗節端は黒褐、爪は褐色。體長(♂)五分内外。此は柳に普通なれども、萃樹の稚枝をも害することあり。

分布——北海道、本州、九州。

(40) ハマベアワフキ 正千蟲二。四五頁 (N. 260) (第四圖) (6) (♀)

學名 *Aphrophora marina* Mats.

昆蟲學上の地位、沫吹蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 6, ♀, p. 45, N. 260 (1905)

體は灰黃。頭は銳角、頭頂にある點刻は小にして稀なり。額は餘り膨起せず、點刻は褐色。前胸背は頭と稍や同幅、前縁にある點刻は小にして、少なく、後方にあるものは大にして、粗、中央に淡色の一縦條を具へ、兩側は褐色なり。前翅は體と同色、翅底より中央に褐色の一縦條を走らす。腿節には褐色の二縦線あり。腹面は淡褐。

體長(♂)三分五厘内外。此は蘆、葦、芒等に普通なる種類にして、著者は之れを始めて播州明石の海濱に採集せるを以て、ハマベアワフキの名稱を與へたり。

分布——北海道、本州、九州。

(41) コガシラアワフキ 正千蟲二。四六頁 (N. 261) (第四圖) (7) (♀)

(カコノアワフキ)

學名 *Escarta (Rhianax) assimilis* Uhl.

昆蟲學上の地位、沫吹蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 7, ♀, p. 46, N. 261 (1905)

體は黒褐、黄褐の短毛を密生す。頭は小、頭頂板は大きく、稍や四角形を呈し、單眼の兩側に各一個の細き縦溝あり。額は甚だしく膨起し、中央に長楕圓の縦溝あり。額片の末端及び口吻は黄色。口吻は短かく、漸く中肢の基節に達し、末端は褐色。前胸背は甚だしく膨起し、點刻及び横皺多し。稜狀部の中央は卵形をなして淺く凹陥す。前翅は全體黒褐、末端は少しく淡色にして、赤褐なり。脚は黒褐。後胸片、後肢並に尾節の大部は黄色。體長(♂)二分、(♀)二分五厘(翅端迄)。此は白楊に最も普通なる種類なり。

分布——北海道、本州、九州。

(42) マツミヤマアワフキ 正千蟲二。四六頁 (N. 262) (第四圖) (8) (♀)

(ヤマノアワフキ)

學名 *Peuceptelus indentatus* Uhl.

昆蟲學上の地位、沫吹蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 8, ♀, p. 46, N. 262 (1905)

體は灰色にして、稍や卵形を呈し、粗大の點刻を散在す。頭は鈍角にして、短かく、前胸の半に達せず。頭頂

板は甚だ短かく、其の兩側に各一個の褐色紋あり。額は暗色、頂端に黄白の一紋を装ふ。額片及び口吻は黄色、後者は長く、後肢の基節外に達す。前胸背は凹凸を有し、點刻は甚だ粗なり。稜狀部は黄色、中央に褐紋を有す。前翅の前縁は灰白、半透明、其の中央に三角形の褐色紋の突出せるものあるを以て恰も、前縁に卵形の二紋を有するが如し。内縁角より中央に向ひ、灰白の一條を斜走し、其の終る處の内側に一個の褐色紋あり。翅端にも亦、數個の褐色紋を装ふ。脚は黄色、褐色紋あり。體長♂(♀)三分五厘。此はトドマツに普通なる種類にして、高山に多し。

分布——北海道、本州。

(43) テンゲアワフキ 正千蟲二。四七頁 (N. 263) (第四圖) (♀)

學名 *Phylagra albonotata* Uhl.

昆蟲學上の地位、沫吹蟲科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 9, ♀, p. 47, N. 263 (1905)

體は黒褐、黄色の短毛を密生す。頭は細長の圓錐形を呈し、上方に曲り、頭頂板は其の大部を占め、兩側は黄色。額は少しく膨起し、兩側に黄色の各一縦條ありて、此は中胸の側片に延長す。口吻短かく、黄色を呈し、末端は褐色。前胸背は頭より短かく、中央に淺き縦溝あり。稜狀部は長三角形、中央に黄色の一縦條を装ふ。前翅は體と同色、前縁の中央より少しく翅端に近接せる所に黄白の一斜條を具へ、内片に二三個の黄白紋あり。脚は褐色。後胸片及び後肢の基節は黄色。體長♂(♀)三分五厘、(♀)四分(翅端迄)。此は高山の針葉樹に普通なる種類なれども、未だ北海道に發見せられず。

分布——本州、九州。

(44) サジヨコバへ 正千蟲二。四八頁 (N. 264) (第四圖) (♀)

學名 *Pambolourus prasinus* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。(Jussidae)。Thous. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 10, ♀, p. 48, N. 264 (1905)

體は綠色、頭は拋物線狀にして扁平、前胸よりも長く、頭頂は少しく凹陥す。單眼は複眼の前方にあり。口吻は短かく、漸く前肢の基節を超え、黄色なり。前胸背は頭より少しく廣く、横皺を装ふ。稜狀部は等邊三角形にして、前胸と略ぼ同長。前翅は雄にありては尾端に達すれども、雌にありては短かし、淡緑、半透明にして、翅脈は綠色。脚は黄色、脛節端は綠色。産卵管の末端は赤色にして、尾端外に突出す。體長♂(♀)二分二厘、(♀)二分七厘。此は禾本科植物に普通なる種類にして、殊に荒土の雜草間に多し。

分布——本州、九州。

(45) モンキアワフキ 正千蟲二。四八頁 (N. 265) (第四圖) (♀)

學名 *Aphrophora flavomaculata* Mats.

昆蟲學上の地位、沫吹蟲科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 11, ♀, p. 48, N. 265 (1905)

體は暗黄。頭は稍や鈍角、中央には黄色の一縦條を具へ、頭頂板の兩側及び單眼の後方は暗褐。額は餘り膨起せず、點刻は黒褐。口吻は黄色、末端の大部は黒褐。前胸背には小點刻を散在す。稜狀部は黄色、中央は少しく暗色を帯び、卵形に凹陥し、横皺を装ふ。前翅は内片脈の中央に各一個の黒褐紋を具へ、此の紋を横ざりて、前翅の中央に達する暗色の一帯を装ひ、尙ほ末端に近き所に黄色の一紋あり。體下は雄にては赤黄、雌にては褐色。

脚は少しく淡色、跗節端及び爪は褐色。體長(♂)四分五厘(翅端迄)。此は札幌近傍に普通なる種類にして、柳に多し。沫吹蟲科の内、大形の種類なり。これはウスイロアワフキ(*A. major* Uhl.)に酷似すれども、翅に暗色帯を有し、常に濃色なり。

分布——北海道、本州。

(46) フクロクヨコバへ 正千蟲二。四九頁(N. 266) (第四圖)(12)(♀)

學名 *Heanus fufuroki* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 12, ♀, p. 49, N. 266 (1905)

體は雄にては灰黄、雌にては黄褐。雌にては頭は短かすと雖も、雌にては頗る長く、約前胸の三倍長あり、拋物線狀に突出し、扁平、中央に相平行せる濃色の二縦線ありて、このもの前縁にて相合す。額は細き圓錐形をなして尖り、淡色、兩側に赤色の斜條列を具へ、頬には小赤紋を散在す。口吻は短かし。前胸背は稍や四角形にして、平たく、前縁に大なる三凹陥を具へ、後縁に横皺あり。稜狀部は短かく、中央に一横溝あり。前翅は雄にては長く、尾端外に出づと雖も、雌にては短かく、漸く第五節に達す。脈は黄色、其兩側は濃色。脚は淡色、爪端は褐色。腹面に淡色の小紋を散在し、尾端に白色の短毛を粗生す。雌の尾節は長し。(♂)三分七厘、(♀)四分五厘。禾本科植物に栖息し、高山の雜草間に産すれども、餘り多からず。

分布——本州、九州。

(47) ツノゼミ 正千蟲二。五〇頁(N. 267) (第四圖)(13)(♀)

學名 *Tricentrus flavipes* Uhl.

昆蟲學上の地位、角蟬科(Membracidae)。Thous. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 13, ♀, p. 50, N. 267 (1905)

體は黒褐、金色の短毛を密生す。頭は前胸下に蔽はれて上より見えす。頬、額片及び額片は白色。口吻は黄褐にして、中肢の基節外に達す。前胸背の兩側に各一個、三稜形の角狀突起ありて、此は少しく後方に曲り、後縁は甚だしく延長し、細き稜柱狀となりて腹部の半以上に達し、その末端は尖る。稜狀部の兩側に各一個の白紋あり。前翅は淡黄、透明、翅脈は褐色、前縁及び内片脈は黄色。胸下及び腹面の兩側は白色。脚は黄色、腿節は其の末端を除き黒褐、爪は褐色。體長(♂)二分二厘乃至二分五厘。此は楡に普通なれども亦、他の喬木にも栖息す。

分布——北海道、本州、九州。

(48) クロフアワフキ 正千蟲五〇頁(N. 268) (第四圖)(14)(♀)

學名 *Sinophora maculosa* Melich.

昆蟲學上の地位、沫吹蟲科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 14, ♀, p. 50, N. 268 (1905)

體は黄色。頭は短かく、且つ前胸より遙に狭し。頭頂板は短く、中央に高さ一縦隆ありて、其の兩側は甚だしく凹陥す。額は卵形にして、甚だしく膨起し、兩側は光澤ある褐色、點刻なし。額片、頬片及び口吻は黄色。口吻は長く、後肢の基節外に達す。前胸背の前半は黄色、中央に褐色の一縦條を具へ、後半は褐色、光澤を帯び、横皺及び點刻を散布す。稜狀部は等邊三角形にして、褐色。前翅は灰黄、半透明、翅底及び中央に褐色紋を散在し、外片の中央に一個の白紋あり。脚には褐紋を裝ふ。體長(♂)三分五厘内外。此は本州に稀ならざる種類なり。

れども、北海道には少なし。高山の針葉樹の植物上に捕へ得べし。

分布——北海道、本州、支那。

(49) ミミツク 正千蟲二.五一頁 (N. 269) (第四圖 (15) ♀)

學名 *Laetna audium* Wk.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 15, ♀, p. 51, N. 269 (1905)

體上は灰褐、體下は黄色。頭は平たく、中央に縦隆起を具へ、複眼の前方には突出部を裝ひ、全面に赤褐の顆粒突起を散在す。顔は黄色、中央の前縁は黒色、額の兩側に深き縦溝あり。口吻は短大、前胸背の兩側に各一個、耳様の大突起ありて、雌雄により其の趣きを異にし、何れも全面に渡りて赤褐の顆粒突起を粗布す。稜状部は淡色にして、凹陥し、中央に横皺あり。前翅は半透明、脈上に褐色の顆粒突起を粗布す。脚は側扁にして、白色の短毛を密生し、褐色の顆粒突起多し。體長♂四分五厘、♀五分。此は櫟に普通なる種類なれども、北海道には産せず。

分布——本州、九州。

(50) ヒロツヨコバへ 正千蟲二.五一頁 (N. 270) (第四圖 (16) ♀)

學名 *Macropsis lateralis* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 16, ♀, p. 51, N. 270 (1905)

體は綠色。頭の後縁及び前胸背の大部は黃褐。頭は廣く、長さ約、前胸背の三分の一あり。單眼は前頭の中央

に二個あり。口吻は黄色にして、短かし。前胸背は頭部より少しく廣く、後縁角は少しく突出し、横皺多し。稜状部は黃褐、稍や等邊三角形、その中央赤褐、横皺あり。前翅は淡綠、半透明、大なる點刻を散在し、脈は綠色、翅端及び前縁の外半は無色透明。腹面は淡綠。脚は綠色、爪は褐色。體長♂三分(♀)三分五厘。此は櫟、榆等に栖息すれども、餘り多からず。

分布——北海道、本州。

(51) コシミツク 正千蟲二.五二頁 (N. 271) (第四圖 (17) ♀)

學名 *Laetronorpha discolor* Uhl.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XX, f. 17, ♀, p. 52, N. 271 (1905)

體は赤褐。頭は拋物線状に突出し、前縁は少しく細く、中央には一縦隆を裝ひ、兩側は屋斜状をなし、前縁には顆粒突起あり。顔は匙状に凹陥し、額は細長く、兩側には深き縦溝を具へ、前縁の中央は褐色。前胸背は頭より少しく短かく、且つ廣く、褐色の顆粒突起を散在す。稜状部は稍や等邊三角形を呈し、前方には小顆粒突起を裝ひ、兩側には疣状の突起を有し、中央は凹陥す。前翅は中央に灰白の斜條を具へ、其の外側に濃褐條あり。體下及び脚は黄色、脚は側扁にして、赤褐の小紋を密布す。體長♂三分、♀三分五厘。此は櫟、榊等に栖息すれども、稀なり。

分布——本州、九州。

(52) アミガサハゴロモ 正千蟲二.五三頁 (N. 272) (第五圖 (1) ♀)

學名 *Poehuzia albomaculata* Uhl.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科 (Fulgoridae)。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 1, ♀, p. 53, N. 272 (1905)

體は黒褐。頭は黄褐、頭頂は短かく、前縁及び後縁に隆線ありて、中央は凹陥す。額は稍や四角形を呈し、中央に三條の縦隆を具へ、兩側にあるものは少しく内方に弓曲す。前胸背は短かく、中央に一縦隆あり。稜狀部(中胸背)は甚だ大にして、三條の縦隆を裝ひ、兩側にあるものは前縁にて相合す。翅底鱗(Tergulae)は卵形にして、凹凸を有す。前翅は黒褐、中央は少しく淡色、三角形にして廣く、翅脈は甚だ多く、前縁の中央に近く白色の一紋を具へ、前縁に多數の横脈を裝ふ。後翅は透明にして、少しく暗色を帶ぶ。胸下、腹部及び脚は暗黄なり。體長(♂)二分五厘。(♀)三分。翅の開張(♂)七分五厘、(♀)八分。翅を疊むときは一見、網笠の如し、故にこの名あり。此は東京近傍に普通なる種類にして、クサギに多し。

分布——本州、四國、九州。

(53) マルウンカ (ヤナヒク)

學名 *Hemisphaerius variabilis* Dall.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 2, ♀, p. 53, N. 273 (1905)

體は褐色、黄白及び綠色の斑紋を有するものあり。形半球狀をなす。頭頂は短かく、中央に廣き横溝を具へ、後縁は黄色。額は稍や四角形にして、長く、額片の界は黄色。額片は長く、稍や額と同長。觸角及び頬は黄色。前胸背は甚だ短かく、前縁は弓狀に膨起し、其の後縁は黄色。稜狀部は短かき三角形をなし、稜狀紋を裝ひ、末端の小部は黄色。前翅は甲蟲の翅稍の如く稍や半球狀に膨起し、之れに網狀の細脈を具へ、斑紋は一定せず。褐

色なる種類にありては後縁の中央に近く一個の小黄紋あり。體下及び脚は暗黄。前中兩肢の腿節は大部褐色。體長(♂)二分内外。此は東京地方に普通なる種類にして、山地に多し。

分布——本州、四國、九州。

(54) ベツカフハゴロモ (第五圖) (♀)

學名 *Ricania japonica* Melich.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. 21, f. 3, ♀, p. 54, N. 274 (1905)

體は褐色、形アミガサハゴロモに酷似すれども、翅は小さく、外縁は短かし。前翅は中央に白色の二斜條を横走し、外方にあるものは長く、其の中央に内方に向て突出部を具へ、其の前縁の内方には光澤ある黒褐の一紋を裝ひ、前縁に横脈多く、中央より少しく翅端に近き處に三角形の白紋を有し、翅端は稍や圓し。後翅は透明にして、翅端及び中央の一帶は淡褐なり。顔、胸下、腹部及び脚は黄色。體長(♂)二分五厘、(♀)三分。翅の開張(♂)七分二厘、(♀)七分八厘。此は東京近傍に普通なる種類にして、クサギに多し。東北地方にありては桑、茶、萃樹の液汁を吸収することあり。

分布——本州、四國、九州。

(55) アヲバハゴロモ (第四圖) (♀)

學名 *Geisha distinctissima* Wk.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 4, ♀, p. 55, N. 275 (1905)

體は黄緑。頭頂は短かく、中央は少しく隆起す。額の兩側には各一條の縦隆ありて、黄色を呈す。額片及び口吻は黄色。口吻の末端は黄褐。前胸背は短かく、中央に低き綠色の一縦隆を具へ、稜狀部は大にして、中央に綠色の三縦隆を裝ふ。前翅は稍や四角形を呈し、外縁及び前縁の翅端に近き部分は赤色、網狀の脈を裝ひ、翅底及び内片には顆粒突起を散在す。後翅は白色、半透明にして、廣し。胸下、腹部及び脚は黄色。腿節、轉節及び基部の大部綠色。體長♂二分、♀二分二厘。翅の開張♂六分五厘、♀七分。此は殆んど何れの植物にも有害なる種類にして、殊に薔薇科の植物に普通なり。時に桑、柿、茶等に大害を加へることあり。俗にこの幼蟲をシラコババと稱す。

分布——本州、四國、九州、琉球、支那。

(56) クロテンダスケバ 正千蟲二。五五頁 (N. 276) (第五圖 (5) ♀)

學名 *Dictyophora ishida Mats.*

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 5, ♀, p. 55, N. 276 (1905)

體は黒褐。頭は細き圓錐形をなして突出し、兩側は隆起し、複眼の中間及び中央を縦走して末端に達する一條は黄色、尙ほ黄色の小紋を散在す。額は黄緑。口吻は黄色にして、長く、基部は黒褐なり。前胸背は短かく、中央の縦隆及び稜狀部の中央を縦走する一條並に稜狀部の末端も亦、黄色なり。翅は透明、脈は黒褐、縁紋は大にして、卵形を呈し、黒褐なり。胸側片は黄緑。脚は黒褐、脛節及び腿節に黄色環を具へ、後肢の脛節及び跗節の大部は黄色、但し脛節及び跗節の兩端は褐色。腹面は黄色、各節の中央に黒紋あり。體長♂♀四分五厘。翅の開張♂♀八分内外。此は山間の雜草間に捕獲し得べし。

分布——北海道、本州(日光)。

(57) ヒメテンダスケバ 正千蟲二。五六頁 (N. 277) (第五圖 (6) ♂)

學名 *Dictyophora patrnalis Stål(tengi Mats.)*

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 6, ♂, p. 56, N. 277 (1905)

體は黄緑。頭は細き圓錐状をなして突出し、前胸及び稜狀部を合したるものより長し。頭頂の中央に綠色の一縦線を具へ、複眼間にある部分は太し。額は黄橙色、兩側は黄緑、中央の縦隆起は綠色、額片の兩側に褐色の五斜條を具へ、末端の兩側は黒褐。口吻は黄色、末端は黒褐、胸背及び稜狀部は橙黄色(死後)にして、綠色の四縦隆起を具へ、稜狀部にある兩側の縦隆は短小にして、判然せず。前翅は透明にして、細長く、脈及び縁紋は褐色。胸下は黄色、側片は橙黄色にして、綠色の縦條を裝ふ。脚は黄色、黒縦條あり。腹部は綠色、腹面の中央及び尾節は黄色、體長♂♀三分内外。翅の開張七分。此は播州地方の禾本科植物に普通なる種類なれども、他には餘り多からざるが如し。これはテンダスケバ (*D. sinica* Wk.) に酷似すれども一層小形なり。

分布——本州。

(58) スケバハゴロモ 正千蟲二。五七頁 (N. 278) (第五圖 (7) ♀)

學名 *Enricania fascialis Wk.*

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 7, ♀, p. 57, N. 278 (1905)

體は黒褐。頭は甚だ短かく、前縁及び兩側の隆起は黄褐。額は圓形に近く、兩側の隆起、額片及び口吻は黄色。

前胸背は短かく、中央に一縦隆を装ふ。稜状部は甚だ大きく、三條の縦隆ありて、兩側にあるものは前縁にて相合す。前翅は透明、少しく黄色を帯び、周縁は黒褐、其の内、前縁にある黒褐部は廣く、中央に近く黄紋ありて、其の下方に白點を装ふ。翅の中央にも黒褐紋を具へ、脈は褐色にして少なし。後翅は小にして、脈及び周縁は褐色。脚、胸片の一部、後胸片並に尾節の下方は黄色。體長(♂)二分内外。翅の開張(♂)六分五厘。此は東京近傍に普通なる種類にして、クサギに多し。時に桑、茶に大害を加へることあり。

分布——本州、四國、九州、支那。

(59) シダクロスケバ (シダクロスケバ)

學名 *Cixiopsis punctatus* Mats.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XI, f. 8, ♀, p. 57, N. 279 (1905)

體は黒褐。頭は長くして、前胸と稍や同長、三角形をなして尖り、中央及び兩側に縦隆起あり。額は長楕圓形、三條の縦隆を供へ、兩側にあるものは、上部にて相合し、額の周縁に隆起し、此の内方にては黄色の小紋を散在す。額片は長三角形をなす。口吻は黄色、後肢の基節に達し、末端は褐色。觸角及び複眼の下方は黄色。前胸背の中央及び兩側に各一條の縦隆ありて、兩側にあるものは合して前縁の隆起を形成し、黄色の小紋を粗布す。稜状部は中央に三個の縦隆を装ひ、中央にあるものは、後縁に達せず、横皺多し。前翅は暗色、透明、翅脈は褐色。胸下、脚及び腹面は黄色。腿節の縦條、脚節の末端及び跗節端は褐色。腹背は黒褐、兩側に黄紋を散在す。尾節は黄色なり。體長(♂)二分。翅の開張五分。此は札幌近傍のシダに普通なる種類なり。これに長翅形ありて、その翅は遙尾端より突出す。

分布——北海道、本州(岐阜)。

(60) シタバニハゴロモ 正千蟲二。五八頁 (N. 276) (第五圖)(9)(♂)

學名 *Lycorma delicatula* White

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 9, ♂, p. 58, N. 280 (1905)

體は黄褐、體上は黒褐。頭と前胸とは稍や同長。前縁には後方に彎曲せる突起ありて、このもの中央に二條の縦隆を装ふ。額は稍や長き五角形を呈し、黒褐。額は凹陥し、中央に二條の縦隆ありて、額片の中央は少しく膨起す。口吻は甚だ長く、腹部の半に達す。觸角は赤色。前胸背の中央に一條の低き縦隆を具へ、兩側に各、相並行せる二條の縦隆ありて、黒褐を呈す。稜状部は短三角形をなし、低き三條の縦隆を装ふ。前翅は灰色にして、少しく綠色を帯び、翅端の三分の一は黒褐、脈は網状にして、細微、翅底の三分の二には二十内外の黒褐圓紋若くは楕圓紋を散在す。後翅の末端は黒褐、中央には青藍色の廣帯を具へ、此は前縁にて廣がり、翅底の三分の一は紅色、五、六個の黒紋を装ふ。脚は黒褐。接合膜の大部は紅色。腹背には白蠟を附着し、それは殊に尾端に多し。體長(♂)四分五厘、(♀)五分。翅の開張(♂)一寸三分(♀)一寸四分。此は長崎、琉球地方に産すれども稀なり。

分布——九州、琉球、支那。

(61) グンバイウンカ 正千蟲二。五九頁 (N. 281) (第五圖)(10)(♀)

學名 *Epom onkii* Mats.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 10, ♀, p. 59, N. 281 (1905)

體は綠色。頭は稍や半圓形をなして突出し、中央に一縦隆あれども、それは前縁に達せず。額は長く、兩側相平行し、中央に太き一條の縦隆を裝ふ。口吻は中肢の基節外に達す。額片は長く、中央に一縦隆を具へ、前胸背の中央にも一條の縦隆を裝ひ、兩側には弓形の各一隆起ありて、前縁にて相合し、兩者は合して半圓穹を構成す。稜狀部には三條の縦隆を具へ、兩側にあるものは前胸背にあるものと同様に前縁にて相合す。前翅は淡緑、半透明、脈は綠色、顆粒狀の小突起を散在し、前縁には多數の横脈を列ね、外縁には多數の横脈を裝ひ、網狀をなす。後翅は小にして、透明、脈は綠色。脚は黄緑、爪は褐色。體長(♂)一分五厘。翅の開張三分六厘。此は本邦稀ならざる種類なれども、寒國には産せず。柑橘及び無花果の害蟲なり。

分布——本州、九州。

(62) オホヒシウンカ 正千蟲二・五九頁 (N. 382) (第五圖 (11) (♀))

學名 *Oliarus subnubilis* Uhl.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 11, ♀, p. 59, N. 282 (1905)

體は褐色。頭頂は稍や四角形をなし、後縁は三角形に列られ、兩側の縦隆は黄色。顔は紡錘狀を呈し、額の下方に卵形の黄紋あり。口吻は長く黄色を呈し、末端は黒褐、腹部の半に達す。前胸は短かく、複眼の後方に半圓形の黄色隆起あり。稜狀部は中央に低き五條の縦隆を裝ひ、兩側の隆起間にある部分は赤褐。前翅は白色、半透明、脈及び縁紋は黒褐、前縁は黄色、外縁にある横脈に黒褐紋あり。脚は黄色、腿節は褐色。腹部の後縁は細く黄色なり。體長(♀)二分五厘。翅の開張七分三厘。此は本邦稀なる種類にして、名和靖氏は之を伊吹山に捕獲せり。ヒシウンカ亞科に係る最大種なり。

分布——本州(伊吹山)。

(63) クロフシロウンカ 正千蟲二・六〇頁 (N. 383) (第五圖 (12) (♀))

學名 *Mysidoides sapporensis* Mats.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 12, ♀, p. 60, N. 283 (1905)

體は淡褐色。頭は小にして、側扁、兩縁にある縦隆は高し。額の兩側にある縦隆は中央にて相合し、末端にて等邊三角形をなして廣く分る。額片は太く、稍や圓柱形をなす。口吻は長大にして、腹部に達す。觸角は三角形にして、大なり。前胸背は甚だ短かく、後縁は葉狀に隆起し、兩側に葉狀の附屬物あり。稜狀部は大にして、膨起し、側縁には葉狀の隆起あり。前翅は甚だ長く、末端に至るに従ひ増幅す、白色にして黒紋及び暗褐紋を散在し、翅端は圓し。後翅は小さく、白色、半透明。脚は長く、跗節端は淡褐。體長(♂)一分五厘。翅の開張六分五厘内外。此は定山溪(札幌)に普通なる種類にして、紅葉、槭に普通なり。

分布——北海道、本州。

(64) アカフハネナガウンカ 正千蟲二・六一頁 (N. 384) (第五圖 (13) (♀))

學名 *Otiocerus flexuosus* Uhl.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 13, ♀, p. 61, N. 284 (1905)

體は黄白。頭は側扁、兩縁の縦隆甚だ高く、側面より見る時は稍や卵形を呈す。額、複眼の下方及び觸角は赤色。觸角は甚だ長く、側扁にして、稍や豌豆の莢狀を呈す。前胸背の後縁は葉狀をなして斜に上方に向き、兩側



に赤色紋あり。稜状部の兩側にも亦、赤紋を裝ふ。前翅は白色にして、長く、全面に渡りて稍や同幅の中央にて繼續せる赤色の縦紋を具へ、縁紋及び翅端の一枚も亦赤色なり。後翅は白色、半透明。脚は細く、尾節の兩側は赤褐なり。體長(♂)♀一分五厘。翅の開張五分乃至五分五厘。此は札幌近傍に普通なる種類にして、ミヅキ、シナノキ等に多し。

分布——北海道、本州。

(65) ツマゲロスケバ 正千蟲二。六一頁 (N. 385) (第五圖 (14) (♂))

學名 *Orthopagus lunicifer* Uhl.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 14, ♂, p. 61, N. 385 (1905)

體は暗黄。頭は長楕圓形にして、前胸背及び稜状部を合したるものより短かく、後縁は三角形に列られ、中央の縦隆は黄色にして、低く、兩側には黄色の二長紋あり。額は黄色、稍や紡錘状をなし、複眼の兩側は少しく細く、三條の縦隆を供へ、褐紋を散在す。額片の中央及び末端は褐色。口吻は黄色、末端は黒褐、後肢の基部に達す。前胸背は短かく、黄紋を散在す。稜状部にある三條の縦隆及び末端は黄色。前翅は透明、縁紋及び末端より後縁に渡りたる大紋は黒褐、脈は黄色。後翅は透明、末端に黒褐紋を裝ひ、脈は黄色。脚は黄色、褐色の輪環あり。腹背は黄色にして、黒褐の稜状紋を有す。體長(♂)♀三分。翅の開張八分。此は東京近傍に産すれども、その數多からず。禾本科植物の雜草間に捕獲し得べし。

分布——本州、四國、九州。

(66) ナガヒラタウンカ 正千蟲二。六二頁 (N. 386) (第五圖 (15) (♀))

學名 *Rhotala nishimae* Mats.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 15, ♀, p. 62, N. 386 (1905)

體上は暗黄、體下は黄褐。頭頂は凹陥し、後半は前胸背の突起に蔽はれて見えす、前縁は黄色にして、隆起す。額は紡錘形、末端は黄色、五條の縦隆ありて、中央にあるもの及び外側にあるものは判然すれども、中間にあるものは判然せず。觸角は長し。前胸背の中央に三條の縦隆ありて、兩側にあるものは前縁にて相合し、延長して頭頂を蔽ふ。稜状部に三條の縦隆を具へ、中央は少しく凹陥す。前翅は灰黄、脈上に矢筈形の褐紋を具へ、縁紋は黒褐にして大なり。後翅底の大半は透明、末端は灰黄。脚は黄褐。體長(♂)♀二分八厘。翅の開張七分、此は餘り多からざる種類にして、縦・トドマツ・アスナロの如き針葉樹の植物上に捕獲し得べし。

分布——北海道、本州。

(67) クロヒシウンカ 正千蟲二。六三頁 (N. 387) (第五圖 (16) (♀))

學名 *Oliarus angusticeps* Horv.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 16, ♀, p. 63, N. 387 (1905)

體は黒褐。頭は細く、兩縁は黄色にして、高く隆起す。額は長菱形をなし、縦隆は黄色。口吻は黒褐、基部は黄色。前胸背の隆起は黄色。稜状部にある五條の縦隆及末端は黄褐。前翅は黄色、半透明、縁紋及び脈は褐色、

脈上には小顆粒を列ぬ。脚は黄色、腿節は褐色。雌は尾端に白蠟を装ふ。體長(♂)一分二厘、(♀)一分五厘。翅端迄二分二厘内外。此は禾本科植物間に栖息すれども稀なり。

分布——本州(伊吹山)、九州(長崎)。

(68) **フチミヤクヨコバへ** 正千蟲二。六三頁 (N. 288) (第五圖) (17) (♀)

學名 *Selenocephalus nigritemontus* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 17, ♀, p. 83, N. 288 (1905)

體は暗黄にして、少しく綠色を帯ぶ。頭は廣く、頭頂殊に兩側は凹陥し、前縁に黑色の一横條ありて、其の前側は黄色、更に其の前側は黑色。額及び額片は黑色、上縁は暗黄。頬及び額片は暗黄にして、褐紋を散在す。前胸背の前縁は弓状をなして突出し、黄色の小紋を散在し、横皺は少なからず。稜狀部に黒紋を散在し、中央に一横皺を具ふ。前翅は白色、半透明、褐色の廣き二横帯を具へ、翅端は黒褐、尙ほ翅端に近く前縁に一個の褐紋を装ひ、脈は褐色と白色の斑をなす。後翅は透明、末端及び後縁は暗色を帯ぶ。脚は暗黄、前肢、前腿節の大部は黒褐。腹部は暗黄。腹背は黒褐。體長(♂)二分二厘、(♀)二分五厘。翅の開張七分内外。此は東京近傍の櫟林に普通なる種類なり。

分布——北海道、本州、九州。

(69) **オホツマガドロヨコバへ** 正千蟲二。六四頁 (N. 289) (第五圖) (18) (♀)

學名 *Tettigoniella ferruginea* Wk. var. *apicalis* Wk.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XI, f. 18, ♀, p. 64, N. 289 (1905)

體は橙黄色(生時黄綠)。頭は半球状をなして突出し、頭頂に卵形の一黒紋を具へ、前頭にも黒紋ありて、之れは額より額片に連續す。口吻は黑色にして、短かし。前胸背の前縁に一個、後縁に二個、稜狀部の中央に一個の黒紋あり。前翅は黄橙色、翅底の一紋及び翅端は黑色。後翅は黑色にして、少しく紫色を帯ぶ。胸下及び腹部は黑色。各腹面節の後縁は黄色。脚は黑色、脛節の上端及び跗節の第一節は黄色。體長(♂)四分。翅の開張八分内外。此は茶に普通なる種類なれども亦、桑をも害す。

分布——本州、四國、九州、支那、比律賓、瓜哇、馬來、印度。

(70) **クサビヨコバへ** 正千蟲二。六四頁 (N. 290) (第五圖) (19) (♀)

學名 *Athyssanopsis zalcis* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 19, ♀, p. 64, N. 290 (1905)

體は黄綠。頭は黄色、頭頂に二個の黒紋あり。顔は長幅稍や相等しく、斑紋なし。口吻は短かく、末端は褐色。前胸背の前縁に八個の黒紋ありて、一列をなして弓状に並列し、其の中央にある二個は大きく、細き横皺多し。稜狀部は黄色、兩側及び中央に各一個の黒紋あり。前翅は長く、黄綠にして、末端は少しく暗色を帯び、前縁は透明、翅脈は黄色、但し雄にては中央を縦走する二三脈は褐色なり。體下及び脚は黄色にして、斑紋を缺き、爪は褐色なり。體長(♂)一分五厘、(♀)二分。翅の開張(♂)四分二厘、(♀)五分内外。此は柳に普通なる種類にして、殊に播州地方に多し。

分布——本州(播州)。

(71) フタテントガリヨコバへ 正千蟲二.六五頁 (N. 291) (第五圖) (♀)

學名 *Ischidaella straminea* Motsch.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thous, Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 20, ♀, p. 65, N. 291 (1905)

體は黃白乃至黃橙色。頭は前胸背と略ぼ同長、稍や圓錐形をなして突出し、前頂の兩側に各一個の黒紋を具へ、中には一條の細き縦溝を裝ひ、兩側には低き斜隆起あり。顔は長く、頂上に一個の短かき黒縦條を裝ふ。口吻は短かし。前胸背の後半に細き横皺を裝ふ。稜狀部に縦皺及び横皺あり。前翅は半透明にして、脈判然せず。體下及び脚は體上と同色なれども、腹面は濃色なり。跗節は少しく綠色を帯び、爪は淡褐なり。體長(♂)二分五厘、(♀)三分。翅の開張(♂)五分、(♀)五分六厘。此は札幌地方に普通なる種類にして、雜草間に多し。時に葡萄の葉液を吸収し大害を加ふることあり。

分布——北海道、本州、西比利亞。

(72) オホヨコバへ 正千蟲二.六六頁 (N. 292) (第五圖) (♀)

學名 *Tetigoniella viridis* L.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thous, Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 21, ♀, p. 66, N. 292 (1905)

體は綠色。頭は稍や半球狀をなして突出し、頭頂には五角形の二黒紋を具へ、前頭の兩側に褐色の横線を並列し、額の全面にも同様の横線を裝ひ、中央に褐色の二縦條あり。額片の中央は淡褐。口吻は太く、黄色。前胸背は前頭より少しく長く、後半に横皺あり。稜狀部には異狀なし。前翅は綠色、脈は綠色なれども、中央の縦脈の

褐色なるものあり、翅端及び前縁は灰白、半透明。胸下、腹部及び脚は黄色。體長(♂)二分五厘、(♀)三分。翅の開張(♂)五分、(♀)六分内外。此は本邦最も普通なる種類にて、禾本科植物に住すれども亦、時に茶及び桑に有害なることあり。

分布——北海道、本州、九州、朝鮮、支那、西比利亞、歐洲。

(73) ツマゲロヨコバへ 正千蟲二.六六頁 (N. 293) (第五圖) (♀)

學名 *Nephotettix apicalis* Motsch. var. *cincliceps* Uhl.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thous, Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 22, ♀, p. 66, N. 293 (1905)

體は綠色。頭は黄緑、前頭には一條の黒横線を具へ、顔は雄にては大部黒色、雌にては黄色、兩側に褐色の横線を連ぬ。口吻は短かく、末端は褐色。前胸背は頭部より少しく長く、稜狀部より少しく短かし。前翅は綠色、雄にては末端は黒色、雌にては灰色、半透明。胸下及び腹部は雄にては黒色、雌にては黄色。但し雌の腹背は黒色。脚は黄色、腿節に褐色の縦條を裝ふ。跗節端及び爪は褐色。體長(♂)一分二厘、(♀)一分五厘。翅の開張(♂)二分五厘、(♀)三分三厘。此は本邦最も有名なる浮塵子にして、稻を害す。北海道に産せず。

分布——本州、四國、九州、琉球、臺灣、朝鮮、支那、比律賓、瓜哇、馬來、印度。

(74) シロツキンヨコバへ 正千蟲二.六七頁 (N. 294) (第五圖) (♀)

學名 *Idiocerus ishivanne* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thous, Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 23, ♀, p. 67, N. 294 (1905)

體は黃白。頭は前胸背より廣く、淡黃にして、斑紋を缺き、前縁及び後縁は相平行す。單眼は額の中央に二個あり。口吻太く、中肢の基節外に達し、末端は褐色。前胸背は少しく綠色を帯び、稍や半透明なるを以て、中胸背にある黒紋を透視し得べし。稜状部は兩側の基部に黒色の三角紋を裝ひ、尙、中央にも二個の小黒紋あり。前翅は灰白にして、少しく黄色を混じ、内縁は少しく綠色を帯ふ。翅端の膜質部は暗色、但し時に淡色なるものあり。後翅は透明。體下及び脚は淡綠白にして、爪の一部は褐色なり。體長(♂)一分四厘、(♀)一分七厘。翅端迄二分内外。此は柳に普通なる種類にして、河畔に多し。

分布——北海道、本州。

(75) モンキヒロツヨコバへ 正千蟲二。六七頁 (N. 395) (第五圖 (24) (♀))

學名 *Bythoscopus mali* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thous. Ins. Jap., II, pl. 24, ♀, p. 67, N. 295 (1905)

體は黃褐。頭は黄色、額の下方、額片及び頬片は黃褐。口吻は黄色、基部は黒褐。前胸は頭より狭く、前縁は黄色。稜状部の中央及び兩側に濃色の縦紋を裝ふ。前翅は黃褐、内縁角に大なる黄橙色の一紋を具へ、翅端は暗色。胸下は黒色にして、黄色を帯ふ。脚は黄色、基節及び爪は褐色。腹部は黄色。産卵官は黒褐。體長(翅端迄)(♂)一分六厘、(♀)二分。此は青森縣下にありて萃樹に有害なり。他の喬木にも稀ならず。

分布——本州。

(76) シダヒロツヨコバへ 正千蟲二。六八頁 (N. 396) (第五圖 (25) (♀))

(シダノヒロツヨコバへ)

學名 *Agallia pteridis* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 25, ♀, p. 68, N. 291 (1905)

體は灰褐。頭及び前胸背は黃白。頭は甚だ短かく、上より見るときは單に後縁の隆起を見得べく、之れに二個の黒紋あり。顔は黃褐、上縁は黄色、七個の黒紋ありて、觸角下にあるものは大なり。額片の末端は褐色。前胸背の前縁は褐色、中央に淡褐の横紋あり。稜状部は褐色、末端は黄色、基部には黒褐の二大紋あり。前翅は灰褐、半透明、脈の大部は灰白。胸下は黒褐。脚は黄色、前中兩跗節は褐色、各節の後縁及び尾節は黄色。體長(♂)一分四厘、(♀)一分八厘。此は羊齒に普通なる種類なり。

分布——北海道、本州、九州。

(77) ツキンヨコバへ 正千蟲二。六八頁 (N. 397) (第五圖 (26) (♀))

學名 *Idiocerus vitticollis* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 26, ♀, p. 68, N. 297 (1905)

體は淡褐。頭は黄色、頭頂に二個の黒點を裝ふ。額には褐色點を粗布す。口吻は黄色、其の末端は褐色。前胸背の中央に太き灰白の一縦條を裝ひ、前縁は淡色にして、褐紋を散在し、後縁の兩側に各一個の黒褐紋あり。稜状部の基部及び中央には黒褐紋を裝ふ。前翅は淡褐、半透明、脈は褐色にして、脈上に小顆粒を列ね、末端に近く白色の脈あり。後翅は灰白、半透明、脈は褐色。腹背は黒色。腹面、胸下及び脚は黄色。各腹背節の後縁は細く白色なり。體長(♂)一分五厘、(♀)二分。翅の開張四分内外。此は本邦最も普通なる種類にして、柳に多し。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(78) ヒロヨコバへ 千蟲二。六九頁 (N. 298) (第五圖 (27) (♀))

(フトヨコバ)

學名 *Abyssanus vittatipes* Uhl.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 27, ♀, p. 69, N. 298 (1905)

體は太く暗黄、少しく緑色を混す。頭は廣く、頭頂に淡褐の横條あり。額には褐色の横條を並列し、中央部は褐色なり。口吻は細短、末端は褐色。前胸背の中央より後縁に渡りて、細き横皺あり。前翅は暗黄、半透明、脈は黄色、内片及び外片の接合線は褐色。胸下は黒褐。脚及び腹面は黄色。前肢の基節にある一紋及び腿節の縦條は黒褐。腹背は黒色、兩側は黄色。體長(翅端迄)♂二分、(♀)二分五厘。此はヨモギに普通なる種類なり。

分布——北海道、本州。

(79) キスチカンムリヨコバへ 正千蟲二。七〇頁 (N. 299) (第五圖 (28) (♀))

學名 *Emecanthus interruptus* L.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XXI, f. 28, ♀, p. 70, N. 299 (1905)

體は黒色。體下は黄色、頭は鋭角をなし、前胸背と略ぼ同長、後縁の兩角及び單眼の部分は黄色、額は黄色、額の下方は暗色。前胸背は黒色、横皺多く、後縁は狭く黄色なり。稜状部は短かく、細き皺紋を裝ふ。前翅は黒色、前縁(外片の接合線に接する所)及び後縁(内片の内側)は黄色。後翅は暗黒色。脚は黄色、爪は褐色。腹部は黒色、接合膜に黄紋を具へ、尙、尾節は黄色、但し雌雄によりその色澤を異にす。體長(♂)二分、(♀)二分五厘内外。本邦産のものは歐洲産のものより大なり。此は雜草間に稀ならず。

分布——北海道、本州、朝鮮、支那、西比利亞、歐洲。

(80) ワタナベビハハゴロモ 新千蟲一。五三頁 (N. 88) (第六圖 (1) (♀))

學名 *Fulgorn* (*Hottius*) *watanabei* Mats. (英文六頁參照)

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科 (*Fulgoridae*)。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 1, ♀, p. 54, N. 88 (1913)

體は黄色、少しく緑色を帯ぶ。頭は延長し、體より少しく短かく、末端は球桿状に膨大し、白粉塊は紋状をなして散在し、複眼の前方に一黒褐紋を裝ふ。稜状部は黄色、兩側に各一黒紋を裝ふ。翅は黄白、前翅の前縁に三黒紋を具へ、中央に二條の不正帯ありて、兩者、一斜條によりて相連絡することあり。尙、此の兩側に數個の黄色紋を有することあり。翅端は暗褐、此の部分の脈は黄白、白紋を散在す。尙、翅底及び後縁に近く黒紋を有することあり。後翅は光線の工合により少しく桃色を帯び、外縁は少しく灰色を放ち、脈は黄色。腹部は黄色、腹背には白粉多し。口吻及び脚は黒色。後腿節は黄色。體長一寸——一寸二分。開張二寸五分——二寸八分。此は故、渡邊龜作氏の始めて採集せるものなるが、臺灣北埔地方には稀ならず。

分布——臺灣(北埔)。

(81) キシタハゴロモ 新千蟲一。五四頁 (N. 89) (第六圖 (2) (♀))

學名 *Aphana pulchella* Guér.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 2, ♀, p. 54, N. 89 (1913)

頭、前胸及び稜状部は暗褐、中後の兩胸及び腹部は黄色、但し紅色を混する部分あり。體下は暗褐。脚は黒色、

黄紋を装ふ。前翅は黄褐、大小の黒紋を散在し、翅端は淡色、後縁の外縁に近き處に一白紋を装ふ。後翅は橙黄色、翅底は紅色を混じ、十七八個の黒紋ありて、三列に排置せられ、尙、中央に四個の白紋を装ひ、外縁は廣く黒色、其の内に青白紋あり。體長五分—六分。開張一寸四分—一寸六分。此は臺灣恒春地方に産すれども、其の數、多からず。

分布—臺灣、支那、馬來、印度。

(82) シロモンハゴロモ 新千蟲一。五五頁 (N. 90) (第六圖 (3)) (♂)

學名 *Ricania speculum* Wk.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 3, ♀, p. 55, N. 90 (1913)

體は褐色。前翅は暗褐、中央に近く判然せざる二暗色帯ありて、其の中間に一黒紋を具へ、其の外側に更に一白紋を装ふ。前縁の一紋及び外縁の二紋は白色、外縁は黒色。後翅は小にして、暗色、前縁は黄褐。脚は黄褐、腿節は少しく暗色を帯ふ。體長三分五厘(翅端迄)。此は臺灣恒春地方に普通なり。

分布—臺灣、支那、比律賓、瓜哇、印度。

(83) エボシハゴロモ 新千蟲一。五五頁 (N. 91) (第六圖 (4)) (♀)

學名 *Toriga formosana* Mats. (英文七頁参照)

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 4, ♀, p. 56, N. 91 (1913)

體は黄色、翅は暗綠色。頭は長く尖りて上向し、尖端は暗色を帯び、顔に四縦隆ありて、兩側にあるものは尖端に達せず。頭頂の兩側に縦隆あれども、短かし。前翅の前縁は弓状をなして曲り、後縁角は鋭角をなして突出し、後縁黄色、脈は綠色、縦脈は判然すれども、横脈は判然せず、全面に低き疣状突起を密布す。脚は黄褐、暗褐の小點を散在す。體長五分五厘。此は臺灣恒春地方に多し。

分布—臺灣(恒春)。

(84) クロスチテングスケバ 新千蟲一。五七頁 (N. 92) (第六圖 (5)) (♂)

學名 *Dictyophora nigrovittata* Mats.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap. Add., pl. I, f. 5, ♀, p. 57, N. 92 (1913)

體は淡黄褐。頭は方柱形にして、體長より少しく短かく、顔の兩側に赤色の一縦條を具へ、其の下方に綠色を帯びたる部分あり。前胸背に赤色の二縦條を装ふ。稜状部に黄褐の四縦條あり。前翅は細長、中央より翅端に互り暗褐の一縦條ありて、之は翅端にて廣まり、尙、後縁に近き横脈の暗褐を呈するものあり。脚は淡黄褐、暗褐の縦條を装ひ、跗節端及び爪は暗褐。體長四分五厘(翅端迄)。此は臺灣地方に稀ならず。

分布—臺灣(濁水)。

(85) コフテングスケバ 新千蟲一。五七頁 (N. 93) (第六圖 (6)) (♀)

學名 *Saigona* (*Dictyophora*) *gibbosa* Mats.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 6, ♀, p. 57, N. 93 (1913)

體は黒色。頭は體長の半部よりも少しく長く、末端は球桿状に膨大し、中央及び基部に瘤状突起を装ひ、黄白

の小紋を散在し、頭頂にある黄白紋は大なり。前胸背の中央にある縦隆は白色。稜状部の中央に黄白の太き一縦條あり。翅は透明、脈及び縁紋は黒色。胸側に白縦紋を装ふ。脚は黄色、前腿節の末端に近き下面に齒状の一突起あり。體長五分五厘。此は臺灣地方に産すれども稀なり。

分布——臺灣(阿里山)。

(86) **モンスケバモドキ** 新千蟲一。五八頁 (N. 94) (第六圖(7)♀)

學名 *Bidus vittata* Mats.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 7, ♀, p. 58, N. 94 (1913)

體は淡綠黄、頭頂及び前胸背に黒紋を散在す。觸角は長く、第三節の末端に近く黒紋を装ひ、觸角の着部に近く赤色紋を有す。稜状部に五縦隆ありて、少しく暗褐を帯ぶ。翅は稍や透明、淡黄褐にして、脈に暗色を呈する部分あり。翅端に黒紋を具へ、其の黒紋の延長して縦線となれるものあり。臺灣に産するものは黒紋大にして、延長すれども、沖繩地方に産するものは黒紋小にして、延長せず、腹側に黒紋を列ね、脚に判然せる斑紋を缺く。體長三分。此は臺灣及び沖繩に稀ならず。

分布——八丈島、沖繩、臺灣。

(87) **ナガゲンバイスケバ** 新千蟲一。五八頁 (N. 95) (第六圖(8)♀)

學名 *Platyepom 4-vittata* Mats. (英文八頁参照)

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 8, ♀, p. 59, N. 95 (1913)

體は扁平、綠色、側面より見る時は少しく弓状をなして下方に曲る。頭延長して前胸よりも二倍長く、中央に一縦隆を具へ、其の兩側に赤色の各一縦條を装ふ。顔は淡色にして、赤色の二縦條を有す。前胸背に三縦隆を具へ、赤色の四縦條を装ふ。稜状部に三縦隆を具へ、中央に細き赤色の二縦條あり。翅は半透明、翅底の半部は綠色を帯び、末端は稍や透明なり。體下及び脚は白色、少しく綠色を帯ぶ。産卵管は褐色。體長三分三厘。此は本邦に稀なれども、臺灣には普通なり。

分布——本州、臺灣。

(88) **キガシラヒシウンカ** 新千蟲一。六〇頁 (N. 96) (第六圖(9)♀)

學名 *Kuvorn (Cixius) flaviceps* Mats.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 9, ♀, p. 60, N. 96 (1913)

體は黒色、頭(中央は褐色)、顔(中央及び額片は褐色)、前胸、稜状部、胸面、脚及び尾端は黄色。稜状部に三縦隆を装ふ。翅は透明、脈は黄褐、微小の顆粒多く、縁紋及び外縁の周縁は褐色。雌の産卵管は長くして、上方に弓曲す。體長二分——二分五厘(翅端迄)。此は本邦最も普通なる種類にして、シナの木に多し。

分布——北海道、本州。

(89) **ヤナギカハウンカ** 新千蟲一。六〇頁 (N. 97) (第六圖(10)♀)

學名 *Colyceps nariumata* Uhl.

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 10, ♀, p. 60, N. 97 (1913)

體は黒色、前胸背、翅底鱗、稜状部の末端、觸角、前翅の縁紋等は黄色。前翅は灰色、半透明、數多暗色の波状線ありて、中央にあるものは判然し、縁紋の内外及び翅端に一黒紋を裝ふ。翅脈に沿ひ、黒褐の小顆粒ありて、之れより各一黒毛を生ず。後翅は暗灰色。脚は黄色。體長三分内外。此は柳、白楊等に普通なれども、北海道に産せず。

分布——本州、四國、九州。

(90) カタビロヒシウンカ 新千蟲一。六一頁 (N. 88) (第六圖 (11) (♀))

學名 *Isanus larinensis* Mats. (英文八頁參照)

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thous. Ins. Jap. Add, I, pl. VIII, ♀, p. 61, N. 98 (1913)

體は稜形、黄褐色。前胸背及び顔の兩側に灰白の顆粒を裝ふ。前翅の肩部は著しく突出し、其の突出部の直下に半透明の灰白紋を具へ、脈黄白にして、網状をなす。口吻及び胸側紋は黒褐。脚は淡黄褐、跗節端及び爪は暗褐。體長二分五厘。此は本邦餘り多からざる種類にして、殼斗科植物の葉上に捕獲せらる。

分布——本州(播州)。

(91) ツマダロシユロウンカ 新千蟲一。六二頁 (N. 89) (第六圖 (12) (♂))

學名 *Ommatissus apicalis* Mats. (英文九頁參照)

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thous. Ins. Jap. Add, I, pl. VIII, f. 12, ♂, p. 62, N. 99 (1913)

體は淡黄褐、頭及び前胸背に綠色を帯びたる部分あり。頭頂、前胸背及び稜状部を一貫せる一縦條、前胸及び

稜状部の兩側にある一縦條並に顔の三縦條は紅色。尙、觸角の上方にも紅色の一紋を裝ひ、額片の兩側は暗褐。

前翅は半透明、少しく黄色を帯び、翅底より中央迄の一縦紋及び翅端は廣く暗褐。後翅は透明。胸側及び腹面は

黒褐。腹背に紅色を呈する部分あり。脚は黒褐、轉節、腿節の末端及び脛節の兩端並に跗節は黄褐。體長三分。

此は臺灣地方に産すれども、稀なり。

分布——臺灣(大目降)。

(92) クハヤマハネナガウンカ 新千蟲一。六二頁 (N. 100) (第六圖 (13) (♀))

學名 *Thracia kuwamyamae* Mats. (英文九頁參照)

昆蟲學上の地位、白蠟蟲科。Thous. Ins. Jap. Add, I, pl. VIII, f. 13, ♀, p. 62, N. 110 (1913)

體は栗色、頭及び額片は黄褐、稜状部の三縦條は黄白。前翅は長く、體の三倍以上に達し、黒色、後縁は透明、透明部と黒色部との限界は波状をなし、前縁の基部より中程に至る迄、灰白、半透明、前縁の二、三脈は中程より翅端に達する迄、紅色を帯び、其の横脈は白色。後翅は透明、翅端及び翅底は少しく暗色を帯ぶ。腹部は黒褐、黄白の小紋を散在す。脚は黄白、基部及腿節の基部は暗色を帯ぶ。體長六分(翅端迄)。此はトドマツ、エゾマツ等に捕獲せらるゝも稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(93) ヨモギシロテンヨコバへ 新千蟲一。六四頁 (N. 101) (第六圖 (14) (♀))

學名 *Tylozygoides artemisiae* Mats.



昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. VIII, f. 14, ♀, p. 64, N. 101 (1913)

體は黒色、體下及び脚は黄白。前頭は褐色、兩側に黄白の三横線を裝ひ、中央に黄白の一縦條ありて、此は前縁にて判然す。單眼は頭頂の中央に二個あり。稜狀部は黄白。前翅は黒色、後縁の中央紋及び翅端に近き二小紋は透明、尙、前縁に近く黄白の小紋を散在す。後翅は黒色。體長二分内外。此は本邦普通なる種類にして、ヨモギに多し。

分布——北海道、本州、九州。

(94) クロヒラタヨコバへ 新千蟲一。六四頁 (N. 102) (第六圖 (15)) (♀)

學名 *Penthimia nitida* Leht.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. VIII, f. 15, p. 64, N. 102 (1913)

體は黒色。頭は前縁にて圓く、頭頂に二單眼あり。前胸背は頭よりも少しく廣く、黄白の小紋を横列す。稜狀部に黄白の三紋ありて、三角形に排列す。前翅は黒色、黄白の小紋を散在し、翅端は灰白、半透明、脈は暗色(斑紋に一定せざるものあり)。脚は黒色、各節の基部は黄白、後肢長し。體長一分五厘。此は北海道に産せず。本州にては草間に稀ならず。

分布——本州、朝鮮、滿洲、支那、西比利亞、臺灣。

(95) ヤエヤマヲモナガヨコバへ 新千蟲一。六五頁 (N. 103) (第六圖 (16)) (♀)

學名 *Coelidia* (*Jassus*) *yayeyamae* Mats. 英文一〇頁參照)

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. VIII, f. 16, ♀, p. 65, N. 103 (1913)

體は淡黄褐。頭は黄色、前縁に二黒點を裝ふ。顔長く、紅色の二縦條あり。前胸背及び稜狀部に顆粒突起多く、後者にあるものは小なり。前翅は黄褐、脈に黄白の顆粒多く、翅面には黄白の小點を散在す。後翅は稍や透明、少しく黄色を帯び、末端は暗色を帯ぶ。腹背の兩側に黒褐紋を列ぬ。脚は淡黄褐。體長三分——四分五厘。此は臺灣恒春地方に多く、海岸の植物に捕獲し得べし。

分布——沖繩、臺灣。

(96) ウラカハツキンヨコバへ 新千蟲一。六五頁 (N. 104) (第六圖 (17)) (♀)

學名 *Idiocerus urakawensis* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. VIII, f. 17, ♀, p. 65, N. 104 (1913)

體は黄白、頭は黄色、觸角の鞭毛は基部を除き暗褐。稜狀部の兩側に雌にては三角形の黄色紋、雄にては黒紋を裝ひ、尙、雄に限り中央に二個の黒紋を有するものあり。前翅は黄白、半透明、脈は黄色、後縁の外縁に近き脈は褐色を帯ぶ。體下(産卵管共)及び脚は黄白、但し顔は黄色。體長二分内外。此は柳に稀ならず。

分布——北海道、本州。

(97) ヒトツメヨコバへ 新千蟲一。六六頁 (N. 105) (第六圖 (18)) (♀)

學名 *Thamnotetix cyclops* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. VIII, f. 18, ♀, p. 66, N. 105 (1913)

體は黃褐、體下及び脚は黃白。頭頂の後縁に圓形の一黒點を具へ、尙、觸角着部の下方に一黒紋を裝ふ。顔の中央に淡褐の二縦條を有するものあり。前翅は黃褐、半透明。體長一分五厘——一分七厘。此は本邦に廣く傳播せる浮塵子にして、草間に捕獲し得べし。

分布——北海道、本州、九州、朝鮮、西比利亞。

(98) クロスヂヒロヨコバへ 新千蟲一。六六頁 (N. 100) (第六圖 (19) ♀)

學名 *Athysanus limbifer* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 19, ♀, p. 66, N. 106 (1913)

體は綠黃。前頭の二紋及び頭頂の横帶、額の二紋及び其下方の界線、額片の中央紋、前胸背の一横帶、胸面並に前翅前縁の直下にある一縦條は黒色。前胸背及び稜狀部に褐色紋を散在す。前翅は淡黃褐、前縁は綠黃。脚は綠黃、基部の一紋、前腿節基部の縦條及び後脛節の縦條は黒色。尙、腹面の基部にも黒紋を有するものあり。體長二分——二分三厘。此は柳に産すれども稀なり。著者は青森縣十和田湖畔に於て數多の本種を採集せり。

分布——本州(東京、青森)。

(99) ドロツキンヨコバへ 新千蟲一。六七頁 (N. 107) (第六圖 (20) ♀)

學名 *Idiocerus populi* L.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 20, ♀, p. 107 (1913)

體は黃白。頭頂及び顔に斑紋を缺く。前胸背は其の下面にある黒紋によりて少しく灰色を帶ぶ。稜狀部の兩側に

三角形の黒紋を裝ふ。前翅は半透明、少しく灰黃を帶び、後縁は翅底より中央に至る迄暗褐、其の中央に白紋を裝ひ、尙、暗褐部の外側に灰白の半透明紋を有し、脈は餘り判然せざれども、翅端にあるものは淡き暗褐を呈す。體下及び脚は黃白。腹背は雄にては大部黒色、雌にては褐色の二帶を裝ふ。體長雄雌一分八厘——二分二厘。此は柳、白楊等に稀ならず。

分布——北海道、本州(青森)、滿洲、歐洲。

(100) シロセスチヨコバへ 新千蟲一。六八頁 (N. 108) (第六圖 (21) ♀)

學名 *Scaphoidens albovitatus* Mats. (英文一〇頁參照)

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 21, ♀, p. 68, N. 108 (1913)

體は灰黃色。頭頂より稜狀部に達せる太き一縦條は黃白、頭頂の四紋、前胸背の八紋及び顔の七紋並に眼の後方より前胸側に達する一縦條は黒色。尙、頭頂の二紋、前胸背の四紋及び稜狀部の二紋は黃赤。前翅は半透明、少しく黄色を帶び、脈及び中央にある三斜紋、内縁に近きく字形紋並に翅端の一紋黒褐。後翅は白色、半透明。腹背は黃赤。腹面に二列の黃赤紋を裝ふ。體長一分六厘——一分八厘。此は本邦稀ならざる種類なれども、北海道には産せず。

分布——本州、九州、臺灣。

(101) トビイロヒロヨコバへ 新千蟲一。六九頁 (N. 109) (第六圖 (22) ♀)

學名 *Goniognathus formosanus* Mats. (英文一一頁參照)

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thous. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 22, ♀, p. 69, N. 109 (1913)

體は黃褐。頭頂に黒色の一帯ありて、此は中央にて相分離す。顔の兩側に約八個の黒横線を並列す。前胸背には横皺多く、灰白の小紋を散在す。翅は黃褐、脈は黃白、之れに黒紋ありて、斑をなし、外縁には黒紋を散在す。體下は淡黃褐。脚には黒紋を散在し、其の内、前肢の基節にあるものは大なり。尙、腹面にも黒紋を散在す。體長二分。此は臺灣に産すれども稀なり。

分布——臺灣。

(102) **コチャイロアシメヨコバヘ** (新千蟲一。七〇頁 (N. 110) (第六圖 (23) (♂))  
(アシメヨコバヘ)

學名 *Tasius (Allygus) dentatus* Mats.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thous. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 23, ♂, p. 70, N. 110 (1913)

これは**チャイロアシメヨコバヘ**(38)に酷似すれども、その異なる所は左の如し。

前頭の中央に一双の褐色紋を具へ、顔の兩側に四個の判然せざる淡色帯を裝ふ。腹面は基部にて黒色。雄の生殖瓣は基部にて太く、末端にて圓く細まる。生殖板は生殖瓣の二倍長ありて、中央に近く一黒紋を具へ、末端は尖り、少しく上向す。雌にては最終の腹面節の中央に二個の深き凸所ありて、更にその中央は三角形をなして突出し、その兩側に齒状の一突起を裝ふ。これは東京、玉川地方の櫟林に普通なり。體長(♂)二分二厘内外。これは(38)より著しく小なれば直ちに區別し得べし。

分布——本州(東京、播州)。

(103) **イナツマヨコバヘ** (新千蟲一。七〇頁 (N. 111) (第六圖 (24) (♀))

學名 *Dalcocephalus dorsalis* Motsch.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thous. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 24, ♀, p. N. 111 (1913)

體は黃白。頭頂には黃褐の二紋を具へ、尙、前頭には同色の八字形紋あり。前胸背には判然せざる黃褐の四縱條を裝ふ。前翅には電光様の黃褐紋ありて、其の界線は濃色。脚は黃白、腿節に二褐紋あり。雌の最後の腹面節に一黒紋を裝ふ。體長一分二厘。此は有名なる稻の害蟲にして、九州及び臺灣に普通なれども、北海道には産せず。

分布——本州、四國、九州、臺灣、支那、比律賓、馬來、瓜哇、印度。

(104) **ナナホシヨコバヘ** (新千蟲一。七二頁 (N. 112) (第六圖 (25) (♀))

學名 *Cicadula septennotata* Fall.

昆蟲學上の地位、浮塵子科。Thous. Ins. Jap. Add., I, pl. VIII, f. 25, ♀, p. 72, N. 112 (1913)

體は黃白。頭頂に四個、稜狀部に二個、額片の末端に一個(雌には此の紋を缺くもの多し)、都合、七個の黒紋を裝ふ。尙、觸角の着部に一個の小黒點を有す。前翅は半透明、黃白、脈は判然せず。體下及び脚は黃白、斑紋を缺き、爪は褐色。體長一分二厘。此は本邦稀なれども、歐洲には普通なり。

分布——北海道、本州(青森)。

(105) タガメ (田鼈) 正千蟲一。一七九頁 (Z. 144) (第七圖) (1) (♂)

學名 *Kirkaldyia (Belostoma) deyrollei* Vuill.

昆蟲學上の地位、田鼈科 (*Belostomatidae*)。Thous. Ins. Jap., I, pl. XIV. 1, ♂, p. 179, N. 144 (1906)

體は泥色。頭は小形。複眼は長楕圓形。前頭は三角形をなして前方に突出し、其の末端に三節ある口吻を有す。觸角は四節より成れども、複眼間の溝中にありて見えす。前胸背は頗る大にして、稍や半圓形を呈し、後縁に近く一個の横溝あり。稜状部は等邊三角形をなし、前胸と略ぼ同長。前翅は革質。後翅は黄白にして、翅底は黄色。前腿節は甚だしく發達して太く、跗節は甚だ短かく、之れには一個の爪鉤あり。中後の兩肢には暗褐紋を裝ひ、二個の長き爪あり。これは本邦、最大の半翅類にして、水中にありて幼魚を捕へ、大害をなす。俗に之れを河伯蟲とも云ふ。夜間、電光を慕ひ飛來するもの多し。雌は尾端に二個の附屬物を有す。體長(翅端迄) (♂) 一寸八分、(♀) 二寸二分内外。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(106) コオヒムシ (子負蟲) 正千蟲一。一八〇頁 (Z. 145) (第七圖) (2) (♂)

學名 *Sphaeroderma japonicum* Vuill.

昆蟲學上の地位、田鼈科。Thous. Ins. Jap., I, pl. f. 2, XIV, ♂, p. 180, N. 145 (1906)

體は暗褐。前種に酷似すれども、遙に小形にして、稍や卵形を呈す。前腿節は發達すれども、其割合は前種の如く太からず、前跗節には爪鉤を缺く。前翅背の前縁は中央に於て少しく凹陥す。脚に黒褐の斑紋なし。これは

前種と同様に水中にありて小魚を捕へ、養魚者に大害を加ふ。雄は常に雌の卵子を背上に附着するを以て、子負蟲の名あり。本邦、何れの地に至るも普通なり。體長(翅端迄) (♂) 八分内外。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(107) タイコウチ (ユリハナスビ) 正千蟲一。一八〇頁 (Z. 146) (第七圖) (3) (♂)

學名 *Iacotrepheus ruber* L. (*japonensis* Scott)

昆蟲學上の地位、紅娘華科 (*Nepidae*)。Thous. Ins. Jap., I, pl. XIV, f. 3, ♂, p. 180, N. 146 (1904)

體は黄褐若くは暗褐。頭は小形。複眼は稍や卵形をなして突出す。觸角は隠れて見えす。前胸背は大にして稍や四角形を呈し、中央には二個の縦隆起を有し、後縁に近く一個の横溝あり。又、後縁の中央は弓狀に刻らる。全面に顆粒狀の突起多し。稜状部は前胸より短かく、兩側及び中央に隆起あり。前翅は前種と同様に革質に硬化し、尾端に達せず。尾端には體よりも長き尾様の二附屬物あり。前肢は甚だしく發達し、腿節は膨大し、其の基部に一個の棘狀突起あり。跗節は一節、之れに爪を缺けども、跗節端は爪同様に硬化せり。これは池沼に普通なる種類にして、又、水田に入り來り小魚を捕食す。體長(♂) 一寸、(♀) 一寸二分内外。

分布——本州、四國、九州。

(108) ミヅカマキリ 正千蟲一。一八一頁 (Z. 147) (第七圖) (4) (♂)

學名 *Ranatra chinensis* Mayr.

昆蟲學上の地位、紅娘華科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XIV, f. 4, ♂, p. 181, N. 147 (1904)

體は暗黃褐。頭は小。複眼は球状をなして甚だしく突出す。口吻は四節。前胸背の前半は細くして、稍や圓柱形を呈し、前縁の兩側には葉狀の附屬物を具へ、後半は甚だしく膨大し、後縁の兩側に低き瘤狀の二突起を具へ、後縁の中央は弓狀に列らる。稜狀部は稍や四角形。前翅は細く、革質に硬化し、尾端に達せず。體と同長なる尾狀の二附屬物あり。雌は尾端に銳利なる長き産卵管を有す。體下部及び脚は暗黃。前肢は蠶蛾同様に發達し、小魚若くは小蟲を捕ふるに適す。脛節の基部は振れたるの觀を呈し、脛節の下方は暗黒なり。これは前種と同様に池沼に普通なり。體長一寸四分内外。

分布——北海道、本州、四國、九州、朝鮮、支那。

(109) ヒメミツカマキリ 正千蟲一。一八二頁(N. 145) (第七圖(5)♀)

學名 *Kamatra unicolor* Scott (brachyura Horv.)

昆蟲學上の地位、紅娘華科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XIV, f. 5, ♀, p. 182, N. 148 (1904)

これは前種に酷似すれども、頗る小形。その他、異なる所は前肢脛節の下方、黒色を呈せず。稜狀部は稍や卵形を呈す。尾狀の二附屬物は腹部より短かし。此の異學名の意は則ち短尾を意味せり。體長(♂)九分内外。分布——本州、四國、九州、沖縄。

(110) マツモムシ (バッテラムシ) 正千蟲一。一八二頁(N. 149) (第七圖(6)♂)

學名 *Zotonecta triguttata* Motsch.

昆蟲學上の地位、松藻蟲科 (Nolonectidae)。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XIV, f. 6, ♂, p. 182, N. 149, (1906)

體は黃褐。複眼は稍や後頭に於て相接し、長楕圓形に近く、其の外側は端直にして、少しく凹陷す。前胸背は稍や六角形、幅廣く、中央に淺き一横溝あり。稜狀部は黒色。前翅は革質にして、硬化し、翅を疊む時は黒色の三大紋を現はす(實は四紋あれども右翅の一紋は左翅の翅端に隠れて見えす)。前縁の基部は黒色、内縁角は黒褐。後肢は甚だしく發達して、長く、脛節及び附節には長毛を裝ふ。腹下部は黒褐。之れは池沼に多く、常に腹部を上方に向け水上に浮ぶ。其の游泳の狀、恰も小舟を漕ぐが如し。故に一名バッテラムシとも云ふ。體長五分内外。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(111) コマツモムシ 正千蟲一。一八二頁(N. 150) (第七圖(7)♂)

學名 *Anisops scutellaris* H. S.

昆蟲學上の地位、松藻蟲科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XIV, f. 7, ♂, p. 182, N. 150 (1904)

體は細長、黃白。頭は黄色。複眼は後頭に於て殆んど相接す。中央に一個の横溝あり。前胸背は稍や五角形、前縁は鈍角をなして前方に突出し、後縁は穹狀に突出す。稜狀部は黒褐、後縁は黃白。前翅は半透明にして、白色を帯び、翅を疊む時は黒色の腹背を透視し得べし。前肢は短かく、其の脛節は側扁にして廣く、後肢は他肢よりも發達して長く、中肢脛節の上方及び後肢脛節の下方は黒色、前中兩肢に各一双の爪あり。此は前種に似たれ

ども、遙に細小なり。前種同様に腹部を上方に向け游泳す。前種の如く多からず。播州地方には普通なり。體長二分二厘内外。

分布——本州、四國、九州。

(112) コフウセンムシ (コミヅムシ) 千蟲一。一八四頁(N. 152) (第七圖(8)♀)

學名 *Corixa substriata* Uhl.

昆蟲學上の地位、風船蟲科 (Corixidae)。Thous. Ins. Jap., I, pl. XIV, f. 8, ♀, p. 184, N. 152 (1904)

體は黄色。頭は前胸より少しく廣し。複眼は頭頂に廣く相隔離し、中央に一個の縦隆起ありて、其の兩側に刻點を裝ふ。前胸背に七個の黒横條ありて、互に相平行し、中央には判然せざる低き縦隆起を裝ふ。稜狀部を缺く。前翅は革質に硬化し、翅底には相平行せる黒色の横條を有すれども、他面にありては黒色波狀の模様あり。但し前縁には斑紋を缺く。後肢は側扁にして發達し、游泳に適す。之れも亦、前種同様の性質を有し、水中に稀ならず。體長一分八厘乃至二分。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(113) オホアメンボ (オホカハグモ) 正千蟲一。一八四頁(N. 153) (第七圖(9)♀)

學名 *Limnotrechus* (Gerris) *elongatus* Uhl.

昆蟲學上の地位、水黽科 (Gerridae)。Thous. Ins. Jap., I, pl. XIV, f. 9, ♀, p. 184, N. 153 (1904)

體は黄褐。頭は前方に突出す。口吻は三節にして、長く、前肢の基部を越ゆ。前胸背は短かく、黄色の縦條を裝ふ。中胸背の中央には一縦隆を具へ、其の兩側に黄條あり。後縁は三角形をなし、其の少しく上方に當り兩側に各一突起あり。前翅は細くして、硬化し、尾端に達せず。内縁は少しく黄褐。體下部は灰色。脚の基節は其の下面に於て黄色を呈す。觸角長く、四節より成る。中後の兩肢は發達し、殊に後肢は一層、長し。尾端に二刺あり。此は本邦最大の水黽類にして、東京近邊には稀ならず。體長(♂)八分、(♀)九分内外。

分布——本州、四國、九州。

(114) ヒメアメンボ (ヒメカハグモ) 正千蟲一。一八五頁(N. 154) (第七圖(10)♂)

學名 *Hygrotrichus paludum* F.

昆蟲學上の地位、水黽科。Thous. Ins. Jap., I, pl. XIV, f. 10, ♂, p. 185, N. 154 (1904)

體は黒褐。體下部は銀白なれども、少しく黄色を帯ぶ。頭は三角形をなして前方に突出す。前胸背に於ける縦線及び中胸背の兩側は赤褐。前翅は尾端に達す。脚は黄色、腿節の外方に黒色の縦條あり、中後の兩肢は發達して長し。此は前種より遙に小形にして、九州地方には稀ならず。體長(♂)三分五厘、(♀)四分五厘内外。

分布——本州、四國、九州。

(115) イトアメンボ (イトカハグモ) 正千蟲一。一八五頁(N. 155) (第七圖(11)♂)

學名 *Hydrometra* (Limnobates) *vittata* Stål

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、水黽科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XIV, f. 11, t. p. 185, N. 155 (1904)

體は黒褐。頭は圓柱形にして、甚だ細長く、中央の兩側に複眼を具へ、前頭は棍棒狀に膨大し、末端の兩側に長き觸角ありて、略ぼ前胸の後縁に達す。觸角の基節は他より太し。前胸及び後胸は背面に於て殆んど相癒着し、唯だ一横溝を有するに過ぎず。中胸背の中央には白色の一縦條あり。前翅は甚だ細く、尾端よりは遙に短かく、前縁及び後縁に近く白條あり。脚は細長にして、黄褐。此は甚だ細長なる種類にして、多く池沼湖畔の藻上を歩行す。其輕き爲め能く水上を歩行し得べし。本邦之れに酷似せる一種あれども、前胸背に白色を有せず、其の學名をヒメイトアメンボ (*H. pycnura* Horv.) と云ふ。兩者何れも稀ならず。體長三分内外。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(116) マルミツムシ 正千蟲一。一八三頁 (N. 151) (第七圖 (12) ♀)

學名 *Plea japonica* Horv.

昆蟲學上の地位、圓水黽科 (*Pleidae*)。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XIV, f. 12, ♀, p. 183, N. 151 (1906)

體は黄褐。稍や卵形。背部は穹狀に膨起し、厚さは幅より廣し。頭は前胸の前縁よりも少しく廣し。複眼は黒褐にして、稍や廣く、頭頂にて相分離し、顔の中央には褐色の一横條あり。前胸背の前縁は一直線をなし、後縁は穹狀をなし、多數の黒點を散在す。稜狀部は三角形にして、短かく、刻點あれども、前胸のものに比して遙に少數なり。前翅は硬化し、全面に無數の刻點を散在す。後肢は前種の如く發達せず。跗節三節にして、二個の長き爪あり。これは本邦此の科に屬する微小種にして、注意せざれば發見すること難し。播州地方の溜池には普通なり。體長八厘内外。

分布——本州、四國、九州。

(117) シマアメンボ 千蟲一。一八六頁 (N. 156) (第七圖 (13) ♂)

(シマカハグモ)

學名 *Melurocoris histrio* Buch.

昆蟲學上の地位、水黽科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XIV, f. 13, t. p. 186, N. 156 (1904)

體は暗黄、黒紋黒條を裝ふ。楕圓形にして兩端細く、頭頂に三黒紋ありて、其の中央にあるものは長し。尙、前頭の一紋、觸角の基節及び口吻の末端は黒色。觸角は末端にて黒色を呈す。前胸背は稍や腎臟形に近く、三黒紋ありて、兩側にあるものは鉤狀に曲る。中胸背は大にして、全體の半を占め、中央に一黒條を有し、兩側の前方には靴狀の黒紋を裝ひ、其の内部は暗黄、其後方に暗黄の長楕圓紋ありて、其内に一黒紋を裝ふ。此の他、後胸背の兩側にも同様紋あり。腹部は黒色、各節の後縁は多少、黄色を帶ぶ。前肢は短かく、腿節の上方、脛節並に跗節は黒色を呈し、跗節端には一双の爪あり。中後の兩肢は甚だしく發達し、殆んど同所より出で、細長にして、一個の細爪あり。此は東京近邊の小溝に普通なる種類にして、又、山間の小川上を走行す。其の性甚だ活潑なり。體長♂一分三厘、♀二分内外。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(118) タイワಂತガメ 新千蟲一。九二頁 (N. 158) (第八圖 (1) ♂)

學名 *Belostoma indicum* Lep. et Serv.

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、田龍科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XI, f. 1, ♂, p. 92, N. 136 (1913)

此は百五號タガメに酷似すれども、其の異なる所は左の如し。

- 一、形遙に大にして、長きこと。
  - 二、前胸背は長く、中央に暗色の一縦條を具へ、兩側に同色の二縦紋ありて、一は前縁より起り、他は後縁より發し、何れも反對縁に達せず、後縁に横皺を缺く。
  - 三、稜狀部にも暗色の二縦紋を裝ふ。
  - 四、翅端に於ける膜質部の脈は總て平行し、横脈を以て相連續するもの稀なり。
  - 五、頭及び口吻の兩側紋、胸側の縦條、中胸片の六紋、前腿節の縦條、轉節の斑紋等は暗色。
  - 六、雄の最終の腹面節は遙に長く、タガメの如く中央に肥大せる部分を缺き、末端に凹陥部なし。雌の尾狀突起は遙に短かし。體長(♂)二寸四分——二寸五分。此は臺灣に稀ならず。
- 分布——臺灣、支那、印度。

(119) マダラミツカマキリ 新千蟲一、九三頁 (N. 138) (第八圖(2)(♀))

學名 *Ranatra maculipes* Mats. (英文一頁參照)

昆蟲學上の地位、紅娘華科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XI, f. 2, ♀, p. 93, N. 136 (1913)

此は百九號ヒメミツカマキリに酷似すれども、其の差異は左の如し。

- 一、體は小形にして、細し。

- 二、前胸背は長くして、細し。

- 三、前肢の基節及び腿節は百九號に比すれば遙に長くして、細く、暗色の斑紋を散在す。中後の腿節及び脛節も亦、長くして細く、中肢の腿節に暗色紋を散在す。

- 四、腹部は百九號に比すれば遙に短かし。之れに反して、尾狀突起は遙に長し。

- 五、雄の生殖板は廣く、中央の縦隆は餘り高からず。體長(♂)七分五厘——八分。此は臺灣の池沼に稀ならず。
- 分布——臺灣(打狗)。

(120) ヲキナハコオヒムシ 新千蟲一、九四頁 (N. 139) (第八圖(3)(♀))

學名 *Sphaeroderma* (*Appanus*) *rusticum* L.

昆蟲學上の地位、田龍科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XI, f. 3, ♀, p. 94, N. 139 (1913)

此は百六號コオヒムシに酷似すれども、左の諸點によりて區別すること容易なり。

- 一、體、遙に小にして、普通、飴色を呈す。
  - 二、頭は短かく、其の前端は明に廣し。前胸背の後縁は廣く、後縁に近き横溝は餘り判然せず、點刻は微小なり。稜狀部の中央にある縮刻は遙に微小なり。
  - 三、半翅鞘には網狀の脈を缺き、膜質部に於ける縦脈の數は遙に少し。
  - 四、雄の生殖板は短かく、コオヒムシの如く其の末端にて鋭尖ならず。
- 體長(♂)五分——五分五厘。此は臺灣に普通なり。
- 分布——沖繩、臺灣、支那、比律賓、印度、濠洲。



(121) コバンムシ 新千蟲一。九五頁 (N. 140) (第八圖 (4) ♂)

學名 *Nauscoris exclamatorius* Scott

昆蟲學上の地位、小判蟲科 (Nauscoridae)。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. XI, f. 4, ♂, p. 95, N. 140 (1916) 體は光澤ある黄色にして、少しく綠色を帯ぶ。體は小判形を呈し、腹部の中央、少しく幅廣く、尾端は三角形をなして終り、後縁には縁毛多し。前頭は圓く、複眼は腎臟形をなす。腹面は暗黄、兩側に暗色紋を列ぬ。これは播州地方の池沼に普通なり。體長四分五厘。その性、小蟲を捕食す。  
分布——本州。

(122) トゲナベブタムシ 新千蟲一。九五頁 (N. 141) (第八圖 (5) ♂)

學名 *Aphelocheirus nuwae* Mats.

昆蟲學上の地位、鍋蓋蟲科 (Aphelocheiridae)。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. XI, f. 5, ♂, p. 95, N. 141 (1916) 體は黄色。後頭の一紋、前胸背の中央(其中央の一紋は黄色)、稜状部の兩側紋、半翅鞘(中央紋は黄色)、腹背の中央(中央の二、三紋は黄色)及び兩側紋は暗色。前胸背及び腹側にある突起は鋭尖。脚は黄色、後脛節及び同第一跗節の中央にある刷状毛は暗色。雄にては腹背黑色にして、中央及び兩側に黄紋を列ぬ。體長二分五厘——三分五厘。これは岐阜地方に稀ならず。嗜んで清水の砂間に棲息す。  
分布——本州、九州(熊本)。

(123) オキナハマツモムシ 新千蟲一。九六頁 (N. 142) (第八圖 (6) ♂)

學名 *Notonecta hirtata* Mats.

昆蟲學上の地位、松藻蟲科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. XI, f. 6, ♂, p. 96, N. 142 (1913) 體は淡黄褐。頭及び前胸背に斑紋を缺く。稜状部は黑色、小顆粒を散在す。前翅は赤褐、黒紋を散在し、中央にあるものは合して帯状をなす。半翅鞘の末端及び膜質部(基部を除き)は黑色。後翅は透明に近く、翅底は朱色。脚は黄色。腹面(兩側は黄色)は暗色。これは沖繩に稀ならず。體長(♂)五分——(♀)五分五厘。  
分布——沖繩(那覇)。

(124) タイワンマツモムシ 新千蟲一。九六頁 (N. 143) (第八圖 (7) ♀)

學名 *Eutlares formosanus* Mats. (英文一二頁参照)

昆蟲學上の地位、松藻蟲科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. XI, f. 7, ♀, p. 96, N. 143 (1913) 體は灰白、後頭に黒紋を有するものあり。前胸背の後縁、稜状部の基部(中央に暗色の縦線を有するものあり)、半翅鞘の基部及び同末端は暗色。體下及び脚は淡黄。口吻の末端は黑色、腹面は暗色、中央及び兩側紋は黄色。黄褐の長毛を装ふ。これは臺灣恒春地方の池沼に普通なり。體長三分。  
(附言) これは松藻蟲 (*Notonecta*) 屬に酷似すれども、前胸背短かく、其の兩側に卵形の凹陷あるを以て容易に區別することを得べし。

分布——臺灣(恒春、臺中)。

(125) ウミアメンボ (ウミダモ) 新千蟲一。九七頁 (Z. 144) (第八圖(8)(♀))

學名 Halobates sericeus Esch.  
昆蟲學上の地位、水黽科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XI, f. 8, ♀, p. 97, N. 144 (1913)

體は灰色。白色の短毛を密生し、光線の工合により銀色を放つ。後頭の二紋及び前胸背の兩側は淡黃褐。觸角及び脚は黒色。基節及び轉節に黃褐紋を裝ふ。腹面は黄色、尾節は暗色、中央の縦條は淡黄色。體長一分八厘。これは海上に普通なる種類にして、廣く太平洋に分布す。播州地方の海上にも稀ならず。  
分布——本州、九州、沖繩、支那、印度、比律賓、瓜哇、その他の太平洋。

(126) カタビロアメンボ 新千蟲一。九八頁 (Z. 145) (第八圖(9)(♂))

學名 Kotovelia kawakamii Mats. (英文一二頁及び一三頁参照)  
昆蟲學上の地位、水黽科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XI, f. 9, ♂, p. 98, N. 145 (1913)

體は黒色、暗褐毛多し。觸角の基部、前胸背の前縁にある一帯及び其の兩側、腹部の兩側及び體下の大部は黄色。脚は黒色、基節、轉節、前腿節基部の大半、後腿節の基部及び其下面は黄色。後腿節は甚だしく肥大し、其の下面に小齒を列ぬ。腹面の基部は暗色。これは臺灣紅頭嶼に於て、川上瀧彌氏の採集せる珍種なり。  
分布——臺灣(紅頭嶼)。

(127) オガサハラアメンボ 新千蟲一。九九頁 (Z. 146) (第八圖(10)(♂))

學名 Neogerris boninensis Mats. (英文一三頁及び一四頁参照)  
昆蟲學上の地位、水黽科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XI, f. 10, ♀, p. 99, N. 146 (1913)

體は天鵞絨様の暗褐色。後頭の弓状紋、前胸背の中央に近き一紋、中胸背の後縁及び脚基部は黃褐。前胸背の後縁、喉頭、前胸片及び前腿節の基部は淡黃褐。體下は天鵞絨様の灰色にして、光澤あり。前後兩翅を缺く。形、普通の水黽に酷似すれども、前胸背の短かきを以て容易に區別する事を得べし。體長二分。これは小笠原島の池沼に普通なり。  
分布——小笠原島(父島)。

(128) メミツムシ 新千蟲一。一〇〇頁 (Z. 147) (第八圖(11)(♀))

學名 Pelogonus flavomarginatus Scott  
昆蟲學上の地位、眼水黽科 (Pelagonidae)。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XI, f. 11, ♀, p. 100, N. 147 (1913)

體は黒褐。頭(後頭を除き)は光澤ある黒色にして、點刻及び縮刻多し。顔の前縁、觸角基部の二節、前胸背の兩側、同後縁並に半翅鞘の前縁は黄色。前胸背、稜状部及び半翅鞘に點刻を粗布す。半翅鞘に判然せざる青白紋を散在せり。膜質部の脈は少なしと雖も判然す。脚は黃褐、其の下面は淡色。體下には灰白の短毛を密生するを以て暗灰色を呈し、又、光線の工合により銀色を現はす。體長一分六厘——一分八厘。これは播州地方の池沼に稀ならず。此の幼蟲は甚だ能く游泳す、然れど微小なれば、注意せざれば發見し難し。

分布——本州、九州。

(129) フウセンムシ (フウセンムシ)

學名 *Corixa distanti* Kirk.

昆蟲學上の地位、風船蟲科 (*Corixidae*)。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XI, f. 12, ♀, p. 101, N. 148 (1913)

體は黄色。前胸背及び前翅は暗褐色にして、前者には約十個の黄帯を具へ、後者には黄帯及び波状の黄線を裝ふ。體下及び脚は黄色。腹面の基部及び前胸背の兩側に暗色部あり。體長(♂)三分——三分五厘。これは札幌地方に普通なり。本邦産、最大の風船蟲なり。

分布——北海道、本州(青森)。

(130) ヒメマルミツムシ 新千蟲一。一〇二頁(N. 149) (第八圖(13)(♀))

學名 *Plea indistinguenda* Mats.

昆蟲學上の地位、圓水蟲科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XI, f. 13, ♀, p. 101, N. 149 (1913)

體は黄褐、稍や卵形にして、甚だしく穹起し、厚は幅より廣く、多數の點刻を散在す。顔の縦隆は地色にして、其中央に暗色の一點を有するものあり。口吻の末端は褐色。脚は淡色、脛節及び跗節端は暗褐。體長五厘。これは播州地方の池沼に普通なれども、其の微小なるが爲め、人の注意を惹かず。

分布——本州、九州。

(附言) これは前出百十六號マルミツムシ(*P. japonica* Horv.)に酷似すれども、約、三分の一の大きなれば、容易に區別することを得べし。更にその他の最も重要な區別點は點刻の割合に頗る大なるにあり。

(131) ヒメフウセンムシ (ヒメフウセンムシ) 新千蟲一。一〇二頁(N. 150) (第八圖(14)(♀))

學名 *Micronecta sedula* Horv.

昆蟲學上の地位、風船蟲科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XI, f. 14, ♀, p. 102, N. 150 (1916)

體は黄色にして、少しく褐色を帯ぶるものあり。頭頂の中央に判然せざる褐色の一縦線を裝ひ、後頭にある暗色の一紋と相連続す。口吻は暗色。前胸背及び前翅は暗黄、後者に暗色の四縦條ありて、前縁にあるものは翅底より中央に達し、他の三條は總て翅底に達せず。體下及び脚は黄色。胸側紋及び腹面の基部は暗色。體長八厘——一分。これは九州の池沼に普通なり。夜間燈火に飛來するもの多し。

分布——本州、九州、臺灣。

(132) ヒメマルガメ 正千蟲一。一八七頁(N. 157) (第九圖(1)(♀))

學名 *Coptosoma biguttatum* Motsch.

昆蟲學上の地位、椿象科 (*Pentatomidae*)。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 1, ♀, p. 187, N. 157 (1904)

體は光澤ある黒色。稍や球形にして、尾端に至り其幅少しく廣し。頭小にして、下方を向く。觸角は黄色。末端の二節は黒褐。前胸背は大にして、穹狀に膨起し、小刻點を散在し、兩縁の前方黄色を呈す。稜狀部は發達し

て、腹部全體を蔽ひ、前縁に近く弓狀の横溝を具へ、其兩側に各一個の小黄紋を装ふ。前翅は稜狀部に蔽はれて見えず、唯だ其黄色の前縁の一部を認め得べし。後翅は膜質、透明（之れは半翅目の分類には餘り必要なし、故に以下其記載を省略す）。脚は黄色にして、後腿節の大部は黒褐。此は極めて小形の種類にして、荳科植物の液汁を吸収するを以て農家に有害なり。時に大豆の莖に群集することあり。體長(♂)八厘内外。  
分布——北海道、本州、四國、九州。

(133) マ ル ガ メ 正千蟲一。一八七頁(N. 152) (第九圖 (2) (♂))

學名 *Coptosoma punctissimum* Mont.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thous. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 2, ♂, p. 187, N. 159 (1904)

體は黒褐。形は前種と同様なれども、少しく大。頭小にして、下方を向く。觸角は黄色。前胸背は穹狀に膨起し、前縁の半は暗黄、兩側に各一個の短かき横溝を具へ、後方の中央には短かき黄色の一縦條あり。稜狀部は甚だしく發達して、腹部の兩體を蔽ひ、稍や四角形を呈す。中央は穹狀に膨起し、多數の小刻點を散在す。腹部の兩側及び脚は黄色。此は本邦有名なる害虫の一にして、時に大小豆の莖液を吸収し、大害を加ふ。常に相集合するの傾きあり。體長(♂)一分三厘、(♀)一分六厘内外。

分布——本州、四國、九州。

(附言) 従來このマルガメに、學名(*C. orbicarium* F.)を用ひ來れども、此のものは東印度及び臺灣に産し、嘗て本邦に發見せられたることなし。

(134) チ ヤ イ ロ ガ メ (ムシ) 正千蟲一。一八八頁(N. 153) (第九圖 (3) (♀))

學名 *Larygaster maurus* L.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thous. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 3, ♀, p. 188, N. 159 (1904)

體は黄褐、稍や楕圓形。頭は三角形をなして、前方に突出し、頭頂の中央には稍や平行せる二個の縦溝あり。觸角及び口吻は黒色、前者の第一節は黄褐。前胸背は稍や六角形を呈し、中央には黄色の一縦條ありて、稜狀部の半に達す。稜狀部は楕圓形にして、尾端に達し、中央は龜甲様に穹起し、黒色の短横線を散在す。尾端に楔狀の淡色紋を有するものありて、基部の兩側には各一個の白紋を装ふ。前翅の大部は稜狀部の下に隠れ、唯だ其の兩側は細き三角形をなして現はる。各腹節の兩側に黒褐紋あり。脚は黄色、若くは黄褐にして、黒褐の小點を散在す。此は播州地方には普通なる種類なり。體長(♂)三分乃至三分五厘。

分布——本州、四國、九州、朝鮮、支那、滿洲、西比利亞、歐洲。

(135) ク ロ ガ メ (ムシ) 正千蟲一。一八八頁(N. 160) (第九圖 (4) (♀))

學名 *Podops* (*Scotinophora*) *lurida* Burm.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thous. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 4, ♀, p. 188, N. 160 (1904)

體は黒色。短かき金色毛を装ひ、光線の工合にて少しく藍色を帯ぶ。頭は細長。複眼は著しく兩側に突出す。口吻は黄褐。觸角は黒褐、各節の基部及び短毛は黄色。前胸の中央に廣き一横溝を具へ、前縁及び中央の兩側には棘狀の一附屬物あり。稜狀部は長くして、殆んど尾端に達し、中央の兩側に於て稍や列られたるの觀を呈し、

中央は餘り膨起せず。前翅の前縁、跗節並に脛節の大部は赤褐。此は本邦有名なる害蟲の一にして、四國、九州地方にありては稲作に大害あり。體長(♂)三分五厘内外。

分布——本州、四國、九州。

(136) オホキンガメ(ムシ) 正千蟲一。一八九頁(N. 161) (第九圖(5)(♀))

學名 *Chrysocoris grandis* Thunb.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thouns. Ins. Jap., I, pl. XX, f. 5, ♀, p. 189, N. 161 (1904)

體は赤色、黒紫色の斑紋あり。頭は光澤ある濃紫色、前頭の兩側に赤紫紋あり。觸角及び口吻は黒色。前胸背は六角形にして、前縁紫色を呈し、兩側に大なる一赤紋を具へ、又、大部赤色にして、中央に四角形の紫黒紋を有するものあり。稜狀部は甚だ長くして、尾端に達し、殆んど全腹部を蓋ひ、中央は穹狀に膨起し、之れに四横紋ありて、第一紋は基部に位し、第二紋は中央にありて、稍や三横紋の相互に重りたるの觀を呈し、又、三紋となりて全く相分離するものあり。第三紋は一直線をなせども、兩側の中央は突出す。第四紋は稍や圓紋に近し。前翅の稜狀部下に表はれたる兩側の部分は濃紫色、其の末端にある膜質部は、遙稜狀部外に出で、黒色なり。體下は紫色にして、胸片の中央は黒紫色、黄紋あり。各腹節の兩側に赤紫色の一大紋を裝ひ、第三及び第四節の中央に大なる赤紋あり。脚は黒紫色、脛節は紫色。此は本邦最大の種類にして、其の美麗なる爲め能く人の知る所なり。播州地方には稀ならず。クチナシ、センダンに稀ならず。體長(♂)七分、(♀)八分内外。

分布——北海道、四國、九州、沖繩、臺灣。

(137) アカスチガメ(ムシ) 正千蟲一。一九〇頁(N. 163) (第九圖(6)(♀))

學名 *Gnaphosoma rubrilineatum* West.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thouns. Ins. Jap., I, pl. XX, f. 6, ♀, p. 190, N. 162 (1904)

體は赤褐、黒條あり。頭は三角形にして、中央に二個の黒縦條あり。觸角は黒褐、第一節並に第二節の基部は黄色。前胸背は著しく下方を向き、之れに六個の黒縦條あり。稜狀部は殆んど尾端に達し、末端に至りて少しく縮小し、これに四個の黒縦條あり。前翅の大部は稜狀部下に隠れて見えす。其兩側に現はれたる前縁は赤色にして、二個の黒紋あり。膜質部は黒色。體下には多數、黒色の圓紋を散在す。脚は黒褐、脛節の基部及び脛節の大部は黄褐、脛節の末端に近く常に黄褐の一小紋あり。此は繖形科植物に普通なる種類なり。體長(♂)三分五厘、(♀)四分五厘内外。

分布——北海道、本州、九州、西比利亞、歐洲。

(138) クチプトガメ(ムシ) 正千蟲一。一九〇頁(N. 163) (第九圖(7)(♀))

學名 *Picromerus lewisi* Scott

昆蟲學上の地位、椿象科。Thouns. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 7, ♀, p. 190, N. 163 (1904)

體は灰褐、若くは黄褐。頭部は稍や長方形、黒褐、複眼の周圍及び後頭に黄赤紋あり。口吻及び觸角は黄褐、前者は甚だ太く、後者は第二、第三及び第四節の末端に於て黒褐。前胸背後方の兩側には鋸狀の小突起ありて、これは赤黄、中央に二個の赤黄紋あり。稜狀部は腹部の半以上に達し、基部の兩側紋及び末端は赤黄。前翅の膜

質部は半透明にして、暗色を帯ぶ。各腹背節の兩側に各一個の黒褐紋を裝ふ。體下は赤黄、黄赤紋を具へ、第五腹節の中央に黒紫色の一大紋あり。脚は黄赤、小黑點を散在し、跗節端は黒褐。此の種類は本邦普通なる種類にして、蝸蝓を蝨殺し、有益なり。體長(♂)五分乃至五分五厘。嘗て樺太にて松蝸蝓の大發生せる時、之れを捕食して、大益ありたり。

分布——樺太、北海道、本州、四國、九州。

(139) コクログイタ 正千蟲一。一九一頁(N. 164) (第九圖(8) (♀))

學名 *Cydnus nigrita* F.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 8, ♀, p. 191, N. 164 (1904)

體黑色、少しく褐色を帯ぶ。稍や楕圓形にして平たし。頭は半圓形、前方に突出し、之れに刻點を有せず。赤褐の長毛を粗生す。觸角及び口吻は黄褐。前胸背は平たく、稍や四角形を呈し、刻點を粗に散在す。中央は滑澤にして刻點を有せず。稜狀部は細き三角形にして、前胸及び頭を合せたるものより少しく長し。半翅鞘は黒褐、前縁に相平行せる長き二縦脈あり。膜質部は暗黄、半透明。脚は黑色、跗節は黄色、脛節には多くの長刺を裝ふ。此は石下若くは倒木下に多く、甲蟲に似たる種類なり。體長(♂)二分、(♀)二分五厘内外。

分布——本州、四國、九州。

(140) ミツボシガイタ 正千蟲一。一九二頁(N. 165) (第九圖(9) (♀))

學名 *Gnathococcus trigenitulus* Motsch.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 9, ♀, p. 192, N. 165 (1904)

體は光澤ある黑色、周圍は白色。卵形にして平たく、前種に酷似す。頭は長く、之れに多數の刻點を散在す。觸角は黑色なれども、少しく褐色を帯ぶ。前胸背は稍や穹狀に膨起し、後縁に近く他より大なる刻點を散在す。稜狀部は頭及び前胸を合したるものより長く、末端は白色。半翅鞘は中央に近く白色の一小紋を裝ふ。膜質部は黑色、外縁は少しく淡色。此種類も前種同様に普通なり。體長(♂)一分五厘、(♀)二分内外。

分布——本州、四國、九州。

(141) トホシガメ(ムシ) 正千蟲一。一九二頁(N. 166) (第九圖(10) (♀))

學名 *Talin decempunctata* Motsch.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 10, ♀, p. 192, N. 166 (1904)

體は暗黄、黑色の刻點を散在す。頭は細長く、前縁の中央に微小なる長方形の切目あり。觸角は黄色、第四及び第五の兩節は黒褐、但し第四節の基部は黄色。口吻は後肢の基部に達し、末端は黒褐。前胸背は大、兩側に前方に曲れる大突起を裝ひ、中央には四個の黒點を一行に横列す。稜狀部は腹部の半以上に達し、六個の黒紋を具へ、其内、四個は前縁に、他の二個は中央に近位し、末端は黄色。半翅鞘の中央にも各、一個の黒紋あり。膜質部は半透明、暗黄を帯ぶ。第一腹節には長き棘狀の一突起ありて、稍や前胸片に達す。體下及び脚は黄色。雄にありては少しく赤味を帯ぶ。跗節は稍や淡褐。此は廣く滿洲、西比利亞地方にも播布する種類にして、札幌地方には稀ならず。體長(♂)七分乃至七分五厘。楡の木に捕獲し得べし。

分布——北海道、本州、滿洲、西比利亞。

(142) エビイロガメ(ムシ) 正千蟲一。一九三頁(N. 167) (第九圖(11)) (♂)

學名 Gonopsis affinis Uhl.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 11, ♂, p. 163, N. 167 (1904)

體は暗黄。頭は細き三角形をなして、前方に突出し、前縁に一條の長き縦溝を有す。觸角は赤色、第五節の末端は黒褐、第一節は黄色にして、黒點を散在す。口吻は短かく、末端は黒色。前胸背の兩側は鋭角をなして突出し、中央に一個の隆起を横走し、兩突起の末端に達す。之れより前方は劃然たる角度をなして下方に斜傾せり。全面には横皺多し。稜狀部は細く、腹部の半に達す。半翅鞘は暗赤黄、膜質部は灰白にして、稍や透明。脚は黄色、脛節及び跗節は赤色を帯ぶ。氣門は黒色。尾端は稍や一直線をなして、截斷狀に終はる。此は東京地方に普通なる種類にして、雜草間に多し。體長(♂)五分五厘、(♀)六分内外。

分布——本州、四國、九州。

(143) ツノアヲガメ(ムシ) 正千蟲一。一九三頁(N. 168) (第九圖(12)) (♀)

學名 Tropicores japonicus Dist.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 12, ♀, p. 163, N. 168 (1904)

體は蠟性の綠色。體下及び脚は赤黄。頭は長く、前縁は稍や細くして圓し。觸角は赤褐、長形、第三節は黒褐。

口吻は長くして、第二腹節に達し、末端は黒褐。前胸背の周縁は赤褐、兩側に角狀の突起を備へ、其末端は斜に截斷せられたるの觀あり。稜狀部は腹部の半以上に達し、末端の周縁は赤黄。前翅の膜質部は暗黒、尾端外に出づ。脚には多數の小黒點を散在す。尾端の兩側には各一個の圓き附屬物あり。此は札幌地方に稀ならざる種類にして、本邦美麗種の一なり。體長(翅の末端迄) (♂)六分五厘、(♀)七分内外。之れは葎樹及び榆の害蟲なり。

分布——北海道、本州。

(144) シロヘリガメ(ムシ) 正千蟲一。一九四頁(N. 169) (第九圖(13)) (♂)

學名 Aemaria lewisi Scott (assimulans Mats. n. sp. Dist.)

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 13, ♂, p. 194, N. 169 (1904)

體は灰色、若くは灰黄、黒色の刻點を密在す。體下は黄色。頭は三角形を呈し、中央の頭頂板は劍狀をなす。觸角黒色、基部の二節は黄色、小黒點を裝ふ。口吻細く、黄色にして、下方の中央にある一線及び末端は黒色。前胸背の突起は低くして、前翅の基部より少しく廣し。稜狀部は腹部の半を越え、基部に横皺あり。半翅鞘の前縁は白色、若くは黄白にして、其内、縁脈に細き黒紋あり。膜質部は暗色、尾節外に出づ。腹背の兩側は黄白。尾端に鋸狀の六小齒を列ぬ。各腹面節の中央に一個の黒點を裝ふ。此は東京近傍に稀ならず。體長四分五厘内外。禾本科植物の液汁を吸收す。

分布——本州、四國、九州。

(145) トゲガメ(ムシ) 正千蟲一。一九四頁(N. 170) (第九圖(14)) (♂)

學名 *Carbula lumerigera* Uhl.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 14, ♂, p. 194, N. 170 (1904)

體は黒褐。少しく藍色を帯ぶ。頭長く、前縁は端直。觸角は暗黄、第四及び第五節の大部は黒色、第五節の基部は黄白。口吻は淡黄、第二節の下方にある縦條及び第三節の大部は黒色。前胸背は短かく、兩側には少しく後方に曲れる棘狀突起ありて、其末端は黄褐、前方の兩側は白色。稜狀部は腹部の半を越え、其末端は白色。前翅の膜質部は灰褐、不透明、少しく尾端を越ゆ。脚は淡黄、黒點を散在し、脛節端及び跗節の大部は黒褐。腹下部は穹狀に膨起し、光澤を有し、藍色を帯ぶ。此はイヌコログサの花に普通なる種類にして、札幌地方に多し。體長(♂)二分五厘内外。

分布——樺太、北海道、本州。

(146) ウヅラガメ(ムシ) 正千蟲一。九五頁(N. 171) (第九圖(15)(♀))

學名 *Aelia fieberti* Scott

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XV, f. 15, ♀, p. 195, N. 171 (1904)

體黄色。頭は三角形にして、長く、象鼻狀をなして少しく下方に曲る。頭頂の中央には灰褐の太き縦條ありて、之れは前胸背の後縁に於て最も幅廣となり、稜狀部の末端に接續し、其の中央に更に黄色の細き一縦條あり。尙ほ頭頂の兩側も黒色。觸角は黄赤、基部細し。口吻黄色、末端及び下方の縦條は黒褐。前胸背は六角形、側縁は黄白。稜狀部の半以上に達し、前翅膜質部の翅脈は大部黒色。前跗節の下方は黒褐。氣門は黒色、之れに近く黒

色紋を散在す。此は有名なる稻の害蟲にして、九州には普通なり。北海道に産せず。體長(♂)三分乃至三分三厘。

分布——本州、四國、九州。

(147) ハサミガメ(ムシ) 正千蟲一。一九六頁(N. 172) (第十圖(1)(♂))

學名 *Acanthosoma labiduroides* Jak.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 1, ♂, p. 196, N. 172 (1904)

體は綠色、時に黄緑なるものあり。光澤を有す。頭は三角形に近く、前縁は圓し。觸角は黄褐にして、長く、體の半ば以上に達し、第三節の末端は黒褐。口吻は細く、末端は黒褐。前胸背の前方は甚だしく下方に斜傾し、兩側の突起は紅色にして、圓く、餘り高からず。稜狀部の末端は細く、兩側は稍や相平行せり。前翅の膜質部は暗褐、半透明、尾端外に出づ。前胸及び中胸片の中間に葉狀の附屬物ありて、口吻の基部に達す。第一腹節の下方に長き針狀の附屬物ありて、前肢の基部に達す。雄は尾端に鋏子様の長き附屬物を有す。雌の尾端は紅色、中央に楕圓形に近き二附屬物を具へ、腹下の中央にも高き一縦隆起あり。此は札幌地方には普通なる種類にして、野葛に多し。體長(♂)五分内外。鋏子の長さ一分四厘、(♀)五分八厘内外。

分布——北海道、本州、滿洲、西比利亞。

(148) ベニモンガメ(ムシ) 正千蟲一。一九六頁(N. 173) (第十圖(2)(♂))

學名 *Elasmostethus matsumurae* Horv.



昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms, Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 2, t. p. 196, N. 173 (1904)

體は黃褐。頭は綠色にして、三角形をなす。觸角黃色、末端の二節は黒褐、但し第五節の基部は黃色。口吻は小にして、下方の一線及び末端は黒褐。前胸背の前縁に黃色の一横條あり。兩側突起は低く、其末端は黒色。稜狀部の末端は細く、前種同様は稍や相平行し、基部の中央に淡紅色の大紋あり。半翅鞘の後縁及び外縁は淡紅色。膜質部は尾端より長く、褐色の一大紋を裝ふ。胸片及び第一腹節には前種同様の附屬物あれども、腹部にあるものは短かし。腹下に一縦隆あり。雄の尾端の兩側は紅色にして、三角形をなして、後方に突出す。又中央に短かき二個の附屬物あり。但し雌は中央に二個の附屬物を有せず。此は札幌地方に稀ならざる種類にして、槭、檜等に捕獲し得べし。(♂) (♀) 三分二厘内外。

分布——北海道、本州。

(149) アヲクサガメ(ムシ) 正千蟲一。一九七頁(N. 174) (第十圖) (3) (♀)

學名 *Nezara antennata* Scott

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms, Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 3, ♀, p. 197, N. 174 (1904)

體は綠色。頭は稍や三角形、前方に突出し、中央に相平行せる不明の細き一縦溝あり。觸角は綠色、第三節の末端、第四及び第五節末端の大半は黒色。口吻の末端及び下方にある縦線は黒色。前胸背前方の三分の二は前方に斜傾し、兩側の突起は低く、之れに褐色の小點を散在す。稜狀部は遙に腹部の中央を越え、小褐點を散在す。前翅の膜質部は透明、無色、尾端を越ゆ。體下部は綠色を帯びたる黄白にして、兩縁に小黒點を列ぬ。脚は綠色、爪の末端は黒褐。此は九州地方に普通なる種類なり。體長四分五厘内外。

分布——本州、四國、九州。

(150) ナガメ 正千蟲一。一九八頁(N. 175) (第十圖) (4) (♂)

學名 *Eurydema rugosum* Motsch.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms, Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 4, ♂, p. 198, N. 175 (1904)

體は赤色。頭は黒色、周縁赤色、前縁の中央は凹陥す。觸角及び口吻は黒色。第三及び第四觸角節の基部は黃色。前胸背の中央に圓形の二大黒紋あり。稜狀部の基部に三角形に近き大黒紋を具へ、末端の兩側にも各一個の黒紋あり。半翅鞘は黒藍色、前縁及び外縁の一紋は赤色。膜質部は黒色、其の周縁は白色。胸面は黒色、黄白紋を具へ、腹面は赤色、各節の中央及び兩側に黒紋ありて、之れは三列に並列す。腿節基部の内方は淡き赤黄なり。此は蔬菜類の液汁を吸収し、農家に有害なり。體長(♂)二分五厘乃至三分。

分布——樺太、北海道、本州。

(151) ハナダカガメ(ムシ) 正千蟲一。一九八頁(N. 176) (第十圖) (5) (♂)

學名 *Bolboocoris reticulata* Dall.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms, Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 5, ♂, p. 198, N. 176 (1904)

體は暗色。後方圓く、前方は稍や等邊三角形をなして、少しく下方を向く。全體粗糙にして、多數の刻點を散在す。頭長く、前縁は下方を向き、其中央に一個の切目あり。觸角及び口吻は赤褐、前者は細く、後者は基部にて黄色を呈す。前胸背の中央に大なる三個の瘤狀突起を有し、前縁の兩側には三角形の突起あり。後半は廣く、

穹狀に膨起す。稜状部は大にして、略ぼ尾端に達し、穹狀に膨起し、基部には長楕圓形の横隆起ありて、其兩側に各一個の黄白點を具へ、又、中央には淡色の一縦條ありて、これは後方に至りて判然し、全面に黒褐なる網狀の不明紋を裝ふ。前翅は稜状部下に隠れて見えす、唯だ兩側に其の前縁を認め得べし。膜質部は灰白、稜状部の末端より突出す。腹部は穹狀に隆起し、中央は黒く、兩側は灰黄にして、黒紋あり。脚黒色。此は本邦至る所に産すれども、餘り多からず。これは印度地方にも産す。體長(♂)一分八厘内外。

分布——本州、四國、九州、臺灣。

(152) ナシガメ(ムシ) 正千蟲一。一九九頁(N. 177) (第十圖)(6)(♂)

學名 *Urochela luteovarva* Dist.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thous. Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 6, ♂, p. 199, N. 177 (1904)

體は灰褐。頭は暗黄、後頭に二黒紋を具へ、前縁には二個の黒縦條あり。觸角は長く、黒色、第四及び第五節の基部は黄色。口吻は黄色、末端は黒色。前胸背は平たく、前方の三分の二は少しく斜傾し、前縁に近く黒紋を裝ひ、後縁の中央に短かき黄色の縦條あり。稜状部は短かく、前胸と略ぼ同長。半翅鞘、前縁の末端及び基部に各一個の黄紋を裝ひ、末端に黒紋あり。膜質部は暗褐、少しく尾端外に出づ。腹下部は黄色、兩側に黒點を散在し、各節の兩側に各一個の黒紋を裝ふ。脚は黄色、腿節の末端、脛節の兩端及び跗節端は黒褐。腿節には多數の小黒點を散在す。此は梨及び菜樹の液汁を吸収し、時に大害を加ふることあり。東北地方には普通なり。體長(♀)四分内外。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(153) クヌギガメ(ムシ) 正千蟲一。一九九頁(N. 178) (第十圖)(7)(♂)

學名 *Urotylus westwoodi* Scott

昆蟲學上の地位、椿象科。Thous. Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 7, ♂, p. 199, N. 178 (1904)

體は綠色、頭は前縁に圓き二突起を有す。複眼は球狀に突出す。觸角は長さ稍や體長と等しく、第一節は綠色、第二節は暗緑、第三節は黒褐、第四及び第五節は黄色にして、其の末端は黒褐なり。口吻は短かく、末端は黒色。前胸背の形は前種同様、黒色の刻點を散在す。稜状部及び半翅鞘にも同様の刻點あり。膜質部は無色、透明にして、基部に近き横條及び三個の縦條は暗色、内方の二縦條は短かし。各腹節の兩側に各一個の黒點あり。脚は綠色、脛節の基部及び跗節の末端は黒褐なり。此は櫟、榆等の植物に普通なる種類にして、前者に似たれども、細長なり。體長(♂)三分三厘乃至三分六厘。

分布——本州、四國、九州。

(154) ブチヒゲガメ(ムシ) 正千蟲一。二〇〇頁(N. 179) (第十圖)(8)(♀)

學名 *Dolycoris laccatum* L.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thous. Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 8, ♀, p. 200, N. 179 (1904)

體は灰褐、少しく紫色を帯ぶ。頭は長く、前方の中央に紡錘狀の頭頂板あり。觸角は黒色にして、各節の基部

は黄色、但し第一節は全體黄色、外側に小黑紋を散在す。口吻は黄色、末端及び下方の縦線は黒色。前胸背の前縁及び兩側は粗糙、黒色の刻點を散在す。稜狀部は腹部の半以上に達し、末端は灰白。前翅の膜質部は暗褐、尾端外に出づ。腹背の兩側に大なる黒紋を列す。體下部は黄色。氣門は黒色。全體黒色の刻點を粗布す。脚は黄色、長き灰白毛を裝ひ、小黑點を散在す。第一及び第三跗節は黒褐。此は本邦何れの地に到るも普通なる種類にして、葱、胡麻等の液汁を吸收す。體長(♀)四分五厘内外。

分布——樺太、北海道、本州、四國、九州、滿洲、西比利亞、歐洲。

(155) エゾアヲガメ(ムシ) 正千蟲一。二〇一頁(N. 180) (第十圖(9)(♀))

學名 *Palomena angulosa* Motsch.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 9, ♀, p. 201, N. 180 (1904)

體は綠色、刻點を密在す。頭の前縁は丸く、中央に劍狀の頭頂板あり。觸角は黒褐、基節は黄緑。口吻は黄色、下方の縦線及び末端は黒褐。前胸背の兩側は稍や三角形に突出す。稜狀部は腹部の半を越え、末端細くして圓し。半翅鞘の刻點は他より粗にして、小なり。膜質部は黒褐、尾端を越ゆ。體下部は淡黄緑、尾端は赤色を帶ぶ。雌にては四個の突起あり。氣門は黒色。脚は綠色、跗節は黄色。此は札幌地方に普通なる種類にして、百四十九號アラクサガメに似れども、前胸背の兩側突起大きく、密在せる深き刻點を有するを以て容易に識別することを得べし。體長(♂)四分四厘、(♀)五分内外。

分布——北海道、本州。

(156) ノコギリガメ(ムシ) 正千蟲一。二〇一頁(N. 181) (第十圖(10)(♀))

學名 *Megymenum tauriforme* Dist.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. VI, f. 10, ♀, p. 201, N. 181 (1904)

體は黒褐、少しく藍色を帶ぶ。頭の中央は甚だしく凹陷す。複眼上には疣狀の各一突起あり。觸角は四節より成り、少しく平たく、第四節の末端は橙黄色。前胸背には凹凸多く、前縁の兩側には棘狀の一突起を裝ひ、中央には大なる瘤狀の突起あり。稜狀部は小にして、腹部の半に達せず、凹凸多し。半翅鞘は小さく、膜質部は黄色にして、遙に尾端に達せず。腹部の兩縁は廣く、突出し、各節に三角形の突起ありて、相共に鋸齒狀をなす。腹下部は穹狀に膨起し、雄の尾端には廣き白様の附屬物あり。脚は體と同色、跗節には褐色部あり。此は九州地方に稀ならざる種類なれども、東北には稀なり。體長(♂)四分五厘、(♀)五分三厘内外。

分布——本州、四國、九州。

(附言) 此は四節ある觸角と、腹部の中央に達せざる稜狀部とを有し、縁椿象科の特性を有すれども、觸角の附着點及び全體の構造は椿象科に屬するものなり。故に學者は此の屬を椿象科に編入す。

(157) シラホシガメ(ムシ) 正千蟲一。二〇二頁(N. 182) (第十圖(11)(♀))

學名 *Ensurcoris ventralis* West.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 11, ♀, p. 202, N. 182 (1904)

體は灰黄、稍や卵形に近し。頭は黒色、少しく藍色を帶び、中央にある頭頂板の兩側は略ぼ相平行し、其末端

は黄色を帯ぶ。觸角は細く、黄色、第三及び第四節は多少暗色を帯ぶ。口吻は黄色、末端は黒褐。前胸背の前縁に近く兩側に各一黒紋を具へ、側縁は白色。稜状部は殆んど尾端に達し、基部の兩側に小なる卵形の一黄白點あり。又、末端に近く黒色の六紋を裝ひ、尙ほ此の紋の判然せざるものあり。腹下部の中央は黒色、兩側は灰白。脚は淡黄、黒紋を散在し、跗節端は黒褐。體長♂一分八厘、♀二分三厘内外。分布——本州、四國、九州。

(158) マルシラホシガメ (ムシ) 正千蟲一。二〇三頁(N. 183) (第十圖 (12) ♀)

學名 *Eusarcocoris ruttiger* Thunb.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 12, ♀, p. 203, N. 183 (1904)

此は前種に酷似すれども、形圓く、幅廣くして、全體に密在せる刻點は大。稜状部は長く、其基部の兩側にある黄紋は大にして、圓く、末端には一個の黒紋あれども、判然せず。腹下部は全體、黒藍色、兩側は黄色。體長♂♀二分内外。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(159) スコットガメ (ムシ) 正千蟲一。二〇三頁(N. 184) (第十圖 (13) ♂)

學名 *Menida scotti* Jak.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 13, ♂, p. 203, N. 184 (1904)

體の前半は暗緑、後半は紫褐。頭の中央にある頭頂板の兩側は平行し、其の末端は少しく頭の前縁より突出す。觸角は黒色、第三節の末端、第四節の兩端及び第五節の後半は黄白。口吻は黒色にして、其基部は黄色。前胸背の側縁は黄白、兩側は少しく突出し、其内方に低き疣状の一突起あり。稜状部は腹部の半を越え、基部の兩側及び末端は黄色、半翅鞘は紫色を帯び、膜質部は透明にして、長く、其前縁の中央に暗色紋あり。腹部の兩側は黄色、黒紋を列ぬ。體下部は暗黄、前胸片の中央は黒褐。此は札幌地方に普通なる種類にして、廣く西比利亞地方にも傳播せり。體長♂三分♀三分五厘内外。

分布——北海道、本州、滿洲、西比利亞。

(160) ムラサキガメ (ムシ) 正千蟲一。二〇四頁(N. 185) (第十圖 (14) ♀)

學名 *Carpocoris nigricornis* F.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 14, ♀, p. 204, N. 185 (1904)

體は赤紫色。頭は褐色乃至黒色にして、細く、中央の頭頂板は前方に於て細く、赤色なる前縁に達せず。觸角は黒色、第一節は赤黄。口吻は黄色にして、細く、末端は黒色。前胸背の兩側は稍や三角形をなして突出し、其の部分は黒色、前縁には短かき四個の黒縦條ありて、之れは後方に至りて不明となり、中央には黄色の一縦條ありて、殆んど稜状部の末端に達す、但し此の線の判然せざるものもあり。稜状部は腹部の半ばを越え、基部には半圓形に近き黒紋を裝ひ、又中央にも黒紋を有するものあり、その末端は黄色。前翅の膜質部は暗黄乃至褐色。前縁は濃色。腹背の兩側は黄色と黒色との互交斑をなす。腹下部は黄色、胸部の兩側に突出せる部分は赤色。脚

は黄色、脛節及び跗節は赤褐、第三跗節は黒色。此は葱及び胡蘿蔔の花に普通なり。體長♂四分五厘、♀五分内外。

分布——樺太、北海道、本州、滿洲、西比利亞、歐洲。

(161) クサギガメ(ムシ) 正千蟲一。二〇四頁(N. 186) (第十圖(15) ♀)

學名 *Halymorphus pictus* F.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 15, ♀, p. 204, N. 186 (1904)

體は灰黄若くは灰褐、黄色の綾様紋あり。頭は稍や長方形をなして前方に突出し、複眼の前方にて少しく列られたる觀をなし、黄色點を散在す。觸角は赤黄、第三節の末端、第四節の中央及び第五節の大部は黒褐、第二及び第三節には黒褐の小點を散在す。口吻は黄色、末端は黒褐。前胸背は稍や平たく、前縁に近く四黒點を横列し、後方には短かき四個の黒縦條を有すれども、此者種類によりて判然せず。兩側の突起は少しく後方を向く。稜狀部は腹部の半ばを越え、基部の兩側に黄色の一小紋あり。半翅鞘の中央に數個の短かき黒褐帶あれども、此の紋の判然せざるものもあり。膜質部は暗黄にして、脈に沿ひ斷續せる黒褐條あり。腹背の兩側は黄色と黒色との互交斑をなす。體下は黄赤、雌にては腹部の中央に黒紋の一系列あり。脚は赤黄、多數の小黒點を密在し、雄にては其數の多き爲め、腿節の基部、脛節の中部及び後肢の跗節を除くの外、黒色の觀をなす。此は東北地方に普通なる種類にして、好んでクサギの液汁を吸収す。現今山形、岩手地方にては果樹の大害蟲として有名なり。札幌地方には之れを産せず。體長♂五分内外、♀五分五厘乃至六分。

分布——本州、四國、九州。

(162) ヨツボシガメ(ムシ) 正千蟲一。一〇二頁(N. 187) (第十圖(16) ♂)

學名 *Carpocoris fuscispinis* Boh.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap., I, pl. XVI, f. 16, ♂, p. 205, N. 187 (1904)

體は灰黄若くは灰綠。複眼の中央には黄色紋を裝ひ、前縁の中央には稍や三角形の切目あり。觸角は赤色、第四及び第五節の大部は暗色、其の基部のみ赤色、第一節は黄色、黒點を散在す。口吻黄色、其下方の一線及び末端は黒色。前胸背の兩側に於ける突起は圓くして、少しく暗色を帯び、前縁に近く二個乃至四個の黄點を一系列に横列す。稜狀部は長く、遙に腹背の中央を越ゆ。前翅の膜質部は淡き暗黄、半透明、前縁に近く暗黄の二縦條あり。體下及び脚は綠黄、黒色の小點を密在す。此は廣く歐洲及び西比利亞地方にも産し、本邦にては中國地方に普通なり。體長♂四分、♀四分五厘。

分布——本州、四國、西比利亞。

(163) ツヤマルガメ(ムシ) 新千蟲一。一〇二頁(N. 151) (第十一圖(1) ♀)

學名 *Brachyplatys cognata* Wk.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XII, f. 1, ♀, p. 102, N. 151 (1913)

體は光澤ある黒色、光線の工合により紫藍色を現はす。稍や半球狀にして、粗に點刻を散在す。體下は平たし。複眼は赤褐。觸角及び脚は黄褐。前中胸背の兩側及び稜狀部の周縁(基部を除き)は黄褐。體下は黒色。口吻は黄褐。腹面の兩側は黄色。體長一分七厘。此は臺灣に産すれども稀なるが如し。

分布——臺灣(埔里社)。

(164) キボシヒメマルガメ(ムシ) 新千蟲一。一〇三頁(N. 152) (第十一圖(2)(♀))

學名 *Coptosoma japonicum* Mats. (英文一四頁參照)

昆蟲學上の地位、椿象科。Thous. Ins. Jap. Add., I, pl. XII, f. 2, ♀, p. 103, N. 152 (1913)

此は百三十二號ヒメマルガメに酷似すれども、其の異なる處は左の如し。

- 一、觸角は全部黄色。顔の兩側に黄紋を裝ふ。
  - 二、形遙に小にして、稜状部の中央膨起せず。
  - 三、前胸背の點刻は粗大にして、前縁に近く黄色の四紋を具へ、之れは四角形に配置せられ、後方にある二個は長くして、弓状に曲り、横置せられ、又兩側に同色の一縦條ありて、少しく斜走す。
  - 四、稜状部の周圍(基部を除き)は黄色、基部にある黄紋は長くして、横置せられ、其の後方の一圓に微小の點刻を粗布す。ヒメマルガメにては稍や滑澤なり。中後兩胸背の兩側及び腹側は黄色、腹側紋は大にして、判然す。脚黄色、基部、轉節及び腿節(末端を除き)は黄褐。體長九厘。此は東京地方に稀ならず。
- 分布——本州、九州。

(165) アカギガメ(ムシ) 新千蟲一。一〇四頁(N. 153) (第十一圖(3)(♀))

學名 *Cantuo ocellatus* Thunb.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thous. Ins. Jap. Add., I, pl. XII, f. 3, ♀, p. 104, N. 153 (1913)

體は黄褐。後頭中央の縦條、頭の下面(前縁を除き)、觸角の基部、胸下、脛節、後腿節及び腹面の斑紋等は暗綠。觸角、前胸背の前縁、同八紋(二列)、稜状部の五紋(五角形に排列す)及び各氣門點は黑色、各腹面節の中央に二暗綠紋を具へ、尾節には大なる一暗綠紋を裝ふ。前翅は長く、稜状部を越ゆ。脚は黄褐。體長八分内外。此は沖繩及び臺灣に稀ならず。アカギの害蟲なり。

分布——沖繩、臺灣、支那、比律賓島、瓜哇、印度。

(166) キランキンガメ(ムシ) 新千蟲一。一〇五頁(N. 154) (第十一圖(4)(♀))

學名 *Lamprocoris granensis* Mats. (英文一五頁參照)

昆蟲學上の地位、椿象科。Thous. Ins. Jap. Add., I, pl. XII, f. 4, ♀, p. 105, N. 154 (1913)

頭及び胸部は金綠色。觸角黑色。前胸背の前角は紫色、前縁の中央、兩側の一紋及び後縁の五縦條(中央にあるものは四角形にして長く、其前縁は黄褐色によりて堺せらる)は黑色。稜状部は黄褐、基部、中央の一帶(兩側は金綠色)及び後縁に近き三大紋は黑色。體下及び脚は黄褐。胸側及び腹側紋は金綠色。腹背及び腹側は赤紫色、腹面の基部及び各節(第一節及び尾節を除き)の兩側にある一紋並に尾節の一大紋は黑色。脚は黄褐、腿節の末端は金綠色、脛節及び跗節は暗褐。體長三分五厘。此は臺灣宜蘭にて鶴仲壽美氏の採集せる珍種なり。

分布——臺灣(宜蘭)。

(167) ミヤコキンガメ(ムシ) 新千蟲一。一〇六頁(N. 155) (第十一圖(5)(♀))

學名 *Lampyrocoris niyukoensis* Mats.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 5, ♀, p. 10, N. 155 (1913)

體は紫綠色。觸角は黒色、基部は黄褐。前胸背及び稜狀部の基部は紫藍色。稜狀部の中央に二黒紋あれども餘り判然せず。體下は金綠色。腹面の兩側及び脚は黄褐。前胸の側片及び氣門點は紫藍色。脛節は金綠色。前中兩脛節の基部は少しく藍色を帯び、跗節は黒色。體長四分内外。此は沖繩宮古島及び石垣島に産すれども稀なり。  
分布——沖繩(宮古、石垣島)。

(168) **ワタナベキンガメ** (ムシ) 新千蟲一。一〇六頁(N. 156) (第十一圖(6)) (♀)

學名 *Poecilocoris watanabei* Mats. (英文一五頁參照)

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 6, ♀, p. 10, N. 156 (1913)

體は黄褐。頭及び觸角は黒紫色、但し觸角末端の二節は黄褐。前胸背の前縁及び兩側は紫色を帯び、中央に大なる二紫褐紋を裝ふ。稜狀部に二双のレ字形紋ありて、紫褐色を呈し、基部に近きものは中央にて一線により相連續し、尾端に近きものは大にして、其前縁に凹凸あり。前翅前縁の中央は暗色。體下、口吻及び脚は黄褐、少しく紫色を帯び、胸面の兩側紋は黒藍色。脛節の末端、脛節及び跗節は暗緑。前尾節の大紋及び氣門點は黒紫色。體長五分五厘。此は臺灣北埔にて捕獲せるものなるが、稀なるが如し。  
分布——臺灣(北埔)。

(169) **アカスチキンガメ** (ムシ) 新千蟲一。一〇七頁(N. 157) (第十一圖(7)) (♀)

學名 *Poecilocoris lewisi* Dist.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 7, ♀, p. 107, N. 157 (1913)

體は金綠色。頭頂の二縦條、複眼の内側及び觸角は黒色、後者は少しく紫藍色を帯ぶ。前胸背の前縁に近き弓狀帶、其兩側に當り之れを後縁に連續する一斜條、中央の一縦條、稜狀部の基部にあるレ字形の二紋、中央の一帶(此は中央にて、山形をなす)及び尾端に近き一帶(此は中央にて太し)は黄褐にして、少しく紫色を帯ぶ。稜狀部の中央に同色の一縦條あれども、餘り判然せず。體下は黄褐、胸側片、氣門點及び脚は金綠色、但し脚基節及び轉節は黄色。體長六分内外。此は日光地方に産すれども、稀なり。  
分布——本州、臺灣。

(170) **アヲボシキンガメ** (ムシ) 新千蟲一。一〇八頁(N. 158) (第十一圖(8)) (♀)

學名 *Poecilocoris 15-guttatus* Mats. (英文一六頁參照)

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 8, ♀, p. 108, N. 158 (1913)

體は黄褐。頭及び觸角の基節は黒藍色。觸角の第二及び第三節は金綠色、第四及び第五節は黒色。前胸背の前縁及び兩側は紫色を帯び、中央に金綠色(紫色なるものあり)の二縦條あれども、短かくして、前後の兩縁に達せず。稜狀部に十三個の金緑紋(紫色なるものあり)ありて、*5, 10, 15*の四行に排置せらる。腹背の兩側、頭下及び胸面は金綠色。口吻、腹面及び脚は黄褐。脛節、脛節及び跗節は紫色を帯ぶ。體長六分。此は臺灣地方に産すれども、稀なり。  
分布——臺灣(屈尺、埔里社)。

(171) **タイワンキンガメ** (ムシ) 新千蟲一。一〇九頁(N. 159) (第十一圖(9) (♀))學名 *Chrysophana formosana* Mats. (英文一六頁參照)

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XII, f. 9, ♀, p. 109, N. 159 (1913)

體は綠色、鱗性の光澤を帯び、斑紋は黒緑、點刻あれども、少なし。後頭は黒藍色。觸角黒色、基部の二節は金綠色。前胸背の前縁に近き兩側に各一個の楕圓紋ありて、横置せられ、後縁に七縱紋ありて、その中央にあるもの最も長し。稜狀部に十五個の斑紋ありて、3. 3. 4. 3. 1. の六列に排置せられ、第二列にある二個は弓狀をなして横置せられ、第二列にある中央の二個は大にして、稍や半月形をなす。頭下及び胸面は綠色。脚及び胸面は金綠色、後者の兩側は紫色。跗節は黒色。體長三分五厘。これは蕃界の阿里山にて捕獲せる珍種なり。

分布——臺灣(阿里山)。

(172) **ルリボシキンガメ** (ムシ) 新千蟲一。一一〇頁(N. 160) (第十一圖(10) (♀))學名 *Chrysophana stollii* Wolf.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XII, f. 10, ♀, p. 110, N. 160 (1913)

體は金綠色、斑紋は黒藍色。觸角は黒色、基部の半基部は黃白。頭頂の兩側に一紋を具へ、中央に長き一縱條を裝ふ。前胸背の前縁に近く三紋を具へ、後縁には五個の楕圓紋ありて、中央にあるもの最も太し。稜狀部に七紋ありて、兩側に各三個、中央に一個ありて、此は長く且つ大なり。尙、尾端及び前翅の前縁は黒藍色。體下は

暗黃。胸側紋及び氣門點は金綠色、胸片は黒色、胸面及び腹面の兩側は赤紫色。脚は黄色、前中兩腿節の一縱條、後腿節の末端並に全脛節は金綠色、跗節は黒色。腹面の基部及び尾端に暗褐色の部分あり。體長五分内外。此は臺灣恒春地方に稀ならず。

分布——臺灣(恒春)、支那、印度。

(173) **ナナホシキンガメ** (ムシ) 新千蟲一。一一一頁(N. 161) (第十一圖(11) (♀))學名 *Chrysophana excellens* Burm.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XII, f. 11, ♀, p. 111, N. 161 (1913)

體は金綠色。觸角は黒色。前胸背の中央に四黒紋ありて、一列をなして横置せらる。稜狀部に黒色の六紋ありて、3. 3. 3. の三列に横置せらる。前翅の前縁は黒藍色。體は金綠色、光線の工合にて紫藍色を現はす。各腹面節には三黒紋ありて、横置せられ、氣門點も亦黒色なり。脚は赤褐、腿節の末端及び脛節は黒藍色、跗節は黒色。體長六分——六分五厘。此は沖繩地方に稀ならず。

分布——沖繩、臺灣、支那、印度。

(174) **ホシムラサキガメ** (ムシ) 新千蟲一。一一一頁(N. 162) (第十一圖(12) (♀))學名 *Coleoctichus (Epicoleoctichus) borealis* Dist.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XII, f. 12, ♀, p. 111, N. 162 (1913)

日本千蟲圖解

104



體は黃褐、少しく紫色を帯ぶ。頭は三角形をなして突出し、黒色の點刻を散在し、兩側に各一黒線あれども、之れは頭端に達せず、其外側は黃色。觸角、前胸背の兩側、稜狀部の基部にある二點、體下及び脚は黃色。前胸背及び稜狀部の點刻は紫色、後者の中央線は黃色にして、之れに黒色の點紋を列ね、其兩側にも黒紋を裝ふ。光線の工合により判然せざる暗色の波狀帶數多ありて、相平行す。前翅は黃色、前翅に一黒縦條を裝ふ。體下及び脚に斑紋を缺く。體長五分—六分五厘。此は臺灣新社地方に捕獲せるものなるが、稀なるが如し。

分布——臺灣(新社)。

(175) ウシガメ (ムシ) 新千蟲一。一一二頁(N. 163) (第十一圖) (♀)

學名 *Alcinus borealis* Dist.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 13, ♀, p. 112, N. 163 (1913)

體は淡黃褐、暗色の點刻を密布せるを以て暗色なるが如し。觸角は暗色、基部は黃色。頭頂及び複眼前の一紋、中央の二縦條、前胸背の前縁、兩側中央の二紋及び一縦線並に稜狀部の基部にある二紋は淡黃褐。前胸背の兩側にある角狀突起は大にして、末端にて斜に截斷せられたるの觀を呈し、後方に向て突出す。半翅鞘は稜狀部より少しく短かし。脚は黃褐、腿節は其の末端を除き暗色。體下は淡黃褐、腹面の中央に暗色の縦條を具へ、各節の兩側に同色の一横紋を裝ふ。體長二分五厘。角狀突起の距離は二分八厘。此は京都地方に稀ならず。

分布——本州(京都、奈良)、沖繩。

(176) フタコブガメ (ムシ) 新千蟲一。一一二頁(N. 164) (第十一圖) (♀)

學名 *Cazira ulcerata* H. S.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 14, ♀, p. 112, N. 164 (1913)

體は栗色。觸角第三節の末端、第四節及び第五節(基部を除き)の大部は暗色。頭頂に二縦隆あり。前胸背には瘤狀及び不正の網狀隆起多し。稜狀部の基部には大形の二瘤狀突起ありて、更に其兩側に各一個の小瘤隆を裝ひ、殘部の稜狀部は黃褐にして、其の兩側は隆起し、末端に稍や半圓形の凹陥あり。前翅の前縁に網狀の隆起を具へ、半翅鞘に黃褐紋を散在す。膜質部は大にして、遙尾端より突出し、黃褐なり。脚は體と同色、腿節に一鋭齒を具へ、前脛節は葉狀に膨大し、中央に近く一縦隆を裝ひ、光線の工合により少しく紫色を帯び、腿節及び脛節に黃紋を具へ、脛節の末端は暗色。體下に黃紋を散在す。體長二分七厘。此は臺灣地方に産すれども、餘り多からず。

分布——臺灣。

(177) ヒメクロガメ (ムシ) 新千蟲一。一一三頁(N. 165) (第十一圖) (♀)

學名 *Stethocoris* (*Scotinophora*) *tarsalis* Scott

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 15, ♀, p. 113, N. 165 (1913)

體は黒色。觸角各節の末端第五節は紡錘形を呈して太く、末端は廣く赤褐及び跗節は黃褐。前胸背の前縁角

及び後縁角に近く各一個の角状突起あり。稜状部は長くして、尾端を蔽ひ、點刻多しと雖も、中央には少なく、横皺多し。半翅鞘の前縁は少しく赤褐を帯ぶ。口吻は黄褐。體下及び脚は黒色。腿節の末端は少しく黄褐。體長一分八厘。此は京都地方に産すれども、少なきが如し。

分布——本州、四國、九州、臺灣、支那、印度。

(178) レウスシラホシガメ(ムシ) 新千蟲一。一一四頁(N. 166) (第十一圖) (♀)

學名 *Ensarcoris lewisi* Dist.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 16, ♀, p. 114, N. 166 (1913)

體は灰黄、點刻暗色なるを以て、暗灰色なるが如し。頭は稍や四角形を呈し、紫黒色にして、光澤を帯び、粗大の點刻多し。觸角は黄色、黒點を散在し、第四節(基部を除き)及び第五節は黒色。前胸背の兩側に棘状の一鋭齒を具へ、其前方の兩側は黄白、前縁に近く紫黒色の二紋を裝ふ。稜状部の基部に各一個の黄白紋ありて、之れには點刻を缺く。半翅鞘に斑紋なし。膜質部は暗黄。體下は紫黒色、銅色の光澤あり。胸面及び脚は黄色、前者には黒點刻、後者には黒點を散在す。體長二分四厘。此は九州地方に稀ならず。

分布——本州、九州。

(179) クロツマルガメ(ムシ) 新千蟲一。一一四頁(N. 167) (第十一圖) (♀)

學名 *Ensarcoris melanocephalus* F.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 17, ♀, p. 114, N. 167 (1913)

體は黄白、暗色の點刻を散在す。觸角の第四節(其部を除き)及び第五節は黒色。頭、前胸背の前縁にある二紋、稜状部の基部にある三角形の大紋及び同末端は紫黒色にして、銅色の光澤を有す。稜状部の基部に黄白の一小紋あり。半翅鞘にある點刻は小にして、粗、膜質部は灰白、半透明。體下は紫黒色。腹側は黄白にして、黒紋を列ぬ。口吻及び脚は黄白、後者には黒點を散在し、腿節には黒紋を裝ふ。體長二分内外。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道、本州。

(180) イハサキガメ(ムシ) 新千蟲一。一一五頁(N. 168) (第十一圖) (♀)

學名 *Ztarioides iwasaki* Mats. (英文一七頁参照)

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 18, ♀, p. 115, N. 168 (1913)

體は淡黄褐、暗褐の點刻多し。觸角、口吻及び脚は黄褐。稜状部の末端は黄白にして、點刻を缺き、基部には、點刻少なきを以て、黄褐の大斑紋を有するが如し。半翅鞘にも點刻の少なき二部分ありて、恰も二斑紋を有するが如し。膜質部は灰白、半透明、遙、尾端より突出す。口吻の末端は黒色。體下は淡黄褐。胸面の點刻は多しと雖も、腹面に於けるものは少なし。腹側には黒紋を列ぬ。體長三分。此は岩崎卓彌氏の沖繩石垣島にて採集せる珍種なり。

分布——沖繩(石垣島)。

(181) **アヤナミガメ**(ムシ) 新千蟲一。一一五頁(N. 169) (第十一圖(19) ♀)學名 *Agonoscelis rubila* F.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 19, ♀, p. 116, N. 169 (1913)

體は淡黃褐。觸角、頭の四縱條(兩側の二條は短かし)、前胸の點刻及び後縁、稜狀部の點刻、其末端に近き兩側の各一紋、半翅鞘に於ける約九個の横紋(稜狀に相連なるもの多し)並に膜質部の脈は黒色。前胸背及び稜狀部中央の一縱條は黄色。膜質部は長く、遙尾端を越ゆ。口吻、體下及び脚は淡黃褐。腿節末端の二紋、脛節基部の二紋、前脛節の下面及び跗節は黒色。口吻は長くして、腹基部に達し、末端は黒色。體長三分五厘——四分(翅端迄)。此は廣く東洋に傳播せる椿象にして、播州地方には普通なり。

分布——本州、九州、沖繩、臺灣、支那、印度。

(182) **コシロヘリガメ** 新千蟲一。一一七頁(N. 170) (第十一圖(20) ♀)

(シロヘリガイタ)

學名 *Selinus niveimarginatus* Scott

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 20, ♀, p. 117, N. 170 (1913)

體は黒藍色、粗大の點刻多し。觸角、頭、口吻、體下及び脚は黒色。前胸背の兩側及び半翅鞘の前縁は細く黄白。前胸背の中央に廣き横凹陥あり。稜狀部は腹部の半以上に達す。各口吻節の基部は灰白。各跗節の基部は黄褐。體長(♂)二分——二分五厘。此は本州に稀ならず。

分布——本州、九州、沖繩。

(183) **ヨコツナガイタ** 新千蟲一。一一七頁(N. 171) (第十一圖(21) ♂)學名 *Adrisa magna* Uhl.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 21, ♂, p. 117, N. 171 (9113)

體は光澤ある黒色、粗大の點刻多し。頭は前縁にて圓く、兩側に粗大の點刻多し。觸角は四節より成り、第三及び第四節の基部は甚だ細くして有柄なり。第三及び第四節は黄褐。口吻は暗褐にして、第三節太し。前胸背の中央隆起し、其部分に點刻を缺き、兩側及び後縁に近き點刻は粗大なり。稜狀部の末端は尖り、之れに點刻なし。半翅鞘にある點刻は小にして、二縦脈は判然せり。膜質部は黄褐、縦脈は判然せり。體下及び脚は黒色、跗節は黄褐。體長六分五厘——七分。此は東京地方に産すれども稀なり。

分布——本州(東京)、臺灣(埔里社)、支那。

(184) **イネガメ**(ムシ) 新千蟲一。一一八頁(N. 178) (第十一圖(22) ♂)學名 *Aenaria assimilians* Dist. (Lewisii Mats. nec Scott)

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 22, ♂, p. 118, N. 178 (1913)

體は暗黄、褐色の點刻を密布す。觸角は赤色、第五節は黄色、第一節の基部、第四節の末端及び第五節の基部、第四節の末端及び第五節の中央は黒色。前胸背の前縁に近く黒褐の二點紋を具へ、稜狀部の中央に黄色の一縱條を装ふ。半翅鞘の前縁は黄白にして、其内側に黒褐の一縱條を並走す。膜質部は灰白、半透明、脚は褐色。體下及び脚は淡黄色にして、黒點刻を粗布す。氣門黒色。跗節端は赤黄。體長(♂)四分内外。此は稻の害蟲にして、

時に大害を加へることあり。

分布——本州、四國、九州、沖縄、臺灣。

(185) **キマダラガメ** (ムシ) 新千蟲一。一一七頁(N. 173) (第十一圖 (23) ♀)

學名 *Exthesia fullo* Thunb.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 23, ♀, p. 118, N. 173 (1913)

體は黒褐、黄色の小紋を散在す。頭長く、其中央及び兩側の縦條、頭下の二縦條、複眼の後方、前胸背の前縁及び兩側、腹側の紋列及び體下の大部は黄色。膜質部は黒色。脚は黒色、基節、轉節及び腿節基部は黄色、前脛節は葉狀に肥大し、基部に近く一黄紋を裝ひ、中後兩脛節の中央及び跗節(末端を除き)は黄色。胸片は黒色、胸側に黒紋を散在す。各腹節の後縁、前尾節の中央線及び氣門線は黒色。體長(♂)七分内外。此は九州地方に稀ならず。

分布——本州、九州、沖縄、臺灣、支那、比律賓島、瓜哇、印度、歐洲(地中海沿岸)。

(186) **タイワンオホガメ** (ムシ) 新千蟲一。一一九頁(N. 174) (第十一圖 (24) ♀)

學名 *Eurostus validus* Dall.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 24, ♀, p. 119, N. 174 (1913)

體は栗色、小點刻を散布す。頭頂の二紋、前胸背の前縁及び稜狀部基部の兩側は暗綠色にして、光澤を帯ぶ。

觸角は暗褐、體の半以上に達し、末端節は黄色、其基部は暗褐。前胸背に淺き横溝多し。稜狀部の末端に杓子様の附屬物ありて、凹陷す。半翅稍は其末端にて尖り、微小の點刻を密布し、二縦脈は判然す。膜質部は褐色にして、銅色の光澤を帯び、基部に胞室ありて、之れより多數の平行脈を放散す。腹側は黒色、各節の基部は黄褐。體下及び脚は黄褐、胸下に暗綠紋を散在す。腹面の兩側は暗綠、中央に暗綠の三縦線あり。後腿節の基部に近く長き鋭齒を具へ、各腿節の末端に二鋭齒を裝ふ。體長一寸内外。此は臺灣新社地方に稀ならず。

分布——臺灣、支那。

(187) **ツマキクロガメ** (ムシ) 新千蟲一。一二〇頁(N. 175) (第十一圖 (25) ♀)

學名 *Aspongopus chinensis* Dall.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thous. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 25, ♀, p. 120, N. 175 (1913)

體は黒褐、點刻を密布す。觸角の末端節は橙黄色にして、其基部は少しく黒色。前胸背に淺き横溝を並列す。稜狀部は腹部の中央に達し、兩側に淺き横溝あり。半翅稍は少しく紫色を帯び、膜質部は淡色、基部に三胞室ありて、之れより約十脈を放散す。體下及び脚は黒色、後脛節の中央は肥大す。體長七分内外。此は臺灣埔里社地方に産すれども、其數多からず。

分布——臺灣、支那。

(188) **ハネアカアヲガメ** (ムシ) 新千蟲一。一二二頁(N. 176) (第十一圖 (26) ♀)

學名 *Plantia stali* Scott

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 26, ♀, p. 120, N. 176 (1913)

體は綠色。頭には點刻多く、前胸背及び稜狀部には少なし。觸角は黃色、第一、第三、第四節の末端及び五節の末端に近き大紋は黑色。前胸背の兩縁にある一縱條は黑色、後縁及び兩側角は少しく褐色を帯ぶ。稜狀部は腹部の半を越ゆ。半翅鞘は赤褐、前縁は綠色、膜質部は半透明、黃色を帯び、其基部は少しく濃色。體下及び脚は綠色、腹側にある五點紋は黑色、脛節の末端及び跗節は黃色。口吻は黃色、末端は黑色。體長三分五厘内外。此は本州に稀ならず。

分布——本州、九州。

(189) **アカガメ** (ムシ) 新千蟲一。一一一頁(N. 177) (第十一圖(27)(♀))

學名 *Menida histrio* F.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 27, p. 121, ♀, N. 177 (1913)

體は赤色、點刻は黑色。頭は黑色、黃色若くは赤色の三縱隆を具へ、其の中間及び複眼の前方に同色の各一縱條あれども、之れは短かし。觸角は淡黃褐、各節の基部は黑色、前胸背前縁の凹陥部及び後縁の二紋は黑色。稜狀部の中央紋及び其末端に近き二紋は黑色。半翅鞘は暗黃、前縁及び末端に近き一紋は赤色、末端及び楔狀片は黑色、膜質部は暗黃色にして、半透明。體下及び脚は黃赤、兩側の大部は黑色にして、少しく綠色を帯び、爪の末端は暗褐。體長二分五厘。此は臺灣に普通なる種類にして、稻の葉液を吸収して害を加ふ。

分布——臺灣、支那、印度。

(190) **シラホシムラサキガメ** (ムシ) 新千蟲一。一一一頁(N. 178) (第十二圖(1)(♀))

學名 *Menida violacea* Motsch.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIII, f. 1, ♀, p. 121, N. 178 (1913)

體は紫黑色、粗大の點刻多し。觸角は黑色。頭及び前胸背の前縁、前胸背の兩側、稜狀部の末端、腹背の兩側紋、脚並に體下は黃色。前胸背の後縁は廣く淡黃色。膜質部は透明、腹部より少しく長し。脚には小黒紋を密布し、跗節は黑色。體下には黑色の點刻多し。第二腹節より上方に向へる棘刺突起は黃色にして、太く、中胸片に達す。體長三分二厘。此は本州に産すれども、餘り多からず。

分布——本州、九州、西比利亞。

(191) **ベニクチフトガメ** (ムシ) 新千蟲一。一一二頁(N. 179) (第十二圖(2)(♀))

學名 *Parnastrachia fulgens* Dist.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIII, f. 2, ♀, p. 122, N. 179 (1913)

體は朱色。觸角、前胸背の前縁、中央の楕圓紋、稜狀部(末端を除き)、半翅鞘中央の一紋、腹背、脚及び體下の兩側に並列せる紋等は黑色。轉節は少しく赤色を呈す。膜質部は半透明にして、少しく黃褐を帯ぶ。此は長椿象に酷似すれども、太き暗褐の口吻を有するを以て、容易に區別する事を得べし。體長五分五厘——六分。此は熊本地方に稀ならず。蝸蝓、蜈蚣等の體内に口吻を挿入して、其液汁を吸収し、これ等を殺すを以て有益なり。

分布——本州、九州(熊本)。

(192) **ルリクチフトガメ** (ムシ) 新千蟲一。一二二頁(N. 180) (第十二圖) (3) (♀)

學名 *Zieroma coerulea* J.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 3, ♀, p. 122, N. 180 (1913)

體は光澤ある青藍色、點刻を粗布す。觸角は黒色、基部の二節は黒絲。半翅鞘の點刻は小にして、粗なり。膜質部は黒褐、七條の縦脈は判然す。脚及び體下は青藍色。口吻黒色、短かくして、太し。體長♂(♀)二分五厘——三分。此は本州及び九州に稀ならず。嘗て樺太に松姑斯の發生せる際、その姑斯を捕食して大益ありたり。分布——樺太、北海道、本州、九州、沖繩、支那、西比利亞、印度、歐洲、亞米利加。

(193) **イシダクチフトガメ** (ムシ) 新千蟲一。一二二頁(N. 181) (第十二圖) (4) (♀)

學名 *Audineta spinulens* F.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XII, f. 4, ♀, p. 123, N. 181 (1913)

體は黃褐。粗大の點刻多く、半翅鞘に於ける點刻は小なり。頭頂には黒色の二縱條を具へ、内板(Tylnus)の兩側も亦黒色なり。觸角は黄色、第三(基部を除き)、第四及び第五節(基部を除き)の三節は暗褐。前胸背の突起は黒色、其後縁に黒色の一齒あり。稜狀部の末端及び前翅前縁は黄色。膜質部は黃褐、光線の工合により、銅色を現はす。腹背は暗綠色、其後方の兩側、口吻、脚及び體下は灰黄色、但し跗節は暗褐。腹面の中央に斷續せる暗色の一縱條を裝ふ。體長四分五厘。此は石垣島及び臺灣に産すれども稀なり。

分布——沖繩(石垣島)、臺灣(臺南)、支那、印度。

(194) **キシモフリハリガメ** (ムシ) 新千蟲一。一二三頁(N. 182) (第十二圖) (5) (♀)

學名 *Canthecoma furellata* Wolf.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIII, f. 5, ♀, p. 123, N. 182 (1913)

體は淡黃褐、暗褐の點刻を密布するを以て暗褐なるが如し。觸角は黃褐、第三、第四及び第五節の末端は暗褐、頭の兩側、前胸背の判然せざる四縱條、同兩側の突起、稜狀部の二大紋及び腹背の兩側紋は黒色。稜狀部の基部に三黃白紋ありて、横列し、中央にあるものは小なり。稜狀部の末端も亦黃白。膜質部は黒色、末端は無色透明、之れに一黒紋を裝ふ。口吻、脚及び體下は淡黃褐、胸側、腹側及び最後の腹面節に黒紋を裝ふ。腿節の末端及び脛節の兩端は黒色。前脛節の末端は肥大す。體長四分五厘。此は臺灣地方に稀ならず。甘蔗の害虫を捕食して、有益なり。

分布——九州(熊本)、沖繩、臺灣、支那、印度。

(195) **ヨツモンガメ** (ムシ) 新千蟲一。一二四頁(N. 183) (第十二圖) (6) (♀)

學名 *Urochela jozankenna* Mats. (英文一八頁參照)

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIII, f. 6, ♀, p. 124, N. 183 (1913)

體は黃褐、暗色の點刻多く、半翅鞘にあるものは小にして、少なし。觸角黒色、第四及び第五節の基部は黄色、頭頂の縦紋、後頭、半翅鞘の二紋、胸側及び腹側の紋列等は黒色。膜質部は黃褐、約六條の縦脈を有す。口吻、脚及び體下は淡黃褐、跗節端は暗褐。體長♂(♀)五分内外。此は札幌定山溪地方に普通なり。

分布——北海道(定山溪)。

(196) モンキツノガメ(ムシ) 新千蟲一。一二五頁(N. 184) (第十二圖(7)(♀))

學名 *Zastrowgela scutellata* Scott

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XII, f. 7, ♀, p. 125, N. 184 (1913)

體は黄綠色、點刻多く、前胸背にあるものは少なし。觸角綠色にして、體より少しく短かく、末端の三節は少しく暗色を帯ぶ。頭、前胸背の前縁、稜状部の基部にある心臟形の一紋、口吻、脚及び體下は黄色。前胸背の兩側にある角状突起は長く、其末端は圓し。膜質部は黄褐、基部は暗褐、(雌)尾端の兩側は鋭角をなして突出す。脚に斑紋を缺き、爪の末端は褐色。體長(♂)(♀)四分——五分五厘。此は本州に稀ならず。

分布——本州、九州、臺灣(臺北)。

(197) ミカントゲガメ(ムシ) 新千蟲一。一二六頁(N. 185) (第十二圖(8)(♀))

學名 *Rhynehocoris humeralis* Thunb.

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIII, f. 8, ♀, p. 126, N. 185 (1913)

體は綠色(黄緑なるものあり)、點刻多し。觸角は黑色、基節は黄色にして、黒縦條を裝ふ。頭は黄色、内板の兩側は細く黑色。前胸背の角状突起は少しく下方を向き、黒點刻を具へ、末端は鋭く尖りて黑色。稜状部の末端は圓し。半翅鞘前縁の基部は灰黄、點刻は少なしと雖も密なり。膜質部は暗褐、九條の縦脈を有す。各腹節の後

角は黑色、其末端は鋭く尖り、下向す。口吻、體下及び脚は黄色。口吻は長く、約體と同長。氣門點及び腹側の紋列は黑色、脛節の末端及び跗節は黑色。胸片の突起は龍骨狀を呈して高し。體長(♂)(♀)七分——八分。此は臺灣新竹地方に普通なる種類にして、柑橘の害蟲なり。

分布——臺灣、支那、馬來、印度。

(198) ツノアカガメ(ムシ) 新千蟲一。一二六頁(N. 186) (第十二圖(9)(♂))

學名 *Acanthosoma rubicorne* Mats. (英文一八頁參照)

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XII, f. 8, ♂, p. 126, N. 186 (1913)

體は黄色、黑色の點刻多し。觸角は黑色、第一節の内側及び第二節の基部は灰黄。前胸背にある點刻は大にして、粗なり。角状突起は紅色にして、其末端は濃色。稜状部の點刻少なし。半翅鞘の末端は綠色、内片及び基部は黄褐、前縁は黄色。膜質部は黄褐、半透明、腹部よりも長く突出す。尾端の腹側は赤色。口吻、體下及び脚は黄色。口吻の末端は黑色。第二腹節の棘状突起は稍や前轉節に達す。雄の尾節は深く刻られ、恰も短かき鋏子狀をなす。跗節及び爪の末端は暗色を帯ぶ。體長(♂)(♀)五分——五分五厘。此は札幌地方に産すれども、稀なり。

分布——北海道(札幌)。

(199) セアカツノガメ(ムシ) 新千蟲一。一二七頁(N. 187) (第十二圖(10)(♀))

學名 *Acanthosoma distinctum* Dall.

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIII, f. 10, ♀, p. 127, N. 187 (1913)

體は綠色、黒色の點刻多し。觸角、頭、前胸背の前縁、口吻、體下及び脚は黄色。觸角は第二節の基部を除き暗褐色なるものあり。頭にある點刻は小にして、少なし。前胸背の角状突起は銳角をなして少しく下向し、其末端は暗色。稜狀部は赤褐、末端は綠色。半翅鞘前縁の基部は黄色、他は全部綠色。膜質部は淡黄褐にして、半透明、其の下に透視せらるる腹背は赤色、兩側は黄色、後縁は細く黒色、尾節は赤色、雄にては八字形の突起を裝ふ。雌の最終の腹面節は其の基部にて黒色。脚に斑紋を缺く。體長(♂)五分—六分。これは最も普通なる大形種なり。

分布——北海道、本州、四國、九州。

(200) オホツノガメ(ムシ) 新千蟲一。一二八頁(N. 188) (第十二圖(11)(♀))

學名 *Acanthosoma signatenn Mats.* (英文一九頁參照)

昆蟲學上の地位、椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIII, f. 11, ♀, p. 128, N. 188 (1913)

體は綠色、點刻多しと雖も、體と同色なるを以て餘り判然せず。頭、前胸背の前縁、腹側、口吻、體下及び脚の大部は黄色。觸角は黒色、第一節の基部は黄色。頭には點刻を缺き、横皺多し。前胸背の角状突起は暗褐にして、長く、其末端は少しく前方に曲り、銳尖なり。稜狀部の點刻は少く、中央に判然せざる一縦隆を具へ、末端は溝をなし凹陥す。膜質部は黄褐にして、半透明。各腹節の後縁は細く黒色、尾節は赤色。口吻の第三節(基部を除き)及び第四節は黒色。腿節は基部及び末端を除き暗褐、脛節の末端及び跗節は少しく暗色を帯ぶ。體長(♀)六分。此は京都にて鈴木元治郎氏の採集せる珍種なり。

分布——本州(京都)。

(201) ツキワヘリガメ(ムシ) 新千蟲一。二九頁(N. 189) (第十二圖(12)(♀))

學名 *Derephelyx obscurata Stål*

昆蟲學上の地位、綠椿象科(Coccidae)。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIII, f. 12, ♀, p. 129, N. 189 (1913)

體は暗褐色、黄褐の短毛を密生す。觸角は體より少しく短かく、第四節は黄色。前胸背は弦月形に上方に曲り、其末端は銳角をなして尖り、前縁に六個、後縁に十數個の齒状突起ありて、前縁にあるものは長く且つ大なり。全面粗糙にして、横皺多く。中央に判然せざる一縦溝あり。稜狀部は小にして、中央に一縦溝を裝ふ。半翅鞘に凸凹多く、判然せる二縦脈あり。膜質部は暗色、脈は判然し、灰白の短毛を粗生す。腹側縁は甚だしく弓状をなして突出し、葉状をなす。口吻、體下及び脚は暗褐、黄色の短毛多し。口吻短かし。腿節の末端に葉状の附屬物を具へ、後腿節の下面に更に三、四個の小齒を列ね、跗節は黄褐。體長(♀)八分五厘。此は臺灣茅埔庄及び阿里山にて捕獲せる珍種なり。

分布——臺灣、支那。

(202) ショウカヘリガメ(ムシ) 新千蟲一。一三〇頁(N. 190) (第十二圖(13)(♀))

學名 *Homococcus shokanensis Mats.* (英文一九頁參照)

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIII, f. 13, ♀, p. 130, N. 190 (1913)



體は淡黃褐、粗大の點刻を密布し、黄色の短毛多し。觸角の末端に至るに従ひ赤色を帯び、小顆粒多く、第二節の末端は暗褐。單眼は紅色。後頭は暗色。前胸背後縁の兩側は稍や楕圓形をなして凹陥す。稜狀部の末端は暗褐。半翅鞘には三縱脈ありて、稍や判然す。膜質部は光澤ある淡黃褐にして、半透明。腹側縁は黄色、少しく弓状をなして突出す。口吻、體下及び脚は黄色。各胸側片に一黑點あり。氣門の周圍は細く黑色。脚に小顆粒多く、之れより各一本の黃短毛を生ず。體長(♂)三分五厘、(♀)四分五厘。此は臺灣彰化、士林地方にて捕獲せるものなり。

分布——臺灣(彰化、士林)。

(203) オホクモヘリガメ (ムシ) 新千蟲一。一三一頁(N. 191) (第十二圖(14)(♀))

學名 *Uthierella marginata* Uhl. (英文二〇頁參照)

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIII, f. 14, ♀, p. 131, N. 191 (1913)

體は綠色、點刻を密布す。觸角は體より長く、紅色にして、第一節の外側に黑縱條を具へ、第二及び第三節の末端及び第四節の大部は暗褐。頭は灰白、前頭の二紋及び單眼は紅色。前胸背の兩側は細く黑色、鋸齒狀の小齒を列ね、後縁角は稍や直角をなして突出す。稜狀部に横皺多く、點刻少なし。半翅鞘は黃褐にして、少しく綠色を帯ぶ。膜質部は黃褐、半透明、腹背にある暗色の二紋を透視し得べし。口吻は綠色、體下は黄色。脚は綠色、基節、轉節及び腿節の基部は黄色、爪は黄色、その末端は褐色。體長七分——八分。此は本州に産すれども、餘り多からず。

分布——本州、九州。

(204) イハサキヘリガメ (ムシ) 新千蟲一。一三二頁(N. 192) (第十二圖(15)(♂))

學名 *Iwasakia biguttata* Mats. (英文二〇頁及び二二頁參照)

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIII, f. 15, ♂, p. 132, N. 193 (1913)

體は暗黃褐、點刻多し。觸角は少しく綠色を帯び、第一節の基部、第一、第二及び第三節の末端、第四節の基部並に末端の大部は暗色。頭頂に一縱溝あり。前胸背の兩側は暗色、兩側の突起は銳角をなして突出し、其末端は暗色。稜狀部の末端は暗黃。半翅鞘の稍や中央に當り暗黄色の一横紋あり。膜質部は尾端を越え、黃褐、半透明。口吻、體下及び脚は黄色。後腿節の外側は黃褐、脛節末端の半部及び跗節は綠色。體長(♂)五分。此は沖繩石垣島にて岩崎卓彌氏の採集せる珍種なり。

分布——沖繩(石垣島)。

(205) タイワンヘリガメ (ムシ) 新千蟲一。一三三頁(N. 193) (第十二圖(16)(♀))

學名 *Iwasakia formosana* Mats. (英文二二頁參照)

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIII, f. 16, ♀, p. 134, N. 193 (1913)

體は黃褐。觸角は赤色、體より少しく短かく、第四節は暗褐、基部は黄色。頭頂には黑色の小顆粒多し。前胸背の兩側は暗褐、暗褐の點刻多く、前縁にある點刻は地色にして、粗、後縁角は稍や直角をなして突出し、其の後縁に小齒を列ぬ。稜狀部の點刻は粗、前縁及び兩側に點刻なき部分を具へ、末端少しく黄色を帯ぶ。半翅鞘の點刻は前胸背にあるものより大にして、密、脈は判然し、外縁は赤褐を帯ぶ。膜質部は暗褐にして、銅色の光澤

を具へ、少しく腹端を越ゆ。口吻、體下及び脚は黄色、尾端の二節を除き、胸背の兩側に一個の小黑紋を装ふ。脛節及び跗節は赤色、爪は黄色、其末端は暗褐。體長(♀)六分五厘。此は臺灣大料決にて捕獲せる珍種なり。  
分布——臺灣(大料決)。

(206) ツマキヘリガメ(ムシ) 新千蟲一。一三五頁(N. 194) (第十二圖(17)(♀))

學名 *Pachycephalus opacus* Uhl.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIII, f. 17, ♀, p. 135, N. 194 (1913)

體は黒色、黄色の短毛多し。觸角は體よりも少しく短かく、各節の基部及び第四節(基部を除き)は橙黄色。頭頂の中央に二凹陥を具へ、後頭に二黄紋を装ふ。前胸背に粗大の點刻多く、中央及び前縁に各一個の横溝あり。稜狀部に顆粒を粗布し、末端は少しく橙黄色。半翅鞘に點刻を粗布し、縦脈は判然せず。外縁の中央に判然せざる一黄紋を装ふ。膜質部は暗黄褐にして、遙、尾端に達せず、不定脈多し。腹側は甚だしく突出し、各接合膜節の後縁は黄色。口吻は暗褐。體下及び脚は黒色。跗節は黄色。體長(♂)三分——三分二厘。此は本州に稀ならず。

分布——本州、九州。

(207) アシビロヘリガメ(ムシ) 新千蟲一。一三五頁(N. 195) (第十二圖(18)(♀))

學名 *Leptoglossus membranaceus* F.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIII, f. 18, ♀, p. 135, N. 195 (1913)

體は黒色、點刻多し。第二及び第三觸角節の中央並に第四節の末端は橙黄色。頭頂の後方にある二紋、頭下の兩側にある各一縦條、前胸背の中央に近き弓狀帶(前方に曲る)、同後縁の中央にある一黒點、稜狀部基部の兩側及び末端にある一黒點、半翅鞘の中央にある一黒點、各接合膜節の基部にある一紋、胸面及び腹面に散在せる數十紋は橙黄色。前胸背の後縁角は尖り、前方に向ふ。膜質部は少しく尾端を越ゆ。腿節に小齒を列ね、後腿節は長く、且つ肥大す。後脛節は葉狀をなして膨れ、中央に一縦隆を具へ、後方の肥大せる部分に三齒を裝ひ、前方の肥大せる部分に一黄紋あり。體長(♂)七分内外。此は沖繩及び臺灣に稀ならず。胡瓜及び南瓜の害蟲なり。  
分布——沖繩、臺灣、支那、比律賓、瓜哇、印度。

(208) ヒゲナガヘリガメ(ムシ) 新千蟲一。一三六頁(N. 196) (第十二圖(19)(♂))

學名 *Notobitus melangris* F.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIII, f. 19, ♂, p. 136, N. 196 (1913)

體は暗褐、點刻多く、光線の工合により少しく紺色を現はす。觸角は稍や體と同長、第四節の基部及び末端は黄色、觸角砧は黄色。前胸背の前縁に近く一横溝を具へ、後縁角は圓く、餘り突出せず。稜狀部の末端は黄褐。半翅鞘の縦脈は判然し、膜質部は銅色の光澤を放ち、少しく尾端を越ゆ。口吻の基部は黄色。體下は天鵞絨様の光澤を放つ。跗節、前中兩脛節(基部を除き)及び同腿節端の一紋は黄色、腿節下に鋭齒を列ね、後腿節下にあるものは長く、其間、中央にあるものは大、尙、後脛節の内方にも小齒を列ぬ。體長(♂)八分——九分。此は臺灣埔里社地方に稀ならず。

分布——臺灣、支那。

(209) **フタスチハリガメ** (ムシ) 新千蟲一。一三七頁(N. 197) (第十二圖) (♀)

學名 *Metacoelus bivittatus* Mats. (英文二二頁參照)

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thous. Ins. Jap. Add., I, pl. XIII, f. 20, ♀, p. 138, N. 197 (1913)

體は橙黃色、點刻多し。觸角體より少しく短かく、黒藍色、第二節最も長く、第一節は棍棒狀、第四節は暗褐。頭は黒藍色、後頭の一紋は黄色。前胸背の前縁、後縁角及び其の針狀突起は黒藍色、後縁の中央にある三角紋及び稜狀部は黒色。半翅鞘は黄色、前縁(細く)及び末端は暗褐。膜質部は暗褐、半透明、基部に一胞室ありて、之れより約十三條の縦脈を放出す。各接合膜節の後縁は黒色。體下は橙黃色。頭下、胸側紋、各腹節(第一節を除き)の後縁角、第三節の兩側にある一紋、尾節の一紋並に脚は黒藍色、但し脚基部の基部は黄褐。跗節は暗褐、第一節及び第二節の基部は黄色。體長(♂)五分——六分。此は沖繩地方にて、黒岩恒氏の採集せるものなるが、稀ならざるが如し。

分布——沖繩(那覇)。

(210) **アシフトヘリガメ** (ムシ) 新千蟲一。一三八頁(N. 198) (第十二圖) (21) (♂)

學名 *Anoprocnemis plusiana* F.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thous. Ins. Jap. Add., I, pl. XIII, f. 21, ♂, p. 138, N. 198 (1913)

體は暗褐、黄色の短毛を密生し、粗大の點刻多し。觸角は黄褐、第四節は黄色。前胸背の中央に細き灰白毛の一線を具へ、これは稜狀部の末端に達す。半翅鞘は赤褐、膜質部は暗色にして、銅色の光澤を放つ。體下及び脚は暗褐、臭腺孔は橙黄色。腹面の兩側は黄褐。後肢は頗る發達し、腿節の基部にて弓狀に曲り、其基部に一齒を具へ、末端に近き下面に三角形の葉狀突起を裝ひ、顆粒突起を散在す。基節、轉節及び跗節は黄褐。體長(♂)八分——九分。此は臺灣地方に普通なる種類にして、葫蘆科植物に有害なり。

分布——臺灣、支那、馬來、比律賓、瓜哇、印度。

(211) **ヘリガメ** (ムシ) 新千蟲二。一頁(N. 198) (第十三圖) (1) (♀)

學名 *Gynonastes marginatus* L.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 1, ♀, p. 1, N. 198, (1905)

體上は褐色若くは赤褐。頭は小。頭頂に一個の縦溝あり。複眼は小。觸角太く、第一節は甚だ大にして、平たく、第二節と略ぼ同長、第三節は第二節より短、第四節は更に一層、短小なり。口吻は中肢の基節に達す。前胸は大、粗糙にして刻點を具へ、兩側は銳角をなして突出し、双物狀を呈せり。稜狀部は小、稍や等邊三角形をなし、顆粒を散在す。半翅鞘の脈は餘り判然せず、刻點及び顆粒多し。膜質部は尾端に達し、多數の分支せる波狀縦脈を具へ、其の間に更に多數の縦隆あり。腹部は甚だしく左右に張り、兩側は双物狀を呈し、中央部に黄紋あり。體下及び脚は黄褐、褐色の刻點を散在す。體長(♂)五分内外。此は札幌地方に最も普通なる種類にして、菊科植物に多し。

分布——北海道、本州、西比利亞、歐洲。

(212) **ホホツキガメ**(ムシ) 正千蟲二。一頁(N. 199) (第十三圖(2)(♀))

學名 *Acanthocoris soritidis* Thunb.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 2, ♀, p. 1, N. 199 (1905)

體上は暗褐、體下は暗黄、短毛を密生し、顆粒多し。頭は小。觸角は稍や半翅鞘の末端に達し、剛毛を粗生し、第一節は他節より二倍程太く、第二節は最長、第三節は第一節と略ぼ同長、第四節最短にして、紡錘形を呈す。口吻は赤褐、中肢の基節に達す。前胸の中央及び前縁は凹陥し、後縁に近く一個の横溝を具へ、兩側は銳角をなして突出し、兩縁に鋸齒状の突起あり。稜状部は細き三角形をなして、中央は膨起せり。半翅鞘の中央に隆起せる一縦脈を有す。膜質部は黒色、波状をなせる縦脈多し。腹部は長楕圓、腹背は美麗なる赤色、兩側は暗褐、黄紋あり。脚に棘状突起多く、後腿節は太くして、棍棒状を呈し、其の内側に大小數十個の小齒を具へ、前中兩腿節の一部は黄色、後腿節の中央は稍や葉状に脹れ、其の脹れたる處に一個の黄紋あり。體長♂(三分五厘)♀(四分)。此は茄子科の植物に大害を加ふる普通種なり。

分布——本州、四國、九州、琉球。

(213) **キバネホソガメ**(ムシ) 正千蟲二。二頁(N. 200) (第十三圖(3)(♀))

學名 *Megalotomus coelalis* Stål

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 3, ♀, p. 2, N. 200 (1905)

體は光澤ある黒色。頭稍や三角形にして、大。複眼は半球状に突出す。觸角は體より少しく短かく、第一節は

少しく棍棒状に膨大して第二節より長く、第二及び第三節は略ぼ同長、第四節は長く、第二及び第三節を合したるものよりも長し。單眼間の一點、顎の兩側紋及び口吻の基部は黄色。口吻は中肢の基節に達す。前胸は粗糙にして細く、頭部と稍や同幅、後方の兩側に棘状の一突起あり。中胸片に黄色の一縦隆を裝ふ。稜状部は小にして、細き三角形をなす。半翅鞘は黄色若くは黄褐、基部は暗色、末端は細長、膜質部は暗色、透明、十三、四個の稍や相平行せる縦脈を裝ふ。腹面は稍や卵形にして、膨大し、腹背は平坦、兩側に横紋あり。脚は長く、脛節及び跗節の大部は黄色、後腿節は少しく膨大し、其の内方の基部に、四、五個の棘刺あり。體長♂(♀)五分内外。札幌附近に普通なる種類にして、雜草間に多し。

分布——北海道、本州。

(214) **ホソヘリガメ**(ムシ) 正千蟲二。三頁(N. 201) (第十三圖(4)(♀))

學名 *Riptortus clavatus* Thunb.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 4, ♀, p. 3, N. 201 (1905)

體は赤褐。頭は稍や大にして、三角形を呈す。單眼の周圍は暗色。觸角の第一節は第二及び第三の兩節を合したるものと稍や同長、第四節は甚だ長く、基部は黄色を呈す。口吻は後胸に達し、末端は黒褐。頭下部は黒色、兩側に黄條あり。前胸は細く、黒色の顆粒を散在し、後方の兩側に棘状の二突起ありて、後方にあるものは小、後縁の中央は突起し、其の兩側は淺く刻られ、側縁は黒色、前縁にも黒色の短縦線あり。稜状部小にして、末端は黄色、中央に一個の縦隆あり。膜質部は光澤を有し、多數の稍や平行せる縦脈を裝ふ。胸片は黒色、各基節の

外側上方に楕圓形の一黄白紋を装ふ。後腿節は甚だしく脹れ、黒色にして、黄紋を散在し、其内側に五、六個の棘刺を装ひ、末端にある棘刺の間には更に三、四個の小齒あり。跗節端は黒褐。腹背は黒色、中央に大なる一黄紋あり。體長♂(♀)五分五厘。これは荳科植物に有害なり。北海道に産せざるも、本州には普通なり。

分布——本州、四國、九州、琉球。

(215) ハリガメ(ムシ) 正千蟲二。四頁(N. 202) (第十三圖(5)(♀))

學名 *Cletus pugator* Dall.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 5, ♀, p. 202 (1905)

體上は暗褐、體下は黄色にして黒點を散在し、小形の點刻を密布す。頭は小、頭頂に一個の縱溝あり。觸角は黄褐、第一節は太くして、稍や稜柱狀を呈し、外側に黒縱線を具へ、第二節は第一節と略ぼ同長、第三節は第二節より少しく短かく、第四節は最短にして、褐色を呈し、紡錘狀をなす。口吻は後胸に達し、末端は黒褐。前胸は菱狀を呈し、後方の兩側に棘狀突起を具へ、後方には小齒列を装ふ。稜狀部は小、末端は黄色。半翅鞘前縁の基部は黄色、後縁の中央(膜質部に近き所)に各一個の黄點あり。膜質部は暗色、半透明、分支せる縦脈多し。脚は黄色、環狀に小黒點を密布す。腹背は黄色、兩側に黒縱條あり。體長♂(♀)三分半。此は時に稻に大害を加ふる事あり。北海道に産せざるも、本州及び四國には普通なり。

分布——本州、四國、九州、琉球。

(附言) これに酷似せるものにして、同じく稻を害するものあり、其學名を *Cletus trigonus* Thung. (ホソハリガメ)と云ふ。此は前種より稍や細きを以て識別することを得べし。

(216) ハラビロガメ(ムシ) 正千蟲二。五頁(N. 203) (第十三圖(6)(♀))

學名 *Homocercus dilatatus* How.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. X VIII, f. 6, ♀, p. 5, N. 203 (1905)

體上は黄褐、體下は黄色にして、黒色の點刻を散在す。頭小にして稍や四角形を呈し、頭頂に短かき縱溝あり。觸角は赤褐にして、第一節太く、第三節と同長、第二節最長、第四節は最短。口吻は中肢の基節に達し、末端は黒色。前胸は稍や三角形を呈し、後方の兩側は直角をなして突出し、中央に黄色の縦條を具へ、これは稜狀部に至る。稜狀部小にして、横皺あり。半翅鞘中央の脈上に一個の黒點を装ふ。膜質部は暗黄、透明にして、不正に分支せる縦脈多し。脚には黒色の小顆粒を密布し、爪端は黒褐なり。腹部の兩側は著しく脹れ、中央に黒紋の二例を縱走し、兩側の接合部少しく淡色なり。體長♂(♀)四分六厘、(♀)五分。此は東京地方にてはハギに多し。時に小豆に大害を加へることあり。又時に室内に群飛し來ることあり。

分布——本州、九州。

(217) アツキガメ(ムシ) 正千蟲二。五頁(N. 204) (第十三圖(7)(♀))

學名 *Homocercus concoloratus* Thl.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 7, p. 5, ♀, N. 204 (1905)

體上は黄褐、時に綠色を帯ぶる事あり。楕圓形の點刻を散在す。體下は淡色。頭は小、頭頂に短かき一縱溝ありて、其後方に黒點の縦條を装ふ。觸角は普通、赤色にして、第一節太く、第二節は第一より長く、末端は黒色、

第三節は第一節より少しく短かく、第四節は更に一層短かし。口吻は短、中肢の基節に達せず、其末端は少しく黒色を帯ぶ。前胸は稍や三角形、後方の兩側は鋭角をなし、中央に黄色の縦線を縦走し、これは稜狀部に接續す、又、其兩側に黒點の一縦條あり。稜狀部は稍や等邊三角形にして、末端に近く一黒紋あり。半翅鞘後縁の中央に一黒點を裝ふ。膜質部は透明にして、少しく黄色を帯び、之れに七、八個の縦脈を裝ふ。各胸部の側片に一黒點あり。脚は黄色、跗節は少しく赤色を帯ぶ。腹背は黄色、中央に二黒紋を裝ひ、兩側に一個の縦脈を具へ、其外側に黒紋の一行あり。體長(♂)四分五厘、(♀)五分。此は荳科植物の害虫にして、時に大小豆に大害を加ふることあり。

分布——本州、四國、九州、支那。

(218) トゲトゲガメ(ムシ) 正千蟲二.六頁(N. 205) (第十三圖(8)(♀))

學名 *Coreus scabricornis* Panz.

昆蟲學上の地位、縁椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 8, ♀, p. 6, N. 205 (1905)

體は暗褐、甚だ粗糙にして、短毛を密生す。頭小、頭頂の中央に灰白の一縦線あり。觸角は甚だ太く、軟毛及び剛毛を密生し、第一節は特に太く、第二節より長く、第三節及び第三節は同長、第四節は太く、第三節より少しく短かし。口吻は中肢の基節に達し、末端は黒褐なり。前胸には五縦溝を具へ、兩側には白色の顆粒突起列あり、其の末端より各一本の剛毛を出し、後方の兩側に一個の棘狀突起を具へ、後縁に近く一個の横隆あり。稜狀部は小にして、少しく凹陥せり。半翅鞘に隆起せる二縦脈を具へ、其の脈上に黒褐紋を裝ふ。膜質部は灰白、白色の縦脈を具へ、其の脈上に黒褐部あり。脚は黒褐、脛節及び跗節の大部は黄色、後腿節は發達し、内方の末

端に四個の鋭齒ありて、上方にあるものは長し。腹背は黒色、其の中央及び兩側は暗黄、後者の部分には黒褐の紋條あり。體長(♂)二分五厘、(♀)二分八厘。

分布——本州(播州地方には稀ならず)。

(219) オホヘリガメ(ムシ) 正千蟲二.七頁(N. 206) (第十三圖(9)(♀))

學名 *Ochrochira fuliginosa* Uhl.

昆蟲學上の地位、縁椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 9, p. 7, N. 206 (1905)

體は黒褐、短毛を密生す。頭は短かく、稍や四角形を呈し、前頭の兩側は突出し、爲に中間に凹陥部を生ず。觸角は體の半以上に達し、第一節は太く、其兩端は更に太く、第二及び第三節よりも長く、第四節と略ぼ同長、第四節の末端は黄色。口吻は短かく、中肢の基節に達せず、淡黄褐にして、末端は黒褐。前胸は粗糙にして、横皺を有し、兩側に三角形の葉狀突起ありて、其の後方は圓く、小齒を連ね、後縁に近く一個の横隆起を具へ、後縁と相平行す。稜狀部は短かく、横皺あり。半翅鞘は黄褐、三縦脈は判然し、之れに一個の横脈あり。膜質部は少しく腹端外に出で、七、八個の縦脈を具へ、之れより分枝を出すものあり。脚は太く、特に後腿節は甚だしく發達し、其内方の末端及び中央に近く小齒を裝ひ、上方には三、四個の顆粒突起を具へ、後脛節は側扁にして、末端に近く稍や三角形の突起あり。此は本邦最大なる椿象の一種にして、餘り多からず。體長(♂)八分内外。

分布——本州、四國、九州。

## (220) クモガメ(ムシ) 正千蟲二。八頁(N. 207) (第十三圖)(10)(♀)

學名 *Leptocoriza varicornis* F.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 10, ♀, p. 5, N. 207 (1905)

體は黄色(生時綠色)にして綠色を帯び、細長にして、長脚を有するを以て蜘蛛に似たる所あり。頭は長く、頭頂板は短かく、前頭の兩側は栓状をなして突出す。卵形の單眼は紅色。頭は平滑。觸角は體よりも遙に長く、第一節の末端及び兩側は黒色、第二及び第三節末端の半は黒色、第四節は暗色、基部は黄色、第二と第三節は略ぼ同長にして、第一節より少しく短かし。口吻は後肢の基節に達し、第一節は黄色、以下各節の上面(小腮)及び末端は黒色。前胸は頭と接續して、稍や圓錐形を呈し、前縁は平滑なれども、後方には點刻多し。後縁角は褐色。稜状部は細き三角形をなす。半翅鞘の外片には點刻少なしと雖も、内片には大なる點刻多し。膜質部は透明にして、淡褐色を帯び、基部は黒褐、十二、三個の縦脈を裝ふ。胸部の側片には點刻あれども、胸片及腹面に點刻を缺く。脚は長く、脛節の兩端及び跗節の末端並に爪は黒褐。腹背には斑紋なし。體長(♂)五分、(♀)五分五厘。此は稲作に大害を加ふることあり。これは寒國に産せざれども、臺灣及び南洋地方には普通なり。

分布——本州、四國、九州、琉球、支那、比律賓島、瓜哇、印度。

## (221) ヒメクモガメ(ムシ) 正千蟲二。八頁(N. 208) (第十三圖)(11)(♀)

學名 *Paraplesius unicolor* Scott

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 11, p. 8, ♀, N. 208 (1905)

體は細長、暗黄にして綠色を帯ぶ。頭は細長く、前頭の兩側突出し、頭頂には黒色の短き縦溝を裝ふ。球形の單眼は紅色、其前方に八字形の暗色條あり。觸角は體より少しく短かく、第一節は第二及び第三節より長く、第四節は第一節より更に長く、第四節は暗黄にして、基部に近き部分は黄色、基部は黒褐。口吻の末端及び基部は黒色にして、稍や後肢の基部に達す。前胸は細く、兩側及び中央に淡色の一線を縦走し、兩側にある縦線の内方は黒色。稜状部は小にして、末端は黄色。半翅鞘の點刻は前胸に於けるものより大にして、且つ粗なり。膜質部には判然せざる縦脈を具へ、其内に暗褐色あり。胸片は平滑、黒色にして、中胸片には三個の黒條を縦走し、側片の點刻は大なり。腹面には粗に黒點を散在し、基部の中央は黒色なり。脚には暗色の點刻を散在し、跗節端及び爪は黒褐なり。體長(♂)四分五厘乃四分八厘。此は札幌地方に普通なるものにして、早春、其越年せるものを竹叢の間に捕へ得べし。

分布——北海道、本州、四國、九州。

## (222) コバネガイタ 正千蟲二。九頁(N. 209) (第十三圖)(12)(♀)

學名 *Pamera hemiptera* Stål

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 12, p. 9, ♀, N. 209 (1905)

體は黒色。頭は三角形を呈し、小形なる點刻を密布し、頭頂板長し。觸角は體の半以上に達し、黄色、第一節の基部、第三節の末端及び第四節の全部は黒褐。口吻は中肢の基節に達せず、黄褐色にして、末端は黒褐。前胸溝によりて前後の二部に分かれ、前部は稍や球形を呈し、兩側に各一個の縦溝を裝ひ、殆んど點刻を有せず、

後部は稍や長方形を呈し、點刻多し。稜狀部は小にして、中央は隆起し、末端は黄色、小點刻を散在す。半翅鞘は暗黄、前縁の中央及び末端に褐色紋を具へ、點刻は粗大にして、淡褐を帯ぶ。膜質部は短かく、尾節を露出し、暗色を帯び、末端に近く灰白紋を装ふ。脚は黄色、腿節は兩端を除き黒色、前腿節は甚だしく膨大し、其内側に七、八個の鋭齒を列ぬ。胸背は黒色、基部及び兩側は黄色。體長(♂)二分内外。本邦何れの地方にも多く、草間に普通なり。

分布——北海道、本州、四國、九州、朝鮮、支那。

(223) マダラガメ (ムシ) 正千蟲二。一〇頁(N. 210) (第十三圖 (13) (♀))

學名 *Lygaeus equestris* L.

昆蟲學上の地位、長椿象科 (Lygaeidae)。Thoms, Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 13, ♀, p. 10, N. 210 (1905)

體は紅色。複眼の内側は黒色。觸角は黒色、第一節は短かく、第五節は第三節より長く、第四節と同長。口吻は黒く、中肢の基節外に達す。前胸の前縁及び後縁は黒色、中央に近く二個の圓き黒紋を装ふ。稜狀部は黒色。半翅鞘外片の中央にある大紋及び内片にある小紋は黒色、膜質部は黒色。中央に圓き白紋を具へ、基部及び半翅鞘の末端に近く弦月形の各一白紋あり。胸片及び側片は灰黒にして、側片には圓き一黒紋を装ふ。脚は灰黒、褐色の短毛を密生す。腹背の兩側にある圓紋及び尾端は黒色。腹面の各節中央にある一対の長紋及び兩側にある圓紋は黒色なり。體長(♂)五分内外。此は札幌地方に最も普通なるものにして、繖形科の植物に多し。これは越年せんが爲、秋季家屋内に集來することあり。

分布——北海道、本州、西比利亞、歐洲。

(224) ジュジガメ (ムシ) 正千蟲二。一一頁(N. 211) (第十三圖 (14) (♀))

學名 *Lygaeus cruciger* Motsch.

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms, Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 14, ♀, p. 11, N. 211 (1905)

體は紅色。頭は黒色にして、後縁の中央に近く一個の赤紋あり。觸角は黒く、第一節は太くして短かく、第二節は第一節より稍や二倍長く、第三節より三分の一長く、太き第四節と同長。口吻は黒色、後肢の基節に達す。前胸は稀に點刻を具へ、中央には大なる二個の黒紋を装ひ、中央及び兩側は隆起せり。稜狀部は黒色、中央には一個の縦隆起あり。半翅鞘は紅色、内片の大部及び外片の大紋は黒色。膜質部は黒く、其周縁は白色。胸部の側片には大なる一黒紋を具へ、中胸及び後胸の胸片は黒色。脚は黒く、褐色の短毛を密生す。腹背及び腹面は紅色、兩側に黒紋を具へ、後者の中央にも大なる黒紋の一縦列あり。體長(♂)二分五厘、(♀)三分。此は餘り多からざる種類なり。

分布——北海道、本州、九州、西比利亞。

(225) シロヘリガイタ 正千蟲二。一一頁(N. 212) (第十三圖 (15) (♂))

學名 *Aphanus japonicus* Stål

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms, Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 15, ♂, p. 11, N. 212 (1905)

體は黒色。頭頂板は長く突出し、後頭は平滑、前頭の兩側には短毛を密生し、點刻あり。觸角は黒く、體の半以上に達し、第二節中央の赤褐なるものあり。第二及び第四節は同長、第三節は少しく短かし。前胸は灰白、前



後兩縁は細く赤色を呈し、兩側は薄くして葉狀に張り、前縁に近く稍や長方形の大黒紋を具へ、其中央は平滑なるも、兩側には點刻多く、灰白なる部分には粗大なる黒點刻を散在し、其中央には灰白の短かき一縱條を有するものあり。稜狀部は黒色、中央は凹陥し、其下方にある二紋及び末端は灰白。半翅鞘は灰白なれども、黒色の點刻を密布するを以て黒色の地色を表はし、後縁の中央には黒色の一長紋を具へ、前縁基部の大部に點刻少なきを以て灰白色は判然せり。膜質部は黒色、四個の弓曲せる縱脈を有し、灰白の小紋を散在す。脚は黒く、跗節の基部及び前脛節は末端を除き黄色、前脛節は太く、棍棒狀を呈し、内側の末部に一鋭齒あり。脛節には細刺を裝ふ。體長(♂)二分五厘。此は石若くは倒木の下に普通なる種類なり。

分布——北海道、本州。

(226) **モ、モグロヒメガメ** (ムシ) 正千蟲二・一二頁(N. 213) (第十三圖(16)) (♀)

學名 *Corizus crassicornis* F.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 16, ♀, p. 12, N. 213 (1905)

此は甚だ變色し易き種類にして、一樣に其彩色を記する事能はずと雖も、其内、最も普通なるものの特性を舉ぐべし。體上は灰褐、點刻多く、體下は暗黄にして、赤褐紋を散在す。頭は稍や五角形。觸角の後方にある突起は長し。頭頂板は兩側板より長く、單眼の兩側に黒紋あり。觸角太く、基節の前後に黒色の縱條を具へ、第二節は第三節より少しく長く、第四節は太くして最長、其中央は少しく褐色を帶ぶ。口吻は中肢の基節外に達し、第一及び第二節は黄色(但し上面は黒色)、第三及び第四節は黒色。前胸は中央に黄色の低き隆條を縱走し、前縁

に近く其の兩側に各一横溝あり。稜狀部の末端は黄色。半翅鞘は半透明、灰白にして、脈は黄色、其上に黒紋あり。膜質部は腹部より長く、透明にして、判然せざる八、九個の縱脈あり。脚は黒點を密布し、後脛節内方の基部は黒色、脛節及び跗節端並に爪は黒褐。腹背は黒色、中央には又狀の黄紋を裝ひ、兩側及び尾節には黄紋を裝ふ(但し或種類にありては尾節は黄色にして、三黒紋を有するものあり)。體長(♂)二分五厘、(♀)二分八厘。此は雜草間に普通なり。

分布——北海道、本州、西比利亞、歐洲。

(227) **メダカガメ** (ムシ) 正千蟲二・一三頁(N. 214) (第十三圖(17)) (♀)

學名 *Chauliops fallax* Scott

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 17, ♀, p. 13, N. 214 (1905)

體は灰褐、少しく綠色を帶ぶ。頭は三角形にして、下方を向く。複眼は甚だしく膨起し、恰も蟹の眼の如く、有柄なり。觸角は黄色、第一節及び第四節は赤褐、體の半に達し、第一節太く、第二節より短かく、第三節より少しく長く、第四節と同長、第四節は太く、紡錘狀をなす。口吻は黄色、後胸に達し、末端は黒褐。前胸には點刻を散在し、中央には一條の縱隆を裝ひ、後縁角に黒褐紋を有するものあり。稜狀部は黒色、粗糙にして、中央に一縱溝を裝ふ。半翅鞘は腹部の半ばに達し、末端圓くして、褐色を帶び、點刻は粗大なり。膜質部は灰白、不透明にして、不明なる褐色紋を裝ふ。脚は黄色、脛節の大部及び脛節の基部は黒褐。腹背は黒色、兩側に黄紋あり。腹面は褐色なれども、灰白物を以て被はるゝを常とす。體長(♂)八厘、(♀)一分内外。此は微小なる種類にして、大小豆の莖液を吸収し、大害を加ふることあり。

分布——本州、四國、九州。

(228) モンヒメガメ(ムシ) 正千蟲二。一四頁(N. 215) (第十三圖(18)(♀))

學名 *Corizus maculatus* F.

昆蟲學上の地位、縁椿象科。Thoms, Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 18, ♀, p. 14, N. 215 (1905)

體は黄赤にして、細毛を生ず。頭稍や五角形をなし、觸角の後方に各一個の突起を具へ、頭頂には小點刻を裝ひ、白毛を粗布す。單眼は紅色。觸角は細毛を生じ、體より遙に短かく、第一節は最短、第二節は第三節より少しく長く、第四節は最長にして、太く、紡錘狀を呈し、其中央褐色なり。前胸は大なる點刻を散在し、前縁に近く一個の横溝を具へ、中央には低き一縦隆あり。稜狀部には小點刻を散在し、末端は細し。半翅鞘は稍や透明、脈上に黑點あり。膜質部は透明にして、之れに不透明なる淡褐色を散在す。口吻は中肢の基節外に達し、上面(中央の小腿)及び末端は黒褐。脚には赤色の小點を密布し、跗節端及び爪は黒褐。腹背の兩側に黒條及び黒紋を裝ひ、尾節の中央に一黒縦條あり。腹面には粗に黑點を散在し、兩側にありては腹背の黒條を透視し得べし。體長(♂)三分八厘、(♀)四分。此はアカザの花に普通なり。

分布——北海道、本州、歐洲。

(229) クロオホメガメ 正千蟲二。一五頁(N. 216) (第十三圖(19)(♀))

學名 *Geocoris itomis* Horv.

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms, Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 19, ♀, p. 15, N. 216 (1905)

體は光澤ある黒色。頭は短かき五角形。複眼は赤褐にして、甚だしく膨起し、突出せる前頭の兩側に各一個の白紋を具へ、中央には一條の縦溝を具へ、點刻なし。觸角黒く、第四節末端の半は暗黄。口吻は黄色なれども、基部は黒褐。前胸は遙に頭部よりも狭く、不明なる二、三條の横溝を具へ、粗大の點刻を裝ふ。稜狀部は稍や等邊三角形にして、中央は少しく膨起し、點刻多く、末端は黄白なり。半翅鞘は稍や穹形に膨起し、前縁には赤褐の點刻を散在す。膜質部及び後翅を缺如す。腹背は平坦、腹面は稍や三稜狀に膨起す。脚は黄褐。體長(♂)(♀)二分七厘内外。此は九月頃、札幌近邊に産すれども、餘り多からず。

分布——北海道(札幌)。

(230) アカサシガメ 正千蟲二。一五頁(N. 217) (第十三圖(20)(♀))

學名 *Cydnocoris ruscatus* Stål

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms, Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 20, ♀, N. 217 (1905)

個種により多少色澤を異にすれども、先づ體は美麗なる朱色を呈し、頭頂にある棘狀突起の末端、觸角(基部を除き)、脚(基節を除き)、膜質部、口吻末端の二節、前胸前縁の兩側、中後兩胸の大部及び腹面の大部は黒色若くは黒褐。全體光澤を放ち、點刻を缺き、多少細毛を裝ふ。前胸の後縁角は突出せず。雄は雌より細形なり。體長(♂)三分五厘、(♀)四分三厘。此は餘り多からざる種類なり。小蟲を捕食するを以て有益なり。著者は未だ北海道に産するを知らず。

分布——本州、四國、九州。

(231) オホメガメ (ムシ) 正千蟲二。一六頁(N. 218) (第十三圖 (21) (♀))

學名 *Geocoris varius* Uhl.

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms. Ins. Jap. II, pl. XVIII, f. 21, ♀, p. 16, N. 218 (1905)

體は黒色、頭は黄色乃至黄赤、複眼は赤褐。頭頂には點刻なく、前頭は細く突出し、中央には淺き一縦溝あり。觸角は黒色、第一節は黄赤、第二節の兩端、第三節の末端、第四節の基部並に口吻は黄色。前胸は稍や長方形を呈し、後縁角は黄色、中央に廣き一横溝を具へ、粗大の點刻を散布す。稜状部の中央は少しく膨起し、點刻を粗布す。半翅鞘は暗黄若くは黄褐、中央は平滑なるも、兩側には黒褐の點刻を裝ふ。膜質部は透明にして、少しく黄色を帯び、尾端外に突出す。前胸片及び脚は黄色。後腿節の末端に褐紋あり。腹部は黒色。體長(♂)一分四厘、(♀)一分六厘。此は本邦稀ならざる種類なれども、北海道には産せず。

分布——本州、四國、九州。

(232) ヒメガメ (ムシ) 正千蟲二。一六頁(N. 219) (第十三圖 (22) (♀))

學名 *Corizus hyalinus* F.

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap. II, pl. XVIII, f. 22, ♀, p. 16, N. 219 (1905)

此はモンヒメガメ二二八號に酷似するの種類にして、其異なる所を擧ぐれば左の如し。

- 一、體の細長なる事。
- 一、觸角基節の前側に大なる黒紋を有する事。

一、脚に小褐紋を散在する事。

一、膜質部は透明にして、褐紋を有せざる事。

一、尾節腹背の中央に二個の黒紋ありて、後方にあるものは長し。

一、體長(♂)三分五厘。

此は同じくアカザに普通なり。

分布——北海道、本州、西比利亞、歐洲。

(233) フチヒメガメ (ムシ) 正千蟲二。一七頁(N. 220) (第十三圖 (23) (♀))

學名 *Corizus sapporensis* Mats. (英文二三頁参照)

昆蟲學上の地位、綠椿象科。Thoms. Ins. Jap. II, pl. XVIII, f. 23, ♀, p. 17, N. 220 (1905)

體は灰褐にして、綠色を帯び、細毛を粗生す。頭頂には細き三縦溝を具へ、點刻を散在す。觸角は體の半以上に達し、第一節は黒點刻を散在し、外側に黒紋を具へ、第二節は第三節より少しく長く、第四節と略ぼ同長、第四節は太く、紡錘狀を呈し、黒色にして、兩端は黄色、各節に長き細毛を粗生す。口吻は黄色、末端は黒褐、四肢の基節外に達す。前胸には多數の黒點刻を散在し、後縁は少しく黄色を呈し、後縁角には一黒紋あり。稜状部は稍や等邊三角形、點刻多く、末端は黄色。半翅鞘の脈上には粗に黒點を散在し、膜質部は透明、數個、不明なる暗褐の小紋あり。脚に長毛を粗生し、黒點を散在し、跗節端及び爪は黒褐。腹面の兩側は黒色と黄色の斑をなし、其下方に各一條の黄色線を縦走す。腹背は黒色、其兩側は黒色と黄色の斑をなし、中央に黄色の一短線を縦走す。體長(♂)三分内外。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道。

(234) ヒゲナガメクラガメ 正千蟲二。一八頁(N. 221) (第十三圖) (24) (♀)

學名 *Adelphocoris lineolatus* Goetz.

昆蟲學上の地位、盲椿象科(Capsidae)。Thous. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 24, ♀, p. 18, N. 221 (1905)

頭は黒色、後頭は暗黄、中央に深き一縦溝あり。口吻は黄色、末端は黒褐。觸角は黄色にして、長き細毛を粗生し、體より遙に長く、第一節の基部、第二節の兩端、第三節(基部は黄色)及び第四節は黒褐。前胸背は黄色、前縁は黒色、中央に二個、兩側に各一個の大なる天鵞絨様の黒紋あり。稜狀部は膨起し、基部は凹陥し、細き横皺を裝ふ。半翅鞘は體より遙に長く、内片は黒色にて、白毛を粗生し、外片は綠黄、接合線に平行せる一條及び末端は黒褐、楔狀片は黄色、半透明にして、中央に一暗色紋あり。膜質部は暗色にして、前縁に近き脈は黄色を帶ぶ。胸片は黒色。脚は黄色にして、白色の長毛を粗生し、腿節に黒紋列あり。腹面は黒色、接合膜及び腹面の中央は黄色なり。體長(♂)二分五厘(翅端迄)。此は札幌近傍に普通なる種類なり。

分布——北海道、歐洲。

(235) フタモンメクラガメ 正千蟲二。一九頁(N. 222) (第十三圖) (25) (♀)

學名 *Adelphocoris variabilis* Uhl.

昆蟲學上の地位、盲椿象科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 25, ♀, p. 19, N. 222 (1905)

彩色及び紋條には變化多しと雖も、先づ體は黄色にして、少しく綠色を帶び、短かき黄毛を密生す。頭は黒色、複眼は赤褐。觸角は細長く、第一節太く、第四節より少しく短かく、第二節及び第三節は略ぼ同長、第一節より二倍以上長く、普通、黄色なれども、少しく暗色を帶ぶるものあり。口吻は長く、後肢の基節に達し、末端は少しく黒褐を帶ぶ。前胸の中央に卵形の二黒紋ありて、種類により其紋の黒點となれるものありて、前縁及び兩側には褐紋を裝ふ。稜狀部の中央は多少膨起し、末端は黄白なり。半翅鞘の内片は黒褐、外片の中央に長三角形の黒紋あり。膜質部は黒色。脚は黄色若くは暗黄にして、暗色の小紋を散在す。胸片は黒色、胸側片に黒紋あり。腹部は黒く、腹面の兩側に太き黄色の一縦條を裝ひ、兩側は黄色と黒色の斑をなす。體長(♂)二分四厘、翅端迄二分八厘。此は札幌地方に普通なり。

分布——北海道、本州。

(236) ムギメクラガメ 正千蟲二。一九頁(N. 223) (第十三圖) (26) (♀)

學名 *Stenodema (Miris) calcareatum* Fall.

昆蟲學上の地位、盲椿象科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 26, ♀, p. 19, N. 223 (1907)

體は黄緑。頭は三角形をなして突出し、中央に一條の縦溝を具へ、兩側に暗色の一條を縦走す。觸角の基節は太くして、細毛を密生し、第四節より少しく長く、第三節より少しく短かく、第二節の半に達す。口吻は黄色、中肢の基節に達し、末端は黒褐。前胸背には點刻を散在し、兩側に暗色の一縦條あり。稜狀部は點刻を裝ひ、前角は黒褐。前翅鞘の中央には暗色の一條を縦走し、膜質部にある暗色の縦條に相繼續し、黄白の短毛を密生す。膜質部は灰色にして、不透明なり。中胸片は黒色。脚は黄色、後腿節の上方に二條の黒紋列を裝ひ、末端に近く

内側に棘状の二突起ありて、下方にあるものは大なり。體長(♂)二分、翅端迄二分五厘。此は禾本科植物に普通なる種類にして、麥及び稻液を吸収し時に大害を加ふることあり。

分布——北海道、本州、西比利亞、歐洲。

(237) **モンキクロメクラガメ** 正千蟲二。二〇頁(N. 224) (第十三圖(27) (♀))

學名 *Deroecoris (Carpus) ater* Jak.

昆蟲學上の地位、盲椿象科。Thoms. Ins. Jap. II, pl. XVIII, f. 27, ♀, p. 20, N. 224 (1907)

體は光澤ある黒色。頭頂は暗黄、黒色の三縱條を具へ、點刻を缺く。觸角は體と略ぼ同長、第一節は第三節より少く短かく、第四節より約二倍長く、第二節の三分の一よりも長く、第三及び第四節は暗黄。口吻は腹部に達し、基部の下方及び第三節の末端は黄色。前胸に判然せる點刻を散在し、前縁は滑澤なり。稜狀部は膨起し、點刻を粗布す。半翅鞘は點刻を密布し、楔狀片(これは *Cumens* と稱し、半翅鞘の末端に位し、稍や楔狀を呈せる部分を云ふ)は黄橙色を呈し、其の末端は更に黒色。膜質部は黒色にして、半透明。脚は黒く、基節、脛節の末端及び跗節の大部は黄色。體長(♂)二分五厘、翅端迄三分。此は七月頃、東京地方に普通なる種類なり。

分布——北海道、本州、九州、西比利亞。

(238) **アカアシメクラガメ** 正千蟲二。二一頁(N. 225) (第十三圖(28) (♀))

學名 *Dieyphus lantus* Uhl.

昆蟲學上の地位、盲椿象科。Thoms. Ins. Jap. II, pl. XVIII, f. 28, ♀, p. 21, N. 225 (1907)

頭は光澤ある黒色なれども、時に暗黄なるものありて、下方を向き、頭頂に一黄紋を裝ふ。觸角は褐色、第一節の基部及び第三節基部の半は黄白、第一節短かく、第四節最も長し。口吻は黄色、腹部に達し、第一節の基部及び第四節の末端は褐色。前胸背は黒褐、中央には黄色の輪環ありて、其内部は黒く、三條の横皺あり。稜狀部は黄色、大なる四黒紋を裝ふ。半翅鞘は緑白にして、稍や透明、内片は赤褐、其基部及び外片との限界は黒色、外片の中央に赤褐紋ありて、其前縁には褐色の縱條を裝ひ、其外側には稍や透明なる卵形紋あり。楔狀片の基部に褐色の横紋を裝ひ、末端は赤褐なり。膜質部は透明、末端及び基部に黒紋あり。腹部は黄色、兩側及び末端は黒褐。腹背は普通黒色。脚は赤色、脛節(基部及び中央)、脛節及び跗節は黄色、跗節端は黒褐。體長(♂)一分八厘内外、翅端迄二分五厘。此は東京地方に普通なり。

分布——北海道、本州。

(239) **ヒゲナガガイタ** 正千蟲二。二二頁(N. 226) (第十三圖(29) (♀))

學名 *Pachygontha antennata* Uhl.

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms. Ins. Jap. II, pl. XVIII, f. 29, ♀, p. 22, N. 226 (1907)

體は暗灰色にして細長。觸角は體より長く、第一節は最長、其末端は棒棍狀にして、黒褐、第二節は第三節より長く、第四節は最短、第三節の上半部及び第四節は黒褐。頭頂には粗大なる點刻を裝ふ。口吻黄色にして、短かく、漸く前肢の基節に達す。前胸背は中央に黄色條を縱走し、前縁及び後縁に點刻多しと雖も、中央には少な

し。稜狀部に粗大の點刻を具へ、兩側に各一個の黃紋を裝ひ、末端に黃色の一短縦線あり。半翅鞘は點刻を散在し、末端には褐色の一小紋あり。膜質部は灰白、半透明にして、これに斷續せる褐色の三縦線あり。脚は暗黃色、前腿節は甚だしく棍棒狀に膨大し、其下方に大小ある十數個の小齒を列ね、上には褐色の小紋を散在し、中後の兩肢は小さき褐色點を散布し、跗節端は褐色なり。腹面は黒褐、兩側は暗黃、灰色の短毛を密生す。腹背は光澤ある黒褐、兩側は黃色。體長(♂)二分五厘。禾本科植物間に普通なる種類にて、特に牧草間に多し。

分布——北海道、本州。

(240) **ヘリグロメクラガメ** 正千蟲二・二二頁(N. 327) (第十三圖 (30) (♀))

學名 *Adelphocoris autumnalis* Jak.

昆蟲學上の地位、盲椿象科。Thoms, Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 30, ♀, p. 32, N. 327 (1907)

體は黃色にして、少しく綠色を帶ぶ。頭は黃褐、前頭の中央には太き黒褐の一縦線ありて、口吻の基部に達す。觸角は細く、稍や體と同長、第二節最も長く、第一節には黑色の粗毛を具へ、他節には白色の短毛を密生す。口吻は黃色、末端は黒褐にして腹部に達す。前胸は後半部にて、點刻及び横皺を裝ひ、兩側に各一個卵形の黒紋あり。稜狀部は黒褐、中央は凹陥し、判然せざる横皺を裝ふ。半翅鞘内片の内側及び外片の内側にある大紋は黒褐、黃色の短毛を密生し、淺き點刻を散布す。膜質部は暗色、前胸側片には各一個、卵形の褐色紋を具へ、尙ほ中胸側片にも黒褐紋あり。胸片は黒褐、腹面は黑色、兩側に黃色の太き縦線あり。脚は黃色乃至暗黃、腿節には褐紋を散在し、脛節には黑色の刺毛を具へ、跗節端は黒褐。體長(翅端迄)(♂)二分乃至二分五厘。此は本邦最も普通なる種類にして、草間に多し。

分布——北海道、本州、西比利亞。

(241) **シマメクラガメ** 正千蟲二・二三頁(N. 328) (第十三圖 (31) (♀))

學名 *Adelphocoris schmidti* Fieb.

昆蟲學上の地位、盲椿象科。Thoms, Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 31, ♀, p. 33, N. 328 (1907)

體は綠色、又黃綠なるものありて、斑紋にも多少變化あり。頭は小、黃色にして、頭頂に二黒紋を裝ひ、前頭に黑色の二縦線を具へ、其紋の前方にて相合して全體黑色を呈するもの、又其紋の分れて四個なるものあり。觸角は黃色若くは黃褐、第一節の基部、第二節及び第三節の末端並に第四節は黒褐、時に全體黑色なるものあり、第三及び第四節は甚だ細く、第一節は太く、黒毛を密生す。前胸背は前縁に黒き二縁線を具へ、又其前縁の黒色なるものもあり。稜狀部の基部及び兩側の一部は黒し。半翅鞘の内片は中央に太き一暗色線を縦走し、外片の末端は黒く、前縁には細き黒縦線を具へ、又中央に二黒條ありて、内方にあるもの長しと雖も、餘り判然せず。楔狀片は黃色若くは黃綠にして、末端は黑色。膜質部は暗色若くは黒褐、黃綠の脈あり。胸、腹の兩部は黑色にして、胸側片に黃綠紋を裝ふ。脚は黃綠、脛節には黒紋の縦列を具へ、脛節端及び跗節は黒褐。體長(♂)二分八厘(翅端迄)。此は札幌近傍に普通なり。

分布——北海道、本州、西比利亞、歐洲。

(242) **アカヒゲメクラガメ** 正千蟲二・二四頁(N. 329) (第十三圖 (32) (♀))

學名 *Trigonotylus ruficornis* Geoffr.

昆蟲學上の地位、盲椿象科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 32, ♀, p. 24, N. 229 (1907)

體は綠色。頭は稍や圓錐形をなして突出し、中央には一條の縱溝あり。口吻は黃褐にして、末端は黑褐、後肢の基節に達す。觸角は全體赤血色、體より少しく短かし。前胸背の中央に低き一縱隆を具へ、兩側には凹陷部あり。稜狀部の中央に淡色の一縱線を裝ふ。半翅鞘は腹端より遙に長く、斑紋を有せず。胸片及び腹部も共に斑紋を缺く。脚は綠色、跗節及び後肢の脛節端は赤血色、跗節端及び爪は黑褐。體長(♂)一分八厘、(♀)一分(翅端迄)。此は本邦何れの地方にも普通なる種類にして、稻の害蟲なり。又他の禾本科植物にも稀ならず。

分布——北海道、本州、四國、九州、西比利亞、歐洲。

(243) クロマルメクラガメ 正千蟲二。二五頁(N. 230) (第十三圖(33) (♀))

學名 *Orthocephalus fuscus* Jak.

昆蟲學上の地位、盲椿象科。Thous. Ins. Jap., II, pl. XVIII, f. 33, ♀, p. 25, N. 230 (1907)

體は黑色。頭は大にして、三角形を呈し、眼は大にして、突出し、頭頂に二個の赤紋あり。口吻は短かく、中肢の基節に達し、黑色にして、基部に黄色部あり。觸角は黑色なれども、稀に第一節の黃褐なるもありて、體より短かく、灰色毛を密生す。前胸片は其前半に凹凸を具へ、兩側に細き横皺あり。稜狀部は長三角形にして、中央に横皺を裝ふ。半翅鞘は後方に至るに従ひ増大す。膜質部を缺き、内片及び外片は相癒着し、接合線は脈様に隆起し、内片には低き顆粒突起を具へ、胸片及び胸側片には白色毛を粗生す。脚は長く、黑褐若くは黑色にして、腿節端は褐色なり。體長(♂)一分六厘内外。此は一見、甲蟲に似たる種類にして、札幌地方に稀ならず。

分布——北海道、本州、滿洲、西比利亞。

(244) ハラビロサシガメ 正千蟲二。二五頁(N. 231) (第十四圖(1) (♀))

學名 *Reduviolus (Nabis) aperus* F.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科(Reduviidae)。Thous. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 1, ♀, p. 25, N. 231 (1907)

體は黑褐。前頭及び複眼は赤褐。單眼の兩側は黄色。頸は光澤ある黑褐にして、二個の黄紋を裝ふ。口吻は黄色、基部の兩側は黑褐。觸角は黄色、第一節の兩端及び第二節の末端は黑褐、第二節は第一節より長く、第三及び第四の兩節は細長なり。前胸は暗黄、中央には太き黑褐の黄帯あり。稜狀部は光澤ある黑褐、兩側に各一個の黄紋あり。半翅鞘は小にして、短かく、漸く腹部の半に達し、淡灰褐にして、一部の脈は褐色を呈す。膜質部は小さく、脈及び基部は暗色なり。後翅を缺く。胸側片の一部は黄色。脚は暗黄、腿節に黑褐の紋列を裝ひ、末端に近く黑褐の縱條を具へ、脛節は黄色、中央及び兩端は黑褐。腹部は全體黑褐、兩側に黄紋を列ぬ。雌にては甚だ大なれども、雄にては細し。體長(♂)三分五厘。此は札幌近傍に普通なる種類にして、葎樹の葉捲蟲を食し、甚だ有益なり。

分布——北海道、本州、西比利亞、歐洲。

(245) マキバサシガメ 正千蟲二。二六頁(N. 232) (第十四圖(2) (♀))

學名 *Reduviolus (Nabis) ruficornis* Jak.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 2, p. 26; N. 232 (1907)

體は雄にては灰黄、頭の中央に暗色の縦條を具へ、複眼の前後に黒褐紋あり。口吻は太く、後肢の基部に達し、末端は黒褐。觸角は黄色、第四節は細く暗色なり。前胸背は雄にては中央に黒條を縦走し、雌にては前縁に一個、後縁に數個の暗色紋を裝ひ、中央に細き暗褐條を縦走し、又、此等の紋の判然せざるものあり。稜狀部の中央黒く、兩側は黄色。半翅鞘は長くして、腹端を越え、脈の灰色なるものありて、暗色紋を散在す。膜質部は灰色、脈は暗色。後翅は退化して、鱗片の如し。胸片及び胸側片の縦條は黒褐、但し雌にありては胸側片の大半、黒褐なり。脚は黄色にして、腿節には褐色紋及び褐色條を散在す。腹面は黒褐、接合膜は淡黄、中央に黒色の一縦條を具へ、雌にては腹部廣しと雖も、雄にては狭く、腹面の大半は黄色なり。體長(♂)二分二厘。此は牧草間に普通なる種類にして、浮塵子其他の小蟲を捕食す。

分布——北海道、本州、九州、歐洲。

(246) ハリサシガメ 正千蟲二〇二七頁(N. 233) (第十四圖(3)(♀))

學名 *Acanthaspis albovitata* Mats. (*Humeralis* Mats. nec Stål) (英文二四頁參照)

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 3, p. 27; N. 233 (1907)

體は黒色。頭は小、白色の短毛を裝ひ、又黒長毛を粗生す。口吻は太く、前肢の基部に達す。觸角は黒く、第二節中央の暗黄なるものあり、第三節は細長。前胸背の前半に多數の大疣狀突起を具へ、殊に其中央にある三個は大、後半は粗糙にして、横皺を具へ、兩側端には棘狀突起ありて、黄白、又、其の中央に二黄白紋を有するも

のあり。稜狀部の中央に直立せる長棘狀突起ありて、黒毛を密生す。半翅鞘は腹端に達し、黒色にして、前縁基部に薙刀狀の黄白縦條を裝ひ、其基部は少しく赤色を帯び、脈は天鵝絨様の黒色なり。脚は黒く、腿節の末端に二個若くは三個の黄紋を具へ、脛節には二個の黄環を裝ひ、第三跗節の基部は黄色、跗節の下方に赤褐毛を簇生す。體長(♂)四分八厘。

分布——北海道、本州、九州。

(247) モンシロサシガメ 正千蟲二〇二八頁(N. 234) (第十四圖(4)(♀))

學名 *Rhinocoris* (*Harpactor*) *leucospilus* Stål

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 4, p. 28; N. 234 (1907)

體は光澤ある黒色、單眼の前方及び中間に各一個の黄白點あり。觸角は長く、第一節は第二及び第三節を合したるものより長く、第四節は第三節より長く、第一節の中間は赤褐なり。頭下は黄白、口吻は太くして、前肢の基部に達す。前胸背の前縁兩側には一個の低き棘狀突起を出し、中央には深き縦溝を具へ、其兩側に凹凸を具へ、後半の中央は横趨を裝ひ、兩側は少しく突出す。稜狀部の基部に稍や卵形の凹陥あり。半翅鞘は黒色にして、斑紋を缺く。後翅は短かし。前肢基部の上部にある側片縁及び前胸片の中央は黄白。脚は黒色、灰毛を密生す。腹部の接合膜は黒色と黄色の斑をなす。體長四分五厘。此は札幌近傍に最も普通なる種類にして、殊に針葉樹の植物上に多し。

分布——北海道、本州、西比利亞。



(248) クロモンサシガメ 正千蟲二。二八頁(N. 235) (第十四圖(5)(♀))

學名 *Prinos atronaculatus* Stål

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 5, ♀, p. 28, N. 235 (1907)

體は黒色。頭頂には淺き縦溝及び横溝を具へ、灰色の短毛を密生し、其間に長き黒毛を粗布す。口吻は太く、末端は黄色。觸角は黒褐、短毛を密生す。前胸背の前半は稍や球形、中央に一條の縦溝を裝ひ、兩側に各一個の縦隆あり。稜状部の中央には稍や三角形の凹陥を裝ふ。半翅鞘は黒褐、腹端に達するものと達せざるものとありて、内片の基部にある縦紋、外片にあるく字形の縦條及び膜質部にある大なる卵形紋は天鵝絨様の黒色、尙、外片と膜質部との界には淡褐條を有するものあり。前腿節は棍棒狀に膨大し、後腿節は細長、跗節は褐色なり。體長(♂)四分五厘。此は札幌地方にありては落葉下に捕へ得べしと雖も、少なきが如し。

分布——北海道、本州、九州、比律賓。

(249) ヒゲナガサシガメ 正千蟲二。二九頁(N. 236) (第十四圖(6)(♀))

學名 *Endocelus stalinus* Horv.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 16, ♀, p. 29, N. 236 (1907)

體は赤褐。前頭の兩側及び下方は黄色。頸長く、黄褐を呈す。單眼は廣く相隔離せり。觸角は體より遙に長く、黄色にして、第一節の基部は黒褐、第一節は第二及び第三節を合したるものと略ぼ同長。前胸背の前半は黄褐、中央は凹陥し、後半の兩側及び中央に黄色の各一縦條あり。稜状部は黄色、基部は暗色を帶ぶ。半翅鞘は腹

端より一分程突出し、内片は褐色、外片は赤色を呈し、末端に近く黒褐紋を裝ひ、末端は黄色。膜質部は透明、脈は黄色、末端にあるものは黒褐。脚は黄色にして、細長く、跗節は甚だ短かく、二節より成り、前腿節は少しく膨大す。體下は黄色。腹背は黄赤にして、兩側及び尾端に黒褐紋あり。體長(♂)四分五厘。此は樞及び樺に稀ならざる種類にして、殊に九州地方に多し。叩網若くは受網にて捕獲し得べし。

分布——本州、九州。

(250) アシフトサシガメ 正千蟲二。三〇頁(N. 237) (第十四圖(7)(♀))

學名 *Prostemma* (*Poecilus*) *hilgendorfi* Stein

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 7, ♀, p. 30, N. 237 (1907)

體は光澤ある黒色。頭は小さく、頭頂板の末端は黄褐。口吻及び觸角は黄色。前胸背の三分の二は黒色にして、稍や球形、後縁の三分の一は赤黄、兩者横溝によりて界せらる。稜状部の基部二分の一は黒色、末端の二分の一は赤黄。半翅鞘の發達せるものと退化せるものとありて、其の退化せるものは腹部の半に達せず、赤黄にして、黄色の長毛を裝ひ、末端は暗色を呈し、其發達せるものは腹部の半以上に達し、外片の末端及び中央に近く暗褐紋を具へ、其中間は稍や透明なり。膜質部は暗色にして、前縁は白色。脚は黄色、前腿節は太き棍棒狀を呈し、中肢の脛節には棘列あり。後胸下は赤黄、腹部は黒色、腹背の中央は赤褐。體長(♂)二分二厘。此は札幌地方に稀ならざる種類にして、河畔の砂地に住す。

分布——北海道、本州。

(251) アカシマサシガメ 正千蟲二。三〇頁(N. 238) (第十四圖(8) ♀)

學名 *Haematoloecia nigro-rufa* Stål

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 8, ♀, p. 30, N. 238 (1907)

體上は光澤ある朱色、體下及び頭は黒色。口吻は太く赤褐。觸角黒色、第二節長し。前胸背の前半は稍や球形、中央に一條の縦溝を具へ、後半は廣く、中央及び兩側に各一條の縦溝を裝ふ。但し、中央にあるものは後縁に達し、此等の縦溝及び前後兩半を界する横溝は黒褐なり。稜狀部は黒褐、末端に下向せる二個の棘狀突起あり。半翅鞘の内片及び外片の基部(前縁は除き)並に末端は暗色。膜質部は黒色。脚は黒褐、轉節は少しく淡色、前腿節は棍棒狀に膨大す。腹背は暗褐、兩側は朱色にして、各節の後縁は暗色、腹面は黒色、接合膜及び各節の後縁は朱色なり。體長(♂)四分内外。此は東京地方に稀ならず。

分布——本州、九州。

(252) フタホシガイタ 正千蟲二。三一頁(N. 239) (第十四圖(9) ♀)

學名 *Pyrochoris tibialis* Stål

昆蟲學上の地位、星象科(Pyrochoridae)。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 9, ♀, p. 31, N. 239 (1907)

體上は暗褐、稀に赤褐なるものあり。體下は黒色、頭は黒く、三角形をなして突出す。頭頂に黄紋を裝ひ、頭頂板の中央に黄色の一縦條を走らし、小形の點刻あり。單眼を缺く。觸角は黒く、第一及び第二の末端は黄色、第三節は第二節より遙に短かし。口吻は黒く、第一節の基部は黄色。前胸背は前縁に近く兩側に各一黒紋を裝

ひ、後半にある點刻は大なり。稜狀部は中央に黄色の一縦條を走らす。半翅鞘は腹端に達せず、外片の中央に一黒紋を供へ、時に其の紋の判然せざるものあり。膜質部は灰色にして、太き網狀脈を有す。脚の基節を被蔽せる側片及び後胸側片の後縁は白色、脚は黒色、腿節の末端及び脛節の外側は黄白。腹部の接合膜は黄色、第六節の後縁及び交尾板(Laminae genitalae)の一部は黄色。此は札幌近傍に最も普通なる種類にして、晩秋倒木若くは石下に多し。

分布——北海道、本州。

(253) ホソサシガメ 正千蟲二。三二頁(N. 240) (第十四圖(10) ♂)

學名 *Pygolampis cognatus* Horv.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 10, ♂, p. 32, N. 240 (1907)

體は灰褐にして細長く、後方に至りて廣まり、更に尾端に至りて細し。但し雌は細長にして、灰色の短毛を密生す。頭は細長く、前頭の中央に暗色の叉狀線を走らす。複眼は頭の中央に位し、後半の兩側及び後縁には數多の栓狀突起あり。觸角は體と同色、第一節は太く、第二節は最長。口吻は甚だ太く、末端は急に尖小す。前胸背には四個の縦溝を具へ、中央にあるもの長く、後縁の兩側は瘤狀に隆起す。半翅鞘は腹端に達せず、内片に脈を缺き、外片の中央には判然せる五角形の胞室あり。膜質部には長き三胞室を具へ、横皺多く、兩胸の側片に暗色の各一縦條あり。脚は暗黄、基節の大部は黒褐、前腿節は少しく棍棒狀に膨大し、後腿節は長く、末端は少しく暗色を帯び、前中脛節の兩端及び中央に近く暗色環あり。腹面は黒色、兩側及び中央に散在せる縦條は黄色、中央を二分せる縦溝は暗黄。體長(♂)四分五厘、(♀)五分。此は札幌地方に産すれども、稀なり。

分布——北海道、浦鹽。

(254) ヒロゲンバイ 正千蟲二、三二頁(N. 241) (第十四圖(11)♀)

學名 *Phyllotocheila ampliata* Fieb.

昆蟲學上の地位、軍配蟲科(Tingitidae)。Thous, Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 11, ♀, p. 32, N. 241 (1907)

體は灰黄、楕圓形。頭は黒色、三條の縦隆起、口吻、口吻鞘並に觸角は黄色。口吻の末端は褐色、第一及び第二觸角節は短かく、第三節は細長、第四節は黒色にして、稍や紡錘形をなす。前胸背は廣く、兩側にある葉狀突起は半卵形にして、斜に上向し、之れに約五列の網目を具へ、前縁の鞍狀突起は低く、其兩側に三列の網目あり。前胸背の中央は暗色、三條の縦隆起は判然す。半翅鞘は前胸背より廣く、前縁にある葉狀の附屬物は四列若くは五列の細網目を裝ひ、其一部は黒褐なり。體下は黒褐、各腹面節の後縁は赤褐。脚は黄色、跗節端及び爪は褐色。體長(♂)一分五厘。此は樹下に住すれども、稀なり。

分布——本州(東京)、西比利亞、歐洲。

(255) ナシグンバイ 正千蟲二、三三頁(N. 242) (第十四圖(12)♀)

(ナンバイムシ)

學名 *Stephanatis ambigua* Horv. (*Tingis pyriformis* Scott)

昆蟲學上の地位、軍配蟲科。Thous, Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 12, ♀, p. 33, N. 242 (1907)

體は黒色。頭は前胸背の突起に蔽はれて判然せず。觸角は黄色、第三節は甚だ長く、第四節は少しく棍棒狀を

なす。口吻黄色、前肢の基節外に達す。前胸背は黒褐、前縁の中央にある突起は側扁、烏帽子狀にして、黄白、兩側の葉狀突起は稍や半圓形にして、黄白、半透明、中央に近く暗色紋を具へ、斜に上向し、之れに三列若くは四列の網目を裝ふ。但し其の内側にある網目は小、後縁の半には黄白の三縦隆ありて、後方に延長せる後縁は稜狀部を蔽ひ、末端は黄白なり。半翅鞘は透明、翅を疊む時はX字形の黒褐紋を現はす。脚は淡黄なり。體長(翅端迄)(♂)一分内外。此は本邦有名なる梨の害蟲にして、其液汁を吸収す。其害の甚だしき時はその木は枯死す。分布——北海道、本州、九州。

(256) トビマダラメラケラガメ 正千蟲二、三四頁(N. 243) (第十四圖(13)♀)

學名 *Phytocoris howickyi* Fieb.

昆蟲學上の地位、盲椿象科。Thous, Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 13, ♀, p. 34, N. 243 (1907)

體は赤褐、黄色の斑紋あり。頭は黄色にして、赤褐の縦紋を散在し、前頭は少しく濃色なり。觸角は體より長く、第一節に黄紋を散在す。口吻は長く、腹部に達し、末端は黒褐。前胸背は前半に於て横皺を具へ、後半は廣くして、稍や滑澤なり。稜狀部は黄色、基部及び兩側の二縦線は赤褐。半翅鞘は雄にありては尾端外に達すれども、雌にありては尾端に達せず、淡色、外片は中央に黄色線を縦走し、接合線は濃色、外片の前縁は淡色、黄色の圓紋を散在し、楔狀片は黄色、半透明にして、末端は赤褐。膜質部は灰色半透明、暗色の稜様紋を裝ひ、脈は赤血色なり。腹部の兩側は黄色、接合膜は赤褐。脚は細長く、殊に後肢は發達し、後腿節の基部は黄色、其末端の三分の二は赤褐にして、黄紋を散在す。脛節及び跗節は黄色、脛節の基部は濃色なり。體長(♂)二分二厘(翅端迄)♀二分。此は札幌地方に普通なり。

分布——北海道、西比利亞、歐洲。

(257) アヲメクラガメ 正千蟲二.三五頁(N. 244) (第十四圖(14)) (♀)

學名 *Lygus lucorum* Mey.

昆蟲學上の地位、盲椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 4, ♀, p. 35, N. 244 (1907)

體は暗綠色。頭は短小にして、點刻を缺く。觸角の前方に各一個乃至二個の黒縱條あり。口吻は後肢の基節に達し、末端は黒褐。觸角は暗褐にして、第一節及び第二節は兩端を除き黄色。前胸背は點刻を散在すれども、前縁及び後縁に於ては稀なり。稜狀部は黄色、中央に黒褐紋を裝ひ、横皺多し。半翅鞘は五厘程尾端外に突出し、外片の末端に近く二三個の褐色縱條を具へ、楔狀片は大にして半透明、末端は少しく暗色、膜質部は半透明、脈は淡色なり。體下は黄色、腹面の中央及び兩側には太き黒褐の縱條あり。脚は黄色、腿節の末端に褐色の三輪環あり。體長(♂♀) (翅端迄)二分。此は牧草間に普通なる種類にして、時に稻を害することあり。

分布——北海道、本州、西比利亞、歐洲。

(258) マキバメクラガメ 正千蟲二.三五頁(N. 245) (第十四圖(15)) (♀)

學名 *Lygus kalmi* L.

昆蟲學上の地位、盲椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 15, ♀, p. 35, N. 245 (1907)

體は淡綠色。頭は黄色、頭頂板の大半は黒色、稀に全體黄色なるものあり。觸角は黄色にして、長く、尾端に

達し、末端の二節は暗色。前胸背の前半は黄色、後半は淡緑、微小の點刻及び横皺あれども、一見、滑澤なるが如し。稜狀部は膨起し、基部は凹陷し、細き横皺あり。半翅鞘には小點刻及び細皺を具へ、楔狀片は黄色、末端は黒褐。膜質部は灰色、半透明、外縁に近く暗色紋あり。體下及び脚は帶縁黄にして、腿節の末端に近く暗色の一輪環を具へ、脛節は淡緑、黒刺を裝ひ、跗節端は黒褐。體長(翅端迄) (♂♀)二分内外。此は禾本科植物に普通なる種類にして、從て稻の害蟲なり。

分布——北海道、本州、西比利亞、歐洲。

(259) トサカガンバイ 正千蟲二.三六頁(N. 246) (第十四圖(16)) (♀)

學名 *Stephanitis* (*Tingis*) *globulifera* Mats. (英文二四頁参照)

昆蟲學上の地位、軍配蟲科 (*Tingitidae*)。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 16, ♀, p. 36, N. 246 (1905)

體は黒褐。頭は前胸の突起に蔽はれて判然せず、頭頂板は赤褐。觸角は黄色にして、長し。口吻は黄色、末端は黒褐。前胸背の前縁に於ける瘤狀突起は大にして、稍や球形を呈し、其中央に更に縦隆を具へ、其兩側に五、六列の網目を裝ひ、其後方にある隆起は前方にあるものより低く、黄色にして稍や叉狀を呈し、之れに二列の網目あり、兩側にある葉狀の突起は斜に上向し、之れに二個若くは三個の黒網目を有す。半翅鞘は腹部より約二倍長く、透明にして、翅を疊む時は太きX形の黒褐紋を表はし、内片は紡錘狀に膨起し、前縁の中央に於ける透明なる部分には判然せる同大三列の網目を供へ、其内方にある前縁の黒色部は三列の小網目を有す。脚は細長にして、黄色。體長(翅端迄) (♂♀)一分四厘。此は九州地方に普通なり。

分布——本州、九州。

(260) ホソグンバイ 正千蟲二。三七頁(N. 247) (第十四圖(17)(♀))

學名 *Phyllonotoclelia debilis* Uhl.

昆蟲學上の地位、軍配蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 17, ♀, p. 37, N. 247 (1907)

體は黒色。頭は小。觸角は黄色にして長く、第一及び第二節甚だ短かく、第三節は第一及び第二節を合したるものより約五倍長く、第四節少しく濃色にして、太く、稍や紡錘狀を呈す。前胸背は前縁の中央に黄色の鞍狀隆起を具へ、兩側に黄色の葉狀片を裝ひ、之れに二列乃至三列の網目ありて、中央には一縱隆を具へ、後方及び中央の兩側は暗黄なり。半翅鞘は淡黄にして、兩翅を合したるときは、X様の暗色紋を表はし、前縁には三列、中央には四列の網目あり。脚は黄色、跗節端は暗色なり。體長一分(翅端迄)。此は本邦到る所に普通なる種類なり。

分布——北海道、本州、九州。

(261) トコジラシ 正千蟲二。三七頁(N. 248) (第十四圖(18)(♀))

(南京蟲)

學名 *Cimex (Acanthia) lectularius* L.

昆蟲學上の地位、床蝨科 (Cimicidae)。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 18, ♀, p. 37, N. 248 (1907)

體は黄褐(幼時は黄白色)。頭は短かく、頭頂板は稍や四角形をなして前方に突出し、點刻を散在す。觸角は第一腹節に達し、第一及び第二節は太く、第三及び第四節は細し。口吻は黄色、中肢の基部に達す。前胸背は稜狀部を合すれば心臟形を呈し、兩側は弓狀に膨起し、前縁は半圓形に列られ、兩側には粗大の點刻多く、中央にて

は少なし。稜狀部は短かき三角形を呈し、點刻少なし。半翅鞘は甚だ短かく、漸く第一腹節を蔽ふに過ぎず、粗大の點刻多く、兩側に黄色の粗毛を簇生す。腹部は卵形を呈し、腹背は横皺を密布し、各節の後縁は黄色。體長(♂)一分八厘。此は支那、歐米にありては、有名な室内の害蟲にして、甚だ普通なれども、本邦にては未だ餘り増殖せず。外國船の輻輳する所には何れも普通なり。

分布——世界共通。

(262) ミツギハガメ(ムシ) 正千蟲二。三八頁(N. 240) (第十四圖(19)(♀))

學名 *Salda recticollis* How.

昆蟲學上の地位、水椿象科 (Salidae)。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 19, ♀, p. 38, N. 240 (1907)

體は黒褐、卵形。頭は小なれども、複眼は甚だ大。頭頂板及び其後方にある横隆起は黄色。觸角は短かく、第一節及び第二節の大半は黄色。判然せる短かき頭を有す。前胸背の前半は横楕圓形にして、中央に同形の凹陷を具へ、後縁の兩側は瘤狀に膨大す。稜狀部は膨起し、細微の横皺あり。半翅鞘は黒色にして、少しく藍色を帯びたる白紋を散在す、但し外片の末端にある二紋は藍色を帯びず。膜質部は暗色、脈は黒色、四個の胞室ありて、黒色を呈し、其末端は白色なり。脚は黄色、腿節の下方及び脛節の兩端は黒褐。腹面は黒褐なれども、各節の後縁は細く黄色を呈し、最後のものは廣し。體長(♂)一分二厘、(♀)一分五厘(前翅迄)。此は札幌近傍に普通なる種類にして、沼、溝、池沼の水邊に多し。

分布——北海道、本州。

(263) ハヒイロゲンバイ 正千蟲二。三九頁(N. 250) (第十四圖(20) ♀)

學名 *Thomis lasiocera* Horv. (*grisea* Mats.)

昆蟲學上の地位、軍配蟲科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 20, ♀, p. 39, N. 250 (1907)

體は灰白、長楕圓形、白色の短毛を密生す。頭は黒褐、三縱隆、觸角、口吻及び口吻鞘は黄色。觸角は短大、短毛を密生し、第三節は第一及び第二節を合したるものよりも少しく長く、第四節は小にして、短毛少なし。前胸背には黄色の三縱隆起を具へ、前縁にある鞘狀附屬物は低くして、黄色を呈し、兩側にある葉狀附屬物には二列の網目あり。半翅鞘には中央に褐色の一斜條を横走す。前縁の葉狀附屬物は二列若くは三列の網目を供へ、其の一部は褐色を呈す。體下は黒褐。脚は黄色、白色の短毛を具へ、跗節端及び爪は褐色。體長(♂)一分一厘。これは札幌地方に産すれども、稀なり。

分布——北海道、西比利亞、歐洲。

(264) ヒラタガメ(ムシ) 正千蟲二。三九頁(N. 251) (第十四圖(21) ♀)

學名 *Arndus consuetanus* Horv.

昆蟲學上の地位、扁椿象科(Arndidae)。Thoms. Ins. Jap., II, pl. 251, f. 21, ♀, p. 39, N. 251 (1907)

體は黒色。頭は粗糙にして、凹凸を具へ、複眼前にある突起は細き三角形をなして尖り、頭頂板は長大にして、觸角間に突出す。觸角は、暗褐にして太く、第一節は黄褐、稍や球形を呈し、第二節は最長。口吻は黄色にして、短かく、末端は黒褐。前胸背は黒色、四條の縱隆を具へ、前縁の兩側は白色、半透明。稜狀部は長く、兩

側は隆起し、それに小齒を列ね、内部は凹陥し、横皺多し。半翅鞘は灰白、前縁の基部は半透明、稍や半圓形をなして突出し、其縁には小齒を列ね、外片の後半は少しく濃色にして、其脈は褐色なり。膜質部は翅端に達せず、暗色にして、基部は淡色、半透明。腹面は黄色、尾節は白色、其周圍は黒色。體長(♂)一分八厘(♀)二分。此は札幌地方に多く、ミヅキの枯木に普通なる種類なり。

分布——北海道(札幌)。

(265) コヒラタガメ(ムシ) 正千蟲二。四〇頁(N. 252) (第十四圖(22) ♀)

學名 *Arndus lugubris* Fall.

昆蟲學上の地位、扁椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 22, ♀, p. 40, 252 (1907)

體は黒褐。頭頂はU形に凹陥し、頭頂板は長くして、頭と稍や同長。觸角は細長、第二節は第三及び第四節を合したるものより長し、口吻は黒色。前胸背の四縱條は稍や端直、粗糙の横皺多し。稜狀部は前種と略ぼ同様なれども、少しく長し。半翅鞘は灰色、脈は黒褐、前縁に一系列の網目あり。膜質部は暗灰色、稍や網狀をなせる脈の周圍は灰白、半透明なり。體下及び脚は體上と同色。前胸の側片及び腹面の後方は黄褐なり。體長(♂)一分五厘、(♀)一分八厘。此は早春、薪に普通なる種類なり。

分布——北海道、本州、西比利亞、歐洲。

(266) オホヒラタガメ(ムシ) 正千蟲二。四一頁(N. 253) (第十四圖(23) ♀)

學名 *Brachynuchus scabrosus* Scott

昆蟲學上の地位、扁椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 23, ♀, p. 41, N. 253 (1907)

體は黒褐。頭は小さく、明瞭なる黄色の頸を供へ、頭頂板は第二觸角節に達す。觸角は各節略は同長、第四節は短かく、稍や紡錘状を呈す。前胸背には前縁に近く大なる瘤状の四突起ありて、一列に横置せられ、中央には横溝を具へ、其内に更に粗なる横皺を裝ふ。稜状部の中央に一縦隆ありて、其兩側に横皺多し。半翅鞘は短かく、翅を合するときは稜状部の下方に半圓形の凹部を生ず。膜質部は細く、灰白にして、暗色の分支せる不定脈あり。脚には顆粒突起多く、腿節の末端及び脛節の兩端は黄色。腹部は長楕圓形、接合膜は各節の後縁に於て黄色なり。體長♂。二分四厘、♀。三分六厘。此は朽木の皮下に住すれども、餘り多からず。

分布——北海道、本州。

(267) **キイロサシガメ** 正千蟲二。四一頁(N. 254) (第十四圖(24)♀)

學名 *Sirthenia flavipes* Stål var. *apicalis* Sign.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap., II, pl. XIX, f. 24, ♀, p. 41, N. 254 (1907)

體は黄色。頭は長く、細き圓錐形をなす。複眼は頭の後方に位し、前頭の兩側には太き暗褐條あり。單眼の周圍及び頭の兩側は黒色。觸角は短かく、第二節は褐色にして、最長、第三節の基部に褐色環あり。口吻は甚だ太く、第三節は細し。前胸背の前三分の二は光澤ある黄色、四條の縦溝ありて、兩側にあるものは外方に弓曲し、内方にあるものは漸く並行し、後方にて相合し、後方の三分の一は光澤ある黒褐にして、廣く、兩側に廣き縦溝ありて、之れに横皺を裝ふ。稜状部は黒色、基部は黄色。半翅鞘は黒色、内片及び外片の基部並に中央の内側は

黄色。膜質部の末端は黄色、半透明なり。胸下は黒色。脚は黄色、前基節は甚だしく發達し、稍や三稜状を呈し、前腿節は太き棍棒状をなす。腹面は黒色、基部中央の縦條及び接合膜(各節後縁の褐色紋を除き)は黄色。體長♂。五分五厘、♀。六分五厘。

分布——本州、九州、支那。

(268) **イトガメ**(ムシ) 新千蟲一。一三九頁(N. 199) (第十五圖(1)♀)

學名 *Yemma exilis* Horv.

昆蟲學上の地位、絲椿象科(Berytidae)。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 1, ♀, p. 139, N. 199 (1913)

體は淡黄褐。觸角は體より長く、第四節は短かくして、紡錘状を呈し、暗色にして、末端は黄色。頭長くして胸部と稍や同長、兩側に黒色の各一條を縦走す。單眼の前方は緊縮せり。前胸背は長く、前縁の半部に點刻少なしと雖も、後半部には粗大の點刻多く、後半は黄褐、其中央に褐色の一縦條を具へ、後縁の兩側に二褐色紋あり。稜状部に直立せる針状の長突起あり。前翅は短かくして尾端に達せず。腹背の中央に褐色の一縦條を裝ふ。脚は頗る細く、小褐紋を散在し、跗節は暗色。體長二分——二分五厘。此は播州地方に稀ならず。

分布——本州、九州。

(269) **コマダラガメ**(ムシ) 新千蟲一。一四〇頁(N. 200) (第十五圖(2)♀)

學名 *Lygaeus luscus* F.

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、長椿象科 (Lygaeidae)。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 2, ♀, p. 140, N. 200 (1913)  
 體は黒色、頭は赤色、前頭の一紋、後頭之二紋は黒色。前胸背の兩側、中央の一縦條(前縁に達せず)、稜狀部の末端は赤色(前縁の外半、黒色なるものあり)。外片の中央紋及び膜質部は黒色。各胸側の一紋及び腹節の後縁は廣く赤色。脚は黒色、脛節の末端及び跗節の下面には黄褐の短毛多し。體長(♂)三分五厘——四分。此は臺灣に稀ならず。

分布——本州、九州、沖繩、臺灣、支那、印度。

(270) **ベニナガガメ** (ムシ) 新千蟲一。一四〇頁(N. 201) (第十五圖 (3) (♂))

學名 *Antiloclus coqueberti* F.

昆蟲學上の地位、星椿象科 (Pyrochloridae)。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 3, ♂, p. 140, N. 201 (1913)  
 體は朱色。觸角は黒褐、基部は赤褐。頭に點刻を缺く。前胸背の前縁にある三角形の部分に粗大の點刻多く、其後部にある瓢箪形の部分に點刻を缺き、更に其後方にある半部は其中央にて大形の點刻を粗布す。稜狀部の基部にある點刻は暗色。半翅鞘に小點刻を粗布し、接合部に暗色の點刻を並列す。膜質部は黒色、基部に灰白の小部分あり。口吻、體下及び脚は赤色。脛節及び跗節は暗褐。各腹部の後縁は凹陥し、其部分は黒色。體長(♂)五分——五分五厘。此は臺灣に産すれども、餘り多からず。

分布——臺灣(臺南、恒春)。

(271) **キベリナガガメ** (ムシ) 新千蟲一。一四一頁(N. 202) (第十五圖 (4) (♀))

學名 *Lygaeus flavomarginatus* Mats. (英文二五頁參照)

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 4, ♀, p. 141, N. 202 (1913)  
 體は黒色、點刻多し。頭、前胸の兩側及び半翅鞘の前縁は淡黄褐。雄にありては前胸背は全部、淡黄褐。觸角、口吻及び脚は暗褐、頭下及び尾節は黄色、胸下及び腹面は何れも兩側を除き褐色。膜質部は黒色、長形にして、遙に尾端を越ゆ。稜狀部は小にして、兩側は隆起し、中央に一縦隆あり。體長(♂)四分、(♀)七分。此は沖繩にて黒岩恒氏の採集せるものなり。

分布——沖繩(那覇)。

(272) **ナガメダカガイタ** 新千蟲一。一四二頁(N. 203) (第十五圖 (5) (♀))

學名 *Lygaeosoma flavipes* Mats. (英文二五頁參照)

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 5, ♀, p. 142, N. 203 (1913)  
 體は暗黄色、點刻を粗布す、灰白の短毛多し。觸角及び脚は黄色。前者の第四節は暗色。頭は黒色。前胸背の前縁は褐色、前縁に近き兩側紋及び後縁角は暗色。稜狀部は暗褐、末端は黄褐。半翅鞘の前縁は黄色にして、之れに點刻を缺き、末端及び膜質部は灰白、後者は半透明、中央に暗色の一縦條あり。體下は暗褐、兩側縁は黄色。跗節の末端は暗色。體長(♂)一分二厘内外。此は京都地方に稀ならず。鈴木元治郎氏の採集せるものなり。

分布——本州(京都)。

(273) **ヒメメダカガイタ** 新千蟲一。一四三頁(N. 204) (第十五圖 (6) (♀))



學名 *Nysius plebejus* Dist.

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIV, f. 6, ♀, p. 143, N. 204 (1913)

體は暗褐、粗大の點刻多し。觸角及び脚は黃色。前者の第一及び第二節の末端は少しく暗色、第一節には暗色點を散在す。頭の中央に赤褐の一縦條あり。前胸背前縁の三紋、中央の二紋及び兩側紋は黃色。稜狀部末端の下部は淡黃、末端紋及び外縁の中央紋は暗色。膜質部は灰白、半透明、長形にして、遂に尾端を越え、尾節の二白紋を透視し得べし。體下は暗色。中後兩胸側片の後縁は黃白。腹面の後方に黃白紋を散在す。跗節に黑點を散在し、第一跗節の末端及び第三跗節は褐色。體長(♂)一分三厘内外。此は播州地方に普通なり。

分布——本州(播州高砂)。

(274) オホコバネガイタ 新千蟲一。一四七頁(N. 205) (第十五圖(7)(♀))

學名 *Macrops major* Mats. (英文二六頁參照)

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIV, f. 7, ♀, p. 148, N. 205 (1913)

體は光澤ある黒色。頭は小にして、前頭の兩側に點刻を密布す。觸角の第三節は基部を除き黃褐。前胸背は平たく、中央に一縦溝を具へ、前縁、兩側及び後縁に點刻を密布すれども、中央は滑澤なり。稜狀部に點刻多く、中央に一縦隆あり。前翅は短かく、遂に尾端に達せず、灰白にして縦脈は暗褐、膜質部の中央に暗色の一大紋あり。體下及び脚は黒色。跗節は肥大し、其下方に鋭齒を列ね、殊に前跗節は甚だしく膨大し、跗節は褐色。體長(♀)三分三厘。此は臺灣達邦社にて捕獲せる珍種なり。

分布——臺灣(達邦社)。

(275) ハリマガイタ 新千蟲一。一四四頁(N. 206) (第十五圖(8)(♀))

學名 *Pamera harimaensis* Mats. (英文二六頁參照)

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIV, f. 8, ♀, p. 145, N. 206 (1913)

體は黒色、灰白の短毛多く、黃褐の長毛を粗生す。觸角の末端は赤褐。頭には點刻を密布す。前胸背の前半は稍や球形にして、微小の縮刻多く、中央は甚だしく緊縮し、後方の小半に粗大の點刻多し。稜狀部には點刻少なく、中央に近く弓狀の横隆起ありて、更に其中央より後縁に一縦隆を送る。半翅鞘に粗大の點刻を縦列し、翅底に近き前縁の半部、末端に近き半月形の一紋及び外縁の中央に近き一小紋は灰白。膜質部は黒色にして、少しく腹端を越え、末端及び前縁の基部にある一小紋は灰白。口吻、體下及び脚は黒色。各、口吻節の基部は赤褐。腹面に點刻を缺き、灰白の短毛を密生し、爲めに天鵞絨様の光澤を放つ。胸側に點刻多し。前跗節は甚だしく膨大し、其下面に二列の小齒ありて、其内、三個は大、同節の末端及び脛節の基部は黃白、跗節は褐色にして、各節の基部は淡色なり。體長(♀)二分五厘。此は本州に産すれども、餘り多からざるが如し。

分布——本州(京都、播州)。

(276) ヨツボシガイタ 新千蟲一。一四六頁(N. 207) (第十五圖(9)(♀))

學名 *Pamera pallicornis* Dall.

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIV, f. 9, ♀, p. 146, N. 207 (1913)

體は黒色。觸角は淡黃褐、第一節の一縦條、第三節の末端及び第四節の基部並に末端の半部は暗灰色。頭に小

點刻を密布し、灰白の短毛多し。前胸背の前半に點刻少なく、後半には多し、前縁は細く赤褐、後縁に四個の黄白紋ありて、横列す。稜状部の中央に短かき弓状の横隆ありて、其中央より後縁に一縦隆を出す事前種と異ならず、末端は黄白、點刻は小にして、密なり。半翅鞘は黄白、點刻は暗色、翅底に近き一紋、前縁の末端に近き一紋、末端の一紋並に後縁は黒色、但し後縁角に二白紋を装ふ。膜質部は暗灰色、前縁の基部に近く暗色の一紋あり。口吻は黄褐、基節及び末端の小部は黒色。體下は黒色、天鵞絨様の灰白毛多し。脚は黄色、前腿節は末端を除き、中後の兩腿節は各基半部を除き黒色、腿節は少しく肥大し、二列の小齒ありて、其内二個は大、脛節及び跗節の末端は褐色。體長二分二厘。此は本州岐阜地方には稀ならず。

分布——本州、九州、八丈島、沖繩。

(277) モンクログイタ 新千蟲一。一四七頁(N. 205) (第十五圖(10)(♀))

學名 *Pamern nietheri* Dohr.

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIV, f. 10, ♀, p. 147, N. 208 (1913)

體は黒色、灰色の短毛及び黄褐の長毛多し。觸角第四節の基節に近き一部は黄白。頭頂に二縦溝を具へ、前方には點刻多し。前胸背の前半には點刻少なく、後半には點刻多く、後半の中央に黄褐の一紋あり。稜状部に點刻少なく、末端に一條の縦隆を装ふ。半翅鞘は灰白、内片中央の一紋及び末端は黒色。膜質部は暗色、外半は灰白にして、其周圍に灰白紋を散在す。口吻は暗褐、第二節は黄色、第三節は黄褐。脚は黒色。轉節及び腿節の基部は黄色、脛節及び跗節は黄褐、但し後脛節は少しく濃色。體下は暗色、腹側に黄白紋あり。體長四分。此は沖繩地方に稀ならず。

分布——本州、九州、八丈島、沖繩、臺灣、南方支那、印度。

(278) シロホシガイタ 新千蟲一。一四七頁(N. 209) (第十五圖(11)(♀))

學名 *Aphaenus albomaculatus* Scott

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIV, f. 11, ♀, p. 147, N. 209 (1913)

體は黒色、灰白の短毛多し。觸角は暗褐、第二節の基部は黄褐、頭には小點刻多し。前胸背の兩側は黄白、前半及び兩側に點刻を缺き、後半に點刻多く、黄白色の部分にある點刻は暗色、後縁の中央に黄白の一縦條あり。稜状部に點刻を粗布し、中央に近き二小紋及び末端は黄白。半翅鞘は黄白、暗色の點刻多く、末端に近き一大紋及び末端は黒色、此二紋の中間にある點刻は少なく、且つ、灰色なるを以て黄紋を有するが如し。膜質部は尾端に達せず。灰白にして、灰色の小紋を散在す。口吻、體下及び脚は黒色、脚基節の外側にある一紋及び後胸側にある一横帯は黄白、轉腿兩節の基部、中後兩脛節及び跗節は黄褐、但し脛節の末端及び第二跗節の末端は暗褐。體長(♂)二分五厘内外。此は本邦に餘り多からず。

分布——本州。

(279) コウシュンナガガメ(ムシ) 新千蟲一。一四八頁(N. 210) (第十五圖(12)(♂))

學名 *Lygaeus koshunensis* Mats. (英文二七頁参照)

昆蟲學上の地位、長椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XIV, f. 12, ♂, p. 149, N. 210 (1913)

體は朱色、灰白の短毛多し。觸角は黒褐、基部は少しく黄褐。前頭の末端は少しく暗色を帯ぶ、前胸背の兩側及び前縁は隆起し、中央には前後兩縁に達せざる一縦隆ありて、其兩側は溝状をなして凹陥し、點刻多し。稜状部の兩側は少しく暗色を帯び、中央は凹陥し、末端に近く少しく隆起せる部分あり。半翅鞘は朱色、内片(Corium)及び外片(Corium)の内片に接する大部は暗褐。膜質部は暗色にして、遂に尾端を越ゆ。口吻は黒褐、後轉節に達す。體下は朱色、胸面及び腹面の中央は少しく暗色を帯ぶ。脚は暗褐、基部は朱色。雄の尾節に二個の突起を具へ、それに灰白の長毛多し。體長四分五厘。此は臺灣恒春地方に稀ならず。

分布——臺灣(恒春)。

(280) **アカギホシガメ(ムシ)** 新千蟲一。一四九頁(N. 211) (第十五圖(13) (♀))

學名 *Physopelta gutta* Burm.

昆蟲學上の地位、星椿象科。Thous, Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 13, ♀, p. 149, N. 211 (1913)

體は褐色。觸角は黒色、第三節の基部黄白、末端は灰褐。頭頂の一縦條は褐色。前胸背の周縁は淡黄褐、後縁の半部には點刻多し。稜状部は暗褐にして、天鵞絨様の光澤を帯ぶ。半翅鞘は黄褐、内片は褐色、中央の一圓紋及び末端は黒色。膜質部は黒色、末端は灰白、基部は黄褐にして、之れに一黒紋を裝ふ。腹背の兩側は黄赤。口吻、胸下及び脚褐色。基節、轉節及び腿節の下面は淡黄褐。腹面は淡黄褐、各節の後縁は細く暗褐。體長(♂)三分五厘——六分。此はアカギに普通なる種類にして、新芽の液汁を吸収す。

分布——本州、九州、沖縄、臺灣、支那、印度。

(281) **アカホシガメ(ムシ)** 新千蟲一。一五〇頁(N. 212) (第十五圖(14) (♀))

學名 *Dysdercus cingulatus* F.

昆蟲學上の地位、星椿象科。Thous, Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 14, ♀, p. 150, N. 212 (1913)

體は朱色。觸角は黒色、第一節の基部は赤色。前胸背の前縁は黄白、之れに點刻を粗布し、其後方に一褐色紋あり。稜状部は黒褐。半翅鞘の中央に黒色の一圓紋あり(稀に此紋を缺くものあり)。膜質部は黒色、外縁は細く灰白。口吻及び體下は朱色。胸腹各節の接合部は白色。脚は暗褐、基節、轉節及び腿節の基部は赤色。體長四分五厘——五分。此は綿の害蟲にして、臺灣に普通なり。これは廣く東洋に分布せる有名の害蟲なり。

分布——沖縄、臺灣、支那、比律賓、瓜哇、馬來、印度。

(282) **シロジュジガメ(ムシ)** 新千蟲一。一五〇頁(N. 213) (第十五圖(15) (♀))

學名 *Dysdercus crucifer* Mats. (英文二八頁参照)

昆蟲學上の地位、星椿象科。Thous, Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 15, ♀, p. 151, N. 213 (1913)

前種に酷似すれども、翅を疊む時はX字形の黄白紋を有するを以て容易に區別する事を得べし。體は朱色。觸角、前胸背、前縁の一枚、稜状部、半翅鞘の内片、く字形黄白紋の内角にある一枚、膜質部、口吻、脚、胸面及び腹面(尾端の二節を除き)は暗褐乃至黒褐。觸角の基部は赤色。前胸背の前縁及び胸腹の各接合部は黄白。體長四分——五分五厘。此は沖縄及び臺灣地方に稀ならず。

分布——沖縄、臺灣、シンガポール。

(283) エグリゲンバイ(ムシ) 新千蟲一。一五一頁(N. 214) (第十五圖(16)(♀))

學名 *Monanthia conchata* Horv.

昆蟲學上の地位、軍配蝨科 (Tingitidae)。Thoms, Ins. Jap. Add. I, pl. XIV, f. 16, ♀, p. 151, N. 214 (1913)

體は暗灰色。頭、觸角、前胸背及び脚は黄色。第四觸角節の末端は黄褐、觸角の前方及び複眼は黑色。前胸背の兩側突起は袋状をなして甚だしく膨大し、小網状の斑紋の外、更に大なる暗褐の網状紋を具へ、各袋状隆起の後縁に楕圓形の深き凹陥あり。前胸背の縦隆は黄色。半翅鞘の中央に近く二突起を具へ、前縁は稍や無色透明、二列の大胞室を裝ひ、其内側には五列の小胞室を具へ、末端及び後縁は暗色、四列の胞室あり。體下及び跗節端は暗色。體長(♂)一分五厘内外。此は札幌地方に稀ならず。

分布——北海道、本州。

(284) イグチヒラタガメ(ムシ) 新千蟲一。一五二頁(N. 215) (第十五圖(17)(♀))

學名 *Arndus iguchii* Mats. (英文二八頁参照)

昆蟲學上の地位、扁椿象科。Thoms, Ins. Jap. Add. I, pl. XIV, f. 17, ♀, p. 152, N. 215 (1913)

體は黒褐、點刻及び小顆粒を密布す。觸角は黑色、第四節の末端に少しく灰白の部分あり。前胸背兩側の突起は葉状をなして圓く、黄色の小齒を連ね、前縁の兩側に黄色の部分ありて、中央に於ける四縦條は大形の顆粒より成る。稜状部に黄褐の顆粒多く、其周圍(前縁を除き)は隆起し、兩側の中央に黄色部あり。半翅鞘前縁の基部に黄色部ありて、之れより同色の四紋を出し、横脈の黄色を呈するものあり。腹部は廣く、各節の後縁角は突出

し、其後縁は黄白。脚は黑色、基節、腿節の基部、脛節の基部、其中央並に末端に近き一部は黄白、跗節は末端を除き暗黄。體長(♀)三分。此は初め播州にて井口宗平氏の採集せるものなり。

分布——北海道、本州。

(285) アシナガサシガメ 新千蟲一。一五三頁(N. 216) (第十五圖(18)(♀))

學名 *Emesa mercida* Uhl.

昆蟲學上の地位、食蝨椿象科 (Reduviidae)。Thoms, Ins. Jap. Add. I, pl. XIV, f. 18, ♀, p. 153, N. 216 (1913)

體は淡黄褐。觸角は細長にして、體と稍や同長、第二及び第三節の基部並に第四節は暗色。頭の兩側及び頭頂の二縦條、胸側及び腹側紋は暗色。前後の兩翅を缺く。前肢は捕獲肢となり、基節は甚だしく延長して、腿節には暗色紋を具へ、長短ある銳齒多く、其内端にある一齒は著しく長く、脛節及び跗節端は暗灰色、中後の兩肢は細長にして、何れも體より長く、特に後肢は著しく長く、基節に暗色の二縦條を具へ、腿節の末端及び脛節の基部は灰色と黄色の斑をなす、跗節は暗色。腹背に赤色の三縦條を具へ(中央線は後方に至りて暗色となる)、兩側にあるものは點線より成り、中央線の兩側に暗色紋多し。體下は暗色、黄色の小紋を散在す。腹面の中央に黄色の一縦條あり。體長(♀)六分。此は本州に産すれども、稀なり。

分布——本州(岐阜、播州)。

(286) ゴミアシナガサシガメ 新千蟲一。一五四頁(N. 217) (第十五圖(19)(♀))

學名 *Orthunaga livitata* Uhl.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thous, Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 19, ♀, p. 154, N. 217 (1913)

體は暗黄褐、黄褐の長毛を密生す。觸角は細長にして、體よりも遙に長く、第二節の末端及び第三節の基部は黄白。後頭は延長して、頸状を呈す。前胸背の前半は細長にして、其後縁緊縮するを以て亦頸状をなす。前胸背の後半部は稍や圓錐形に近く、中央に黄色の二縦條あり。翅は何れも膜質にして、半透明、翅底脈は暗色、前縁は赤褐、末端の脈は暗黄。後翅脈は少なく、同じく暗色。腹部は暗褐。脚は黄色にして、頗る長く、前肢は捕獲肢となり、基節は延長して之れに二個、腿節に三個の暗色紋を具へ、中後兩腿節の末端に近き一部及び跗節は暗色、何れも長き黄褐の軟毛を密生す。體長(♀)五分。此は京都その他にて捕獲せるものなるが、稀なるが如し。

分布——本州(盛岡、伊賀、岐阜、奈良、京都)。

(287) トビイロサシガメ 新千蟲一。一五四頁(N. 218) (第十五圖(20)) (♂)

學名 *Oncocephalus notatus* Klug.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thous, Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 20, ♂, p. 154, N. 218 (1913)

體は淡黄褐。第一觸角節の内側に暗色の縦條あり。頭の兩側、頭頂の二縦條、後頭の隆起せる部分、前胸背の中央にある一縦條及び其兩側の細線は黒色。前胸背兩側の縦條及び後縁は暗色、稜状部は暗色にして、顆粒多く、中央黄褐。前翅の中央に天鵞絨様の一黒條ありて、これは翅端に達せず、其の末端は尖小、此は横脈によりて遮断せらる。翅端は少しく暗色を帯ぶ。口吻末端の二節は黒色、末端は黄褐、體下及び脚は淡黄褐。前肢は捕獲肢となり、腿節下に鋭齒を連ね、黒色の二縦條(此黒紋を缺くものあり)を裝ひ、同腿節の基部、中央及び末端は暗

色、中後兩腿節の二縦條、脛節の基部及び末端に近き一紋は黒色、爪は褐色。前中兩胸面、後胸面及び腹面の兩側は暗色。體長(♂)四分五厘——五分五厘。此は九州地方に稀ならず。

分布——本州、九州、沖縄、臺灣、支那、印度。

(288) トゲサシガメ 新千蟲一。一五五頁(N. 219) (第十五圖(21)) (♂)

學名 *Acanthodesma pennatum* Uhl.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thous, Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 21, ♂, p. 155, N. 219 (1913)

體は赤褐、黄色の鋭齒多し。觸角は體より長く、五節より成り、第四節最も短かし。頭に黄色の鋭齒多く、其内、前縁にある二個は長大にして、鬼角様に突出す。後頭に黄色の三縦條、前胸背に四縦條あり。前胸背に約十七個の鋭齒ありて、其内、中央にある二個最も長く、後縁にある四個は之れに次ぐ。稜状部に三個の鋭齒ありて、後方にある一個は長し。前翅は短かくして、尾端に達せず、暗褐の脈は判然す。腹側に鋭齒を列ね、其内、五個は長大、尙ほ尾端に四長刺を裝ひ、中央にある二個は分枝す。腹面に灰白毛多く、兩側に黒色の一縦條あり。脚は淡黄褐にして、黄色の鋭齒多く、腿節は基部を除き赤褐、脛節及び跗節端は暗褐。體長(♂)三分——四分。此は本州に稀なれども、臺灣には少なきが如し。

分布——本州(岐阜)、臺灣(臺南)。

(289) クロボシサシガメ 新千蟲一。一五六頁(N. 220) (第十五圖(22)) (♀)

學名 *Metatiarodes maculatus* Mats. (英文二九頁參照)

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 22, ♀, p. 157, N. 220 (1913)

體は暗黄色、灰白の短毛を密生す。觸角は黄色にして、體より短かく、第一節は黑色にして、基部は上面にて黄白、第二節の基部は黄白、其次ぎにある一部分及び末端は黑色。頭は長く、中央の一縦條は黑色。單眼の前方に一横溝あり。頭の兩側及び下面は暗色。口吻は黄色、末端節は光澤ある暗褐。前胸背の兩側に各三個の長き齒狀突起ありて、黑色を呈し、其末端は尖らず、前縁にあるものは短かく、中央に黑色の一縦條を具へ、後縁半部の兩側に更に判然せざる暗色の二條を縦走す。稜狀部は暗色、金色の短毛多く、後縁に近く暗褐の一齒狀突起を具へ、其基部は赤黄。前翅は灰黄白、暗褐の三紋ありて、縦列し、翅底にある紋は接合線によりて二分せられ、翅端の半部は灰色、灰白の網狀紋を密布し、微小の縮刻多し。體下は暗色、腹面の兩側に各二個の赤條を縦走す。脚は黄色、前肢は暗色、同腿節基部の上面及び末端並に脛節の基部に近き一部は黄色、中後兩腿節の下面及び末端に近き一部は暗色、脛節の基部に近き二紋並に末端は黑色。體長(♀)八分五厘。此は沖繩八重山にて黒岩恒氏の採集せる珍種なり。

分布——沖繩(八重山)。

(290) オホクロボシサシガメ 新千蟲一。一五八頁(N. 221) (第十五圖(23) (♂))

學名 *Metatiarodes apicalis* Mats. (英文三〇頁參照)

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XIV, f. 23, ♂, p. 158, N. 221 (1913)

體は灰黄。觸角は體より長く、暗褐にして、黄褐の長毛多く、第二節末端の半部は黄色、其末端は少しく暗褐、

第三及び第四節は黄色にして、第三節の兩端は暗色。頭頂の中央及び頭下は暗褐、兩側に黄色の各一縦條を具へ、後頭は黄色、單眼の部分は黒褐。前胸背の兩側にある各三刺は前種よりも遙に短かく、前二双は黄色、後一双は暗黄、中央の一縦條、後角及び後縁は暗色。稜狀部は暗色、刺狀突起は灰黄にして、一暗色紋を裝ふ。前翅は遙に尾端より突出し、灰黄褐、翅の中央に近く稜形の一黒紋を具へ、其外側に更に二個の小黒紋を裝ひ、翅端の半部に黄色の網目紋多し。口吻及胸面は黒褐、口吻の末端は黄褐。腹面は黄褐、接合膜及び縦隆起は暗色。脚は暗褐、腿節の末端、脛節及び跗節の大部は黄色、脛節の中央に近き一部及び同節の末端は暗褐。體長(♂)九分(翅端迄)。此は臺灣函子嶺にて捕獲せり。

分布——臺灣(函子嶺)。

(291) ミツサシガメ 新千蟲一。一五九頁(N. 222) (第十六圖(1) (♀))

學名 *Ptilocorus immitus* Uhl.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 1, ♀, p. 159, N. 222 (1913)

體は淡黄褐、同色の長毛多し。觸角は旋毛狀にして、體の半に達し、第二節は長し。前胸背の中央及び兩側に凹陥あり。半翅鞘の基部は半透明にして、之れに判然せる縦脈を裝ふ。膜質部は暗灰色、基部に暗色の三紋ありて、中央にあるものは少しく小、長形にして、遙に尾端を越ゆ。體下及び脚は淡黄褐、同色の長毛多く、殊に脛節にあるものは長し。體長一分内外。此は水中若くは水邊に住する食蟲椿象にして、稀なるが如し。

分布——本州(岐阜)。

(292) ハラビロトゲサシガメ 新千蟲一、一六〇頁(N. 223) (第十六圖(2) ♀)

學名 *Centrocnemis formosana* Mats. (英文三二頁參照)

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 2, ♀, p. 160, N. 223 (1913)

體は暗黃褐。第一觸角節は棍棒状にして、短かく、第二節は最も長く、第三及び第四節は同長にして、細く、之れに細毛を裝ふ。頭頂に四突起を具へ、複眼の内側に各一突起あり。頸は圓柱形にして、長し。前胸背の前半には小突起を散在し、後半の兩側は甚だしく突出し、此縁には四齒を具へ、中央に二縦隆ありて、其後縁の終止する處に各一齒あり。稜状部は小、末端は黃色。半翅鞘は細く、脈は灰色にして、隆起す。膜質部に長き三胞室を具へ、其内、前縁に近きものは小なり。腹側は甚だしく突出し、之れに多くの小齒を列ぬ。口吻は短大、第一節の基部に近き一紋、第二節及び第三節(基部を除き)は黒褐。體は暗褐。脚は暗黃褐、腿節の二紋、脛節の中央及び末端並に跗節は暗褐。體長六分五厘。此は臺灣に産すれども稀なり。

分布——臺灣(阿里港)

(293) ハネナシサシガメ 新千蟲一、一六一頁(N. 224) (第十六圖(3) ♀)

學名 *Velinoidea thalictus* Mats. (英文三二頁參照)

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 3, ♀, p. 162, N. 224 (1913)

體は暗色。觸角は黒色にして、體の半以上に達し、末端は黃褐。口吻の末端は黃色。前胸背の前半に瘤状の二隆起ありて、其中間に縦溝を裝ひ、後半は前半より少しく廣く、粗糙の縮刻及び點刻多し。稜状部は小にして、

末端に短かき一突起あり。前後兩翅を缺く。腹部は廣く、兩側突出し、兩縁は上向し、接合膜の後縁角に黃褐の各一紋あり。體下及び脚は光澤ある黒色。腿節に低き瘤状の突起多く、爪は黃褐。體長五分五厘。此は北海道及び本州に産すれども、多からず。

分布——北海道、本州。

(294) アカスチサシガメ 新千蟲一、一六三頁(N. 225) (第十六圖(4) ♂)

學名 *Conorhinus rubrofasciatus* Deg.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 4, ♂, p. 163, N. 225 (1913)

體は暗褐。觸角は短かくして、漸く稜状部の末端に達し、第三及び第四節黃色にして、頗る細し。前頭は甚だ長く、小顆粒を散在す。後頭は短かし。單眼は大。口吻は黃褐、末端は淡黃褐。前胸背に二縦隆を具へ、顆粒多く、兩側は淡黃褐。稜状部に顆粒多く、後方に突出せる一長齒を裝ふ。半翅鞘の縦脈及び中央の一紋は淡黃褐。膜質部は尾端に達せず。腹部は廣く、接合膜及び各節の後縁並に後縁角は黃色。體下及び脚は黒褐、小顆粒を散在す。脛節の兩端及び跗節は淡黃褐。體長六分五厘。此は臺灣、臺南地方に稀ならず。

分布——臺灣、支那、印度、亞弗利加。

(295) ヤヘアヤマサシガメ 新千蟲一、一六三頁(N. 226) (第十六圖(5) ♀)

學名 *Pirates yuyuanae* Mats. (英文三三頁參照)

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms, Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 5, ♀, p. 163, N. 226 (1913)

體は暗褐。觸角は橙黄色、第三及び第四節は細く、少しく褐色を帯ぶ。前頭及び口吻は橙黄色。頭には金色の、前胸背には黄褐の短毛多く、前半は稍や球形に膨起し、後半は稍や長方形をなす。稜状部の突起は長く、後方に向く。半翅鞘は橙黄色、三縦條、後縁、横脈下の一紋及び膜質部は黒色。腹部の兩側及び脚は橙黄色。前腿節は甚だしく肥大し、後肢の基節は末端を除き暗褐。體長五分六厘。此は黒岩恒氏の沖繩八重山にて捕獲せる珍種なり。

分布——沖繩(八重山)。

(296) キボシサシガメ 新千蟲一。一六四頁(N. 227) (第十六圖(6)♀)

學名 *Ectomocoris biguttatus* Stål

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms, Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 6, ♀, p. 164, N. 227, (1913)

體は黒色、前胸背の前半は光澤を放ち、少しく緑色を帯ぶ。觸角は褐色。頭には灰白の短毛多し。前胸背の前半は稍や球形に近く、中央に一縦溝を具へ、光澤なき六縦條あり。稜状部の隆起は判然す。半翅鞘は暗褐、楕圓形の一黄紋を具へ、膜質部は暗色、其基部に小形の黄色紋を具へ、各接合膜節の後縁角は黄色。口吻の末端及び跗節は黄褐、脛節に金色の短毛多し。體長(♀)四分五厘。此は臺灣及び沖繩に稀ならざるが如し。

分布——沖繩、臺灣(恒春、臺中)。

(297) クロバアカサシガメ 新千蟲一。一六五頁(N. 228) (第十六圖(7)♀)

學名 *Lalidocoris insignis* Dist.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms, Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 7, ♀, p. 165, N. 228 (1913)

體は朱色。觸角、頭、口吻、前胸背の前半、胸下及び脚は暗黒色。稜状部、半翅鞘(前縁を除き)及び膜質部は黒色。觸角は長く、體と略同長、長毛多し。前頭は淡黄褐。單眼は赤色。前胸背に深き一縦溝を具へ、後半の兩側にも各一縦溝あり。稜状部の中央は凹陥し、末端に刺状の二突起あり。半翅鞘の前縁及び楔状部は朱色、他は黒色、尾端より少しく短かく、尾節の下面は褐色、前腿節は少しく肥大し、其下面に一齒を裝ひ、跗節は淡黄褐。體長(♂)四分。此は播州地方に産すれども稀なり。

分布——本州。

(298) アカヘリルリサシガメ 新千蟲一。一六六頁(N. 229) (第十六圖(8)♂)

學名 *Ectycolotes andreae* Thunb.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms, Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 8, ♂, p. 166, N. 229 (1913)

體は暗黄色。腹部の大部は朱色。觸角は體の半以上に達し、第三節は二副節、第四節は四副節より成り、末端は細く、細毛多し。頭は割合に小。口吻は太し。前胸背は頗る光澤を帯び、點刻を缺き、中央に一縦溝を具へ、後半の兩側に縦條を有する事前種と異ならず。稜状部の末端に下向せる二刺状突起を裝ふ。半翅鞘は黒褐、基部は黄色。胸面は全部黒藍色。腹部の兩側は雄にては赤色、雌にては黄色、尾端の二節、第四及び第五節の兩側並に各節の接合部は黒藍色。脚は黒藍色、轉節及び腿節の基部は赤褐、前脛節及び腿節には暗黄の縦條を具へ、跗節は褐色、爪は黄褐。體長(♂)三分五厘——四分。此は沖繩及び臺灣に稀ならず。



分布——本州、沖繩、臺灣。

(299) **イグチアカサシガメ** 新千蟲一。一六六頁(N. 230) (第十六圖(9)) (♂)

學名 *Ectrychotes iguchi Mats.* (英文三三三頁參照)

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 9, ♂, p. 167, N. 230 (1913)

體は朱色。觸角、頭及び脚は暗褐。觸角は體の半以上に達し、褐色毛多く、第三節は二副節、第四節は四副節より成る。頭、前胸背の前半、稜狀部及び胸下は黒色。觸角に長毛を粗生す。前頭及び口吻は黄褐。前胸背後半の三縱溝は暗色。稜狀部の中央は三角形に凹陥し、末端は黄褐にして二個の刺狀突起あり。半翅鞘及び膜質部は暗褐色。半翅鞘の前縁及び基部は朱色。腹面の兩側は廣く暗褐、各節の後縁及び尾節は黒色。腿節の末端及び跗節は黄褐。體長(♂)二分六厘。此は播州にて井口宗平氏の採集せる珍種なり。

分布——本州(播州)。

(300) **ピロウドサシガメ** 新千蟲一。一六七頁(N. 231) (第十六圖(10)) (♀)

學名 *Ectrychotes luomatogaster Burm.*

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 10, ♀, p. 167, N. 131 (1913)

黒は黒藍色。觸角は長く、體の半以上に達し、第三節は二副節、第四節は四副節より成り、末端は黄褐、細毛多し。口吻の末端は黄褐。前胸背の前半に瘤狀の隆起を散在し、後半には横皺多く、兩側は滑澤にして、暗褐。

稜狀部の末端にある二刺狀突起は下向す。半翅鞘は細く、暗色、基部は黄色、膜質部は尾端に達せず。接合膜は赤色、第四、第五及び第六節の後縁に黒紋あり。體下及び脚は黒藍色。腹面の中央は紅色。轉節及び腿節の基部は赤色、前脛節及び腿節の縱條は暗黄、全跗節は黄褐。體長(♀)三分八厘。此は京都地方に稀ならざるが如し。

分布——本州(京都)。

(301) **オキナハハラアカサシガメ** 新千蟲一。一六八頁(N. 232) (第十六圖(11)) (♀)

學名 *Ectrychotes okinawensis Mats.*

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 11, ♀, p. 168, N. 232 (1913)

體は光澤ある黒色。頭頂に三縱溝を具へ、其内、中央にあるものは細し。前胸背前半の中央にある凹陥は中央の横溝に達せず。後半の中央にも縦溝ありて、これも亦、後縁に達せず。稜狀部後縁の二突起は褐色にして、少しく下向す。半翅鞘は暗褐、前縁の基部は黄色、膜質部は尾端に達せず。接合膜は黄色、腹面は紅色、中央に三個、兩側に五個の黒紋ありて、兩側にあるものは相連續す。尾端は黒色、胸面及び脚は黒色、跗節の基部は暗褐、爪は黄褐。體長四分五厘。此は沖繩及び臺灣に産すれども、稀なるが如し。

分布——沖繩、臺灣。

(302) **クビグロアカサシガメ** 新千蟲一。一六八頁(N. 233) (第十六圖(12)) (♂)

學名 *Haematoloecha nigricollis Mats.* (英文三四頁參照)

日本千蟲圖解

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XV, f. 12, ♂, p. 168, N. 233 (1913)

體は朱色。觸角、頭、前胸背の前半、稜狀部、口吻及び胸面は黒色。觸角は體の半以上に達し、第三節は二副節、第四節は四副節より成り、細毛多し。頭には光澤を缺く。口吻の末端は黄褐。前胸背は光澤を帯び、後半の三縦溝は黒色。稜狀部の二突起は短かし。半翅鞘は體より短かく、暗褐、前縁は朱色。接合膜の各節後縁は黒色(尾端を除き)、腹面の兩側は黒色にして、接合膜の黒紋と相連続す。生殖節は暗褐。脚は暗褐、腿節の末端、脛節の基部及び跗節は黄褐。體長(♂)二分八厘。此は京都にて鈴木元次郎氏の採集せる珍種なり。

分布——本州(京都)。

(303) シマサシガメ 新千蟲一。一七〇頁(N. 234) (第十六圖(13)) (♂)

學名 *Sphedanolestes impressicollis* Stål

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XV, f. 13, ♂, p. 170, N. 234 (1913)

體は光澤ある黒色。觸角は暗褐、體長より長く、第一節に二個の黄色部あり。單眼の中間に黄色の一小紋を具へ、單眼の距離は廣し。前胸背の前半は稍や球形、前縁に二突起を裝ひ、中央は凹陥し、後半部は遙に廣く、中央は廣く三角形をなして凹陥す。稜狀部の末端は黄褐。半翅鞘は暗黄褐。基部は少しく淡色、膜質部の脈は暗褐にして、判然す。腹側は黄色。接合膜の各節後縁は黒色。體下及び脚は黒色。腹面に白紋を散在す。腿節の三紋、脛節の基部にある環紋は黄白、其内、前者の基部にあるものは幅廣く、脛節の末端は黄褐。體長(♂)四分——四分六厘。此は本州に稀ならず。

分布——本州、九州、支那、印度。

(304) ナカグロアカサシガメ 新千蟲一。一七〇頁(N. 234) (第十六圖(14)) (♂)

學名 *Rhinocoris (Harpyactor) fuscipes* F.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XV, f. 14, ♂, p. 170, N. 234 (1913)

體は赤褐。觸角、口吻、頭、前胸背後半の大紋、稜狀部、半翅鞘、胸面及び脚は黒色。觸角は體長より少しく長く、末端は黄褐。複眼の中間にある一紋及び複眼の後方にある各一紋は赤褐。前胸背前半の前縁は黄白、其後方に於ける凹陥部の丁字形紋及び後縁は黒色、兩側及び後縁は赤褐。稜狀部の末端は下向し、赤褐。半翅鞘の前縁及び膜質部の界線並に腹側は赤褐。膜質部は尾端より遙に突出す。腹面は淡黄褐。各節の前縁並に尾節の中央は黒色。脚基節及び轉節の大部は赤褐。體長(♂)五分五厘。此は臺灣に稀ならず。

分布——臺灣。

(305) アカヘリサシガメ 新千蟲一。一七一頁(N. 236) (第十六圖(15)) (♀)

學名 *Rhinocoris (Harpyactor) ornatus* Uhl.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add. I, pl. XV, f. 15, ♀, p. 171, N. 236 (1913)

體は黒色。各單眼前方の一紋、單眼間の三角紋、咽喉の一縦條、前胸片、脚基節及び轉節の各一紋は黄色。前胸背の周圍(中央の緊縮部を除き)及び腹側は紅色。半翅鞘は少しく尾端を越ゆ。膜質部に小波狀の斜皺多く。第一口吻節の末端は少しく黄褐を帯ぶ。體長(♂)四分——五分。此は本州に稀ならず。

分布——本州、九州。

(306) セウスサシガメ 新千蟲一。一七一頁(N. 237) (第十六圖(16)(♀))

學名 *Rhinocoris* (*Harpactor*) *flavinctum* Mats. (英文三四參照)

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 16, ♀, p. 171, N. 237 (1913)

體は黒色。觸角の末端は暗褐。單眼間の一點、頭下、咽喉、前胸背前半の兩側、前胸背の後半、胸側紋、腹部の兩側及び腹面の大部は黄白。前胸背前半の中央に一縱溝を具へ、後半には微小の褐色點刻を密布す。稜狀部は頗る光澤を帯び、レ字形の隆起は高し。半翅鞘は暗褐。膜質部は半透明にして、暗灰色を帯び、遂に尾端より突出す。腹側は黄白にして、第四及び第五節に黒紋を具へ、第三乃至第六腹面節の兩側に暗褐の横條を具へ、後方に至るに従ひ次第に増大す。脚は黒褐、前中兩腿節は末端を除き暗黄褐、尤も其内に二、三の判然せざる暗褐紋を具へ、基節に黄褐の一紋を裝ふ。體長四分。此は臺灣(魚池)地方に稀ならず。

分布——臺灣(魚池)。

(307) ヤニサシガメ 新千蟲一。一七二頁(N. 238) (第十六圖(17)(♀))

學名 *Velinus nodipes* Thl.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 17, ♀, p. 172, N. 238 (1913)

體は黒色。觸角は體の半以上に達し、第一節は長く、稍や同距離に二個の黄色部ありて、同節を稍や三等分す。咽喉は黄色。前胸背の前縁兩側及び中央の兩側は齒狀をなして突出す。半翅鞘は黒褐。膜質部は半透明、暗色を帯ぶ。腹側は甚だしく隆起し、波狀をなして凹凸す。體下及び脚は黒色。腿節及び脛節に瘤狀の隆起多く、

殊に腿節にあるものは大にして、其中間に黄紋あり。體長(♂)四分五厘内外。此は本州に稀ならず。幼蟲は脂様の粘液を滲出し、塵芥を附着して、外患を免るもの、如し。

分布——本州、九州。

(308) オホトビサシガメ 新千蟲一。一七三頁(N. 239) (第十六圖(18)(♀))

學名 *Isyndus obscurus* Stål

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 18, ♀, p. 173, N. 239 (1913)

體は褐色、黄褐の短毛多し。觸角は體と同長、第二節の基部、第三節の兩端及び第四節の末端は黄色。頭頂は黒色。前胸背前半の兩側に齒狀の一突起ありて、後半は稍や五角形を呈し、後縁の兩側に低き一突起あり。稜狀部は暗褐。半翅鞘は褐色、膜質部は少しく暗色を帯び、少しく尾端を越ゆ。腹側は甚だしく隆起し、接合膜の各節後縁は細く黄色。口吻及び體下は黄褐。腹面の兩側に暗褐の一縱條あり。脚は褐色、前中兩腿節に低き凹凸を裝ふ。體長八分。此は本州に産すれども、餘り多からず。

分布——本州。

(309) アカサシガメ 新千蟲一。一七四頁(N. 240) (第十六圖(19)(♂))

學名 *Cydnocoris ruscatus* Stål

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 19, ♂, p. 174, N. 240 (1913)

體は朱色。觸角、腹面及び脚は黒色。觸角は體より少しく短かく、第三節は暗褐、第四節は黄褐にして、何れも灰白の短毛を密生す。各觸角の後方に、前方に向ける一齒ありて、其末端は黒色。口吻の第二及び第三節は基部を除き黒褐。前胸背前半の中央及び兩側は凹陥し、後半の兩側は突出す。稜狀部にある人字形の隆起は太し。半翅鞘は朱色。接合膜の各節にある横帯は黒色。轉節の末端及び爪は黄褐。體長(♂)六分内外(翅端迄)。此は九州及び臺灣に稀ならず。(23)に♀を記載せり。

分布——本州、九州、臺灣、支那、比律賓。

(310) クロヒゲナガサシガメ 新千蟲一。一七四頁(N. 241) (第十六圖(20) ♀)

學名 *Endochus marginalis* Mats.

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 20, ♀, p. 174, N. 241 (1913)

體は黒色。觸角は暗褐、第一節は兩端を除き黄褐、體より遙に長し。頭、前胸背の前半、後半の兩側、稜狀部及び脚基節は赤色。前胸背の兩側にある棘狀突起は銳尖にして、細く、黒色。半翅鞘は黒色、前縁は赤黄、膜質部は半透明、少しく暗色を帯ぶ。口吻は黄色。胸片は赤黄。腹面は暗褐、中央及び兩側は淡黄褐。脚は黄色、腿節の二縱條は黒色、腿節の末端及び脛節の基部は赤黄、脛節及び腿節の基部に近く、暗色の各一紋を裝ひ、跗節の末端は暗色。體長(♂)四分五厘。此は沖繩に稀ならざるが如し。

分布——沖繩(那覇)。

(311) ペニサシガメ 新千蟲一。一七五頁(N. 242) (第十六圖(21) ♀)

學名 *Funigoroides coccius* Mats. (英文三五頁參照)

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 21, ♀, p. 176, N. 242 (1913)

體は光澤ある紅色。頭及び脚は光澤ある黒色。觸角は稍や體と同長、暗褐、第一節の基部は黒色。口吻は暗褐にして、太く、第二節は最も長く、末端は赤褐。頭の後方は赤黄。前胸背に突起を缺き、兩側は鈍角をなして突出す。翅鞘は紅色、膜質部は黒藍色、末端は半透明、少しく褐色を帯ぶ。體下及び脚基節は紅色、腿節に低き瘤狀の突起多く、脛節及び跗節は暗褐、同色の長毛を粗生す。體長二分五厘。此は臺灣、臺南地方に稀ならず。甘蔗害虫を捕食して有益なり。

分布——臺灣(臺南)。

(312) コバネマキバサシガメ 新千蟲一。一七六頁(N. 243) (第十六圖(22) ♀)

學名 *Reduviolus (Nabis) apicalis* Mats. (英文三六頁參照)

昆蟲學上の地位、食蟲椿象科。Thoms. Ins. Jap. Add., I, pl. XV, f. 22, ♀, p. 177, N. 243 (1913)

體は淡黄。觸角は體よりも長く、觸角砧の外側は暗褐、第二節の末端、第三及び第四節は淡黄褐。口吻は四節より成り、第一節基部の兩側に暗褐紋あり。頭下、後頭の兩側、中央の一縱條及び兩胸背前後の兩縁にある一縱條並に中央にある細き三縱條は暗褐、但し複眼の後方にある紋は灰色を帯ぶ。稜狀部の中央にある三角紋は暗色にして、兩側に黄色の二紋あり。半翅鞘短かく、漸く第一腹節の末端に達するに過ぎず、中央に判然せざる褐色の一紋を具へ、膜質部は暗色。腹部は灰色、兩側は黄白にして、廣く突出し、光澤ある黄色の短毛多く、中央に暗色の三縱條を具へ、中央にあるものは短かく、且つ判然し、第三乃至第七接合膜節の前角に暗色紋ありて、第